

く

く くう (口) 【名詞】 工、口 工手間の略 職人が物を作る手間、又は手間賃、手間のかかる事 職人一人の仕事量、又は賃金、一人一日かかる労働力の単位 くは口の呉音 (上、阿、張、度、北) [会話] 大工さんや左官な (が) 一日働いてなんク なんク 言うてなあ。一日言うのを 一ク 二ク 言うね (言うのです)。

く (苦) 【名詞】 1) 心配 気掛かり 2) 苦しみ [会話] 1) よけ (あまり) クにすんなえ (するな) 言うクも有る。まあそげん (そんなに) クにせんでも (しなくても) ええわい (よろしい)。

ぐ (具) 【名詞】 すき焼きに入れる野菜 炊き込み御飯に入れる米以外の野菜や魚。うどん、そば等に入れるうどん、そば以外の野菜や魚、肉及びその製品 汁に入れる実 かやく参照 (南) [会話] グ 言うのはすき焼きのグやたら (だとか) ごもく (五目御飯) のグ。五目のグ 言うて、昔の人は 五目のこ (子) 言いおったんやんな (言って居たのでしょうか)。グの事を こお言うたり (言ったり)、グ言う人も 有るし (有ります)。グ 言うのは 今の事で、昔の人は 五目のこお 炊こやんか (炊きましょう) 言よおった (言て居ました) グの事を。

ぐあい (ぐあひ) (具合) 【名詞】 1) 都合 様子 (北) 2) 健康状態 病気 [会話] 2) グアイのわり (悪い)、体のグアイな (が) わり 言うて、1) 仕事しとて も (していても) こや (これは) なんやら (何か) グアイな わり、あわせん (合わない)、ちごとなあ (違っている) とか言う時も使うし、そや (それは) ええ (よい) グアイに したかな (しておかなければ) 言うて。ええグアイ 言うのは、えごと (充分に・良いように) 調子あわせ 言う事やろなあ (でしょう)。ええグアイに したかな はざん (いけない)。ええグアイに してもろてのお (して貰って) とか 言うて。結婚する時に貰いん (に) いたり (行ったり) すると、話しな (が) 決まると、ええグアイん (に) してもろてなあ (貰って) 言う時も有るし。懐のグアイ 言うて、懐な (が) ぜん (銭) な (が) 無いとか、さびし (寂しい) 時、懐グアイな (が) わりなあ (悪い)。懐グアイな (が) わりな (悪いのは) 一番わりなあ。腹グアイな (が) わりい とか。

ぐあいしき (ぐあひしき) (具合職) 【名詞】 具合 案配

健康状態 しき、は 識の意で接尾語のように添えたもの [会話] グアイシキな (が) わり (悪い)。思うよおに いかせんと (いかないと)、具合よお (よく) いかんと (いかないと)。ぐつ な (が) わり 言うて、ぐつしきわり 言うて、かげん (状態) な (が) わり (悪い) たら (とか)。

ぐあいよお (ぐあひよう) 好都合 都合よく (名)

くい (くひ) (食い) 【名詞】 1) 食事 クイにはいる 食事を始める 2) 魚が餌を食う事 釣針にかかる事 [用例] 2) 今日は クイな (が) わりいてしけや (悪くて不漁だ)。

くいあげ (くひあげ) (食上) 【名詞】 生活の手段を失う事。[用例] とおさんなふさんで (主人が病氣して) クイアゲやよう (です)。

くいあます (くひあます) (食余) 【他サ五】 食べ残す。全部食べられなくてあます。

くいあらす (くひあらす) (食荒) 【他サ五】 1) あれこれと少しずつ食い散らす。2) 全部食べてしまう。

くいあわせ (くひあはせ) (食合) 【名詞】 同時に食べる と体に害を与へると言う物

くいいじ (くひいぢ) (食意地) 【名詞】 食べたいと思う心

くいいしき (食一式) 1) 一生懸命に食べる。2) 食べる事より他は考えない (志 (布施田))

くいおき (くいおき) (食置) 【名詞】 食物を一度に沢山 食べて腹の中に貯めておく事 くだめ (上、阿) [会話] クイオキ したかな (しておかなければ) 言うて、クイオキな (が) 出来る もんなら (ものなら) ええけどなあ (よいけれど) 言うて。ごっつお (御馳走) な (が) 有る時や (は)、クイオキや (は) 出来やせんしなあ (出来ないし)、クイオキや 出来やせんけど (出来ないが)、ええもん (よい物) な (が) 有ると、ちよいと (少し) よけ (余分に) 食べるな、クイオキシとかな こいな (こんな) 珍し (珍しい) もん (物) まあ、めったん (絶対に) 食われやせんよってん (食べられないから) 言うてな、その時や (は) ちよいと よけ 食べるな (食べます) くだめも一緒や (です)。

くいがおなある 御馳走の機会に恵まれる (志 (鶴方、甲賀、国府、安乘))

くいかかる (くひかかる) (食掛) 【自ラ五】 【他ラ五】

食べ始める 反抗する。食って掛る。

くいかけ (くいかけ) (食掛) 【名詞】 食べかけて途中でやめること、又その食べ物 くいさし [会話] おんな (俺が) クイカケたの (のを)、しやれ (それ)、また 食うやんかあ (食べるでないか) 言うて、クイカケたの、くいさし 言うのをな、くいさしを そや (それ) 食うとんない (食べているでないか) 言うて、くいさしも クイカケも 一緒やわいな (です)、りんご 噛って、して (そうして)、そこい (そこへ) 置いたや (置いたら) 人な (が) 来て、食うて、そや (それは) おんな (俺が) クイカケたのん (のに) 言うて、だんねえわれ (かまわない) 同じ口やのん (だのに) そげん (そんなに) 汚がらんでも (がらなくても) ええわれ (よるしい) 言うてな

くいかける (くひかける) (食掛) 【他カ下一】 食べ始める

くいかげん (くひかげん) (食加減) 食べるのに適した時、又その状態 [会話] 胡瓜漬けでも こや (これは) クイカゲンやれ (だ) 今し (今) 言うてな、トマトでも あからんで (赤くなって) 来ると クイカゲンやなあ (だ)、今し 食べると 美味しいのん (のに)、今し、クイカゲンやなあ 言うてな、果物でもなんでも じくして (熟して) 来ると、まあ、今し クイカゲンやなあ 言うて、食べ時やなあ 言うのを クイカゲンやなあ 言うて

くいかねる (くひかねる) (食兼) 【自ナ下一】 1) 食べるのが精一杯で有る。残す。2) 生活するのが苦しい。貧乏で有る。[用例] ₁₎ よけもっておこして (沢山よそってよこして) クイカネタレ。

くいき (区域) 【名詞】 区切り 限り 区別 境 [会話] ええ (よい) のと、わり (悪い) のと、クイキ つけたるわけや (つけてやるのです)

くいぎったる 喋り方がきつい時。食い切ってやる。食い千切る。

くいきり (くひきり) (食切) 【名詞】 釘抜き 釘抜きに似て釘を挟む部分が刃になっているもの 針金などを切るのに用いる カミキリ (噛切) の義 (大言海) [会話] 爪 挟む クイキリも クイキリ。釘抜きの のおも (の) クイキリ 言うな (言います)。おっきいの な (大きいのです)、金網 捻じんのん (るのに) 言うて、あれで捻じといて (ておいて) きちんと 切ってなあ

くいきる (くひきる) (食切) 【他ラ五】 全部食べる。残さず食べる。噛み切る。

くいぎる (食切) 【他ラ五】 くいきる 歯で噛み切る 食いちぎる [会話] 御馳走様 いや (言えば) ええんけど (よいのだが)、クイギルよおん (ように) ごつつおさん。

くいけ (くいけ) (食気) 【名詞】 食欲 [用例] 今しや色気 な のおて (が無く) て クイケ だけや (だけだ)。

くいごしやえ。くいごしらえ 【名詞】 食事の用意をすること 炊事 (熊) [会話] 食事 こしらえ の を な (作くるのを) クイコト (食事の用意) せ な (しなければ) はざん (いけない) 言うてな、おら まあ (俺は) 勝手 で クイコト せ な はざん し、洗 い こ と (後片付け) せ な はざん し 言うてな、食べる 事 を、夕飯 や 昼 じ た く (仕度) や (だ) 言うて す ん の を な (するのを) クイコト せ な はざん で 言うて。クイゴシヤエモ、クイゴシラエも 一緒 やん かい (です)。食べる用意する言う事 や (です) お か ず 作 つ た り、ご 飯 炊 い た り する の を クイコト な (です)、煮 炊 き や と も (だとも) 言うなあ。

くいこと (くひこと)。くいごと (食事) 【名詞】 食事、食事の用意 炊事 (志 (浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎)) [会話] クイコト 言うて 食事 する 事、食事 を 食 べ こ し ら え る (用意する) 事。こ し ら え る (作る) 事 を クイコト する、クイゴト す ん の ん (するのに) 忙 し て (忙しくて)。

くいこぼす (くひこぼす) (零す) 【他サ五】 飲、食物を口からこぼす [会話] 零 す の を な あ クイコ ボ ス。食べても こ す る や ん ない (落ちてするでしょう) それを クイコ ボ ス 言うの な あ (です)。よ け (あまり) クイコ ボ ス な ま あ 言うて、子 ら ら に (子供に)。年寄ると、口 い (へ) 皆、入 れ た お も て も (思っても) こ ぼ れ て く ん の (来ます)。

くいこむ (くひこむ) (食込) 【自マ五】 商売上欠損を生ず。資本金をへらす。

くいごろ (くひごろ) (食頃) 【名詞】 1) 食べるのに最も適した時期 たべ頃 2) よく食べる時期 [会話] ₂₎ クイゴ ロ 言う な (のは) よ け (沢山) 食 べ る、子供 で 言 う た ら 腕 白 の時 ん (に) よ お (よく) 腹 な (が) へ つ て 食 べ る や ん ない (でしょう)、あ い ら (彼ら) な (が) クイゴ ロ や も ん な あ (だから)、クイゴ ロ や て ら (だとか) く い ざ か り や (だ) よ つ て ん な あ (から) 言うてな、子供 ら な (が) 生 長 す る 時 わ な あ、く い ざ か り や よ つ て ん よ け (沢山) 要 ら れ (要ります) 言うてな。 ₁₎ こ や (これは) 丁 度 クイゴ ロ ん (に) な つ て 来 た、胡 瓜 漬 け で も、く い か

げんやれ (だ) 今し (今) 言うてな、今し くだき
やなあ (だ) 言うわい (言います)。トマトでもあか
らんで (熟して) 来ると、くだきやなあ (だ) こや
今し食べると おいしいのん (のに)、果物でもなんでも
じくして (熟して) 来ると 今し くいかげんや
なあ言うて。

くいさいた 食べ残した 全部食べずに残した 食べて途
中である [会話] あんた (貴方) わしの (私) クイ
サイタの 食てくれえ (食べて下さい)。

くいさいといてきた 食事を途中で止めて来た (志 (布
施田))

くいさがす 食べ散らす あちらこちらの物を食べ完全
に食べない [会話] あれも食い 此れも食いして、ク
イサガシテ クイサガスなまあ。一つなら 一つ食う
て言うて、わるわれよおった (叱られて居ました) ク
イサガス 言うね (言うのです)。

くいざかり 【名詞】 最もよく食べる年頃 発育盛り (張
熊) [会話] 兵隊 行くもな (者は)、体も おっきい
(大きい) し、クイザカリやし (ですし) 御櫃一杯あ
んの (有るのを) ひとかたげ (一度に) 皆 くといて
た (食べて行った)。

くいさげ 【名詞】 1) 女性が月経の時、別の所で食事す
る事 2) 食べ残した (志 (立神)) [会話] ₂₎ 残すとな
あ、クイサゲやのん (だのに) 下げたれ (てやれ) 言
うてなあ。くいかげやのん ほったれまあ (捨てて
しまえ)、くいさがしとんのん (ているのに) 言うし
なあ。クイサゲ言うて 食べ残しとる (ている) 事を
言うんなあ (言うのです)。

くいさし (食止) 【名詞】 1) 食べ残した (志、南、員)
2) 食事の途中でやめて他の事をする事、仕事を途中
で止める事。[会話] ₁₎ クイサン、あの人のクイサン
ほったれまあ (捨ててやれ) 言うて。そやけど (それ
だが) 汚のお (汚く) 食うて (食べて) 無いし 食や
ええわれ (食べればよい) 言う時も 有るし。やうち
(屋内・身内) 同志やったら (だったら)、クイサン
でも とつとかんかれ (とっておきなさい) 言うし、
知らん (知らない) 人の のお (物) なら、ほったや
(放ってやれば) ええわれ言うし。家内んな (のは)
クイサンでも とつとかんかれ 言うて。食い残しの
事なあ (を)、クイサン。₂₎ 食事の途中で、仕事しに
いたり (行ったり) する時、食う途中に どこかへ行
くのも クイサンといて (ておいて) どこやら (何処
か) 行て、飯を はんぶ (半分) 食うといて (食べて
おいて) 飯 クイサンといてたね (ておいて行ったの

だ)、クイサンといても (ておいても) 行かな (行か
なければ) はざんわれ (駄目だ) 言うて、急な用事な
(が) なんでもかんでも (どうしても) せんならん
(しなければいけない) 用事な (が)、出来て来た時
ん (に) クイサンといて。

くいさす (くひさす) (食止) 【他サ五】 食べ終わらない
で途中でやめる サスは、サシオク (措) の意 (大言
海) (桑市) [会話] クイサス言うな (のは) 食べかけ
る 言うのな (です)、食べ始める言うのを クイサス
言うね (言うのです)。おや (俺は) クイサイといて
(ておいて) 立って来たない (来たのだ) 言うて、は
んぶ (半分) 食べたら 用事な (が) 出来て来たど、
クイサイトイテ 来たない 言うてなあ。

くいさらさん 食べないの卑語

くいさらす 食べるの卑語 [用例] なんもかも (すべ
て) クイサラシテ 卑しねよつて (卑しいのだから)。

くいじき (食餌) 【名詞】 1) 食事代 食事料 2) 食べ
るのに適した時期 [会話] ₁₎ 当座 (さしあたって)
の食料やとか、(だとか) クイジキや (だ) 言うて、
当座の クイジキに 言うて、隠居したりすると や
るやんかい (あげます)。

くいしばる (くひしばる) (食縛) 【他ラ五】 筋肉が硬直
する 硬直して痛む、動けなくなる [用例] よけ (沢
山) じい書いたら (字を書いたので) 肩な (が) クイ
シバル。

くいしろ (くひしろ) (食料) (食代) 【名詞】 食費 食
事代 食事の量、しろ あたり参照 [会話] クイ
シロ言うて 食うあたり (食べる分) 言う事。あたり
分けて こや (これは) お前のあたりやでえ (です)
言うの、クイシロ言うて。お金を出すの (のを)、米
代を出すの (のを)、クイシロだけ 出すわい (出し
ます) 言うの。おかげだけ クイシロ出すわい (出
します) 言うて、その人の食う分 言うの (のです)。
クイシロ お金でも なんでも その人の 食うた分
を出すの (のを) クイシロや (だ) 言うて、食費の事
やなあ (です)。

くいしんぼ (くひしんぼ、くひしんぼう) (食坊) 【名
詞】 むやみに食べたがるさま 又、その人 くいすけ
に同じ いやしんぼ 末尾、ぼうのうの脱落 しんぼ
うは、いやしぼうの上略音便 (大言海) ぼう 坊 接
尾語。人の名に付けて親しみや軽いあざけりを表す
人の様態を表す語につけて、そういう人である事を表
す (松) [会話] クイシンボや (です)、いやしんぼ
(卑しん坊) と 一緒や、くいしろも 一緒や (で

す)。
くいずえる 十分に食べる 鱈腹食べる (志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、度、北) [会話] よけ (沢山) 食うて、食うて 食いまくる 言うのと、クイスエル 言うのは 一緒やし (ですし)。クイスエル言うのは、わがと (自分) な (が) よけ (沢山) 食う事を クイスエル。
くいすぎ (くひすぎ) (食過) 【名詞】 度を越して食物を食べる事 過食
くいすけ (食助) 【名詞】 大食漢 大食い 食う事のみの人。すけ 助 接尾語 名詞などにつけて人名化した語を作る ある特徴をとらえて、その人の呼称とする、物事を擬人化して言う (北、尾) [会話] よけ (沢山) 食べる言う事、クイスケ、くいちろ 言うねんなあ (言うのです)。くいちろ坊や (だ) くいちろ、くいちろやなあ (だ)、クイスケやなあ 言うのも 有るし。くいちろ いやし (卑しい) て なんでも食べるのおを (のを)、くいちろやどお (だ)、何でも 掴み食い (箸などを使用せず指で食べる事) して くいちろやよってん (だから)。
くいぞめ (くひぞめ) (食初) 【名詞】 生後、百二十日目の乳児に食物を食べさせる祝、実際は食べさせずまねをして神佛に報告する (一) [会話] クイゾメ 言うな (のは)、あかご (赤ん坊) な (が) 生れて クイゾメする時ん (に)、オコジ 食わす (食べさせる) と なあ ええ (よい) 言うて、クイゾメに オコジ くわしよおったやんかい (食べさせて居たで有りませんか)。
くいだおし (くひたふし) (食倒) 【名詞】 1) 食い逃げ 2) 仕事せずに遊んでいる人 (上、阿) [会話] 1) クイダオン言うのは、食うて 金払わんと (払わずに) 行くと、クイダオンやれ (だ)。2) 仕事せんと (せずに) 家で 遊んどるやんない (遊んでいるでしょう) 仕事に行かんと (行かずに) 飯だけ食うて、それをクイダオン。
くいたおす (くひたふす) (食倒) 【他サ五】 1) 無銭飲食 飲み食いして代金を払わず損害を与える。2) 沢山食べる (北) [会話] 1) 金、払わんと (払わずに) いて (行って) あれん (彼に) クイタオサレタ。
くいたがりや 【名詞】 何でも食べたい人。何時でも食べたい人。
くいたくられる 沢山食べられてしまう。食い荒らされる。(北)
くいたくる 盛んに食べる (北、尾) [会話] よけ (沢

山) 食う事 食うて 食うて 食いまくる言う事やわい (です)、クイタクルは。
くいだち (食立) 【名詞】 食事が終わるとすぐ、又、食後直ちに仕事にかかること (志 (布施田)) [会話] クイダチ言うな (のは)、御飯食べて 休まんと (休まずに) 仕事へ掛る (始める) のを、クイダチで 仕事して。どこやかや (何処かへ) 行くのでも、はよ (早く) 食うて 行かな (行かなければ) はざんわれ (駄目だ) 言うて。クイダチして来たよお (して来ました) 言うし。
くいだめ 【名詞】 1) 貯え 預貯金 2) 満腹の上に更に食べる。(上) [会話] 1) クイダメも しとらんと (してなくて)、貯え しとらん (していない) 事を、クイダメ しやせん (しない) 言うて、たぼり (貯え) な (が) のおて (無くて)、なんも (何も) ぜん (お金) も ためとらせん (ためていない)。
くいだめしとらん 貯えがない [会話] クイダメモシトランと (してなくて) 言うて、よお (よく) 貯え、しとらん (していない) 事を。
くいたんのした 十二分に食べた。食べ飽きた (志 (布施田)) [用例] 鮭も、三日も食べて クイタンノシタ。
くいちがう (くひちがふ) (食違) 【自五】 物事が行き違う。歯がうまく噛み合わない義から。
くいちらかす (くひちらかす) (食散) 【他サ五】 あれこれと箸をつけて、最後まで食べない。くいちらす。 [会話] あれも食い、これも食いて クイチラカス 言うのなあ (のです)、そげん (そんなに) そや (それ) あれも食い これも食い 言うてな、わるわれ よおった (叱られて居ました) 一つなら一つ食うて言うて。
くいちろ。くいちろばあ 【名詞】 絶えず何か食べている人 大食漢 **くいすけ**参照 (志 (布施田)、南) [会話] クイチロバア言うてな なんでも (何でも) 食いたい (食べたい) のを クイチロ 言うのな (です)。なんでも まあ もしゃもしゃ と なあ、よけ (沢山) 食う にげや (人は) クイチロやなあ (だ) 言うてな。
くいつく (くひつく) (食付) 【自カ五】 肌が刺す様に刺激される。あせばなクイツク。
くいつける 食べ慣れる いつも食べて居る [会話] 飯 くうて (食べて) 始め おた 変な 味やけど (だが) クイツケタや (ら) 言うてな、じよおく (いつも) 食うとんのをなあ (食べているのを)、クイツケタや (ら) 芋飯でも 美味しいなあ言うて。
くいつけん 食べなれない。普段食べて居ない。

くいつなぐ(くひつなぐ) (食糲) 【自ガ五】 食べ物を少しづつ食べて生活を維持する。食いのばす。

くいつぶし(くひつぶし) (食潰) 【名詞】 怠け者 仕事をせず徒食して居る者(北、南、上、阿)

くいつぶす(くひつぶす) (食潰) 【他サ五】 徒食 遊蕩して財産を失う。

くいつめる(くひつめる) (食詰) 【他下一】 貧乏して生活出来なくなる。

くいて(くひて) (食手) 【名詞】 食べる人

くいで(食出) 【名詞】 十分食べるだけの量 くいでなある参照

くいである 十分に食べる量が有る、食べるのに余る程だ(上、阿) [会話] おおた こや クイデナ(が) アンナア(有る) 言うて、いくら食べても減ってかせんなあ(いかない)、クイデナ(が) アル言うて。いくら食べても食べても よけ(沢山) 有って減ってかせん 言うよおな のおを(のを) クイデナアル 言うね(言うのです)。よけ 有って、食べても、どんだけ(どれだけ) 食べたねやら(のか) まだ判らんよん(ように) しとるやんない(しているでしょう)、無いおもととも、(思っている)、おおた どいらい(大変) クイデナ(が) アル、こや(これは) 言うてな。

くいでない 食べる程の量が少ない。

くいどき 【名詞】 1) 食事時(南) 2) 食べるのに適当な時期 [会話] 1) 食い頃も一緒 飯、食う時ん(に) 誰か、お客な(が) 来るとなあ 飯クイドキん(に) 誰か来て 言うてな、訪ねててもなあ(ていっても) おおた 飯クイドキん 気の毒やけどなあ(だ) 言うて、邪魔するなあ 言うて、それも、クイドキ 食べる時に言うの(のです)、その家い(に) 行くのんなあ(のに)、くとり(食べている) とこい(処に) 行くとなあ 飯クイドキんなあ(に) 言うて、食べる時と、2) 食べるのに一番よい時期と。

くいどく(くひどく) (食得) 【名詞】 食べた分だけ、とくになる事 [会話] クイドク 言うな(のは) 食べるだけ 得や(だ) 言うの(のです)、幾らでも 食べえまあ(食べなさい) えんりよ(遠慮) せんと(せずに)、クイドクやよってん(だから) まあ こや(これは) 言うてな。まあ、わりなつてく(悪くなって行く) のでなあ、ほったれ(捨てよ) 言うても、ほったんのん(捨てるのに) 勿体ない、どんだけ(どれだけ) でも クイドクやのん(だのに) のも(お前も) 食べえまあ(食べなさい) そや(そ

れ) 言うて 言う時な(が) 有るんなあ(有るのです)。あいな(あんな) 事せんでて(しなくても) 食うたなあ おもて(思って) ほったや(捨てれば) ええよおな(よいような) もんやけどなあ(ものだが)、その ほったんのな(のが) 勿体ない もんで(ので)、どんだけでも 食べるだけ そんだけ(それだけ) 得やよってん(だから)、クイドク やれ(だ) 食べえまあ(食べなさい) 言う時な(が) 有るわい(有ります)。

くいとくぶね 【名詞】 何でも好き嫌いなく、よく食べる人。食費の心配なく食べられる立場の者。[会話] クイトクブネ、クイトクブネやよってん(だから) 言うてな、よお(よく) 食べる人をなあ クイトクブネ 言うのなあ(です)。しんしょもち(主人) やないし(でない)ので 部屋住みんなると(になると)、金のこと 心配せんでも(しなくても) ええし(よいし)、クイトクブネ やよって よばれえ(食べ) さいしや(さえすれば) ええね(よいのだ) 言うてなあ。好き嫌い 無しん(に) 食うし、なんの(少しも) お金、心配もせんとなあ(せずに) 兄貴らな(が) 食わしてくれとんねよって(食べさせてくれているのだから)、食いさいしや 得や(だ) 言うよおな事やわいな(です)。クイトクブネ なんの(少しも) 心配もせんと(せずに)、まあ ただ 食うだけ得や(です)。

くいどら 【名詞】 食道楽 又、その人 [会話] クイドラ、食うのな(が) 派手で。

くいにかかる 食事の最中

くいのかし 【名詞】 月経を嫌って家人と一緒に食事をとらず、軒先或いは納屋等で女の人が食事する事 [会話] 月経になると、なつとらんでも(なっていない) なる時期(頃) になると、いつなんどき なるやら(か) 判らせん(判らない) 言うと、穢れる 言うて、ならん(ならない) うちから クイノカスんなあ(のです) 娘になると。

くいのき。くいのく。くいのけ 【名詞】 若い娘が月経になると家族と一緒にの所で食事をさせない事 [会話] しょんがつ(正月) ん(に) になると、月経やのおても(でなくても) クイノケ 言うて、月経になると 別に 食わすの(のです) 穢れる 言うて。

くいのく(くひのく) (食退) 【自動五】 食べてその場を離れる

くいのばし(くひのばし) (食延) 【名詞】 食料や生活費が長時間持つ様に少しづつ消費すること [会話] クイノバシ しとかな(しておかなければ) はざんわれ

(駄目だ)、まあ、がしん (飢饉) な (が) 来ると はざんのん (いけないのに) ばあばあと、よけ (あまり) せんと (せずに) なんもかも (なにもかも) ちよいちよいつ (少しづつ) しまつして (節約して)、貯めとかな (ておかなければ) はざんわれ、そげなの (そんなのを) クイノバシ 言うの な (です)。つぶもん (穀物) でも、まあ ばあばあしたらんと (せずに)、ちよいちよいつ、延ばしてかな (ていかなければ) はざん 言う な (言います)。クイノバシん (に) しとかな、先で困って来る よってん (から) 言うてな。十分に食べたると (てやると)、先で困る よって (から) ちよいちよいつ しまつして、充分の もん (物) なら 九分 ぐらいん (に) しといて (しておいて) 一分 延ばしてく (て行く) 言う 訳やなあ (です) それ貯めて、クイノバシ 言うの (のです)。

くいのばす (くひのばす) 【他サ五】 食糧を少しづつ消費する

ぐいのみ 【名詞】 丸呑みする事 鵜のみ 一口に飲み込む事 (志、鳥、阿、張) [会話] グイノミ 言う な (のは)、嚙まん と (嚙まずに)、ぐいぐいと飲んだん (飲んでやる) の (のを)、グイノミ 言うて、嚙まん と グイノミ して言うて。

くいはぐれ (くひはぐれ) (食逸) 【自動下一】 食べそこない。食べる時を外す。(志 (布施田))

くいはじめ 【名詞】 1) 生後百~百二十日目に新生児に始めて食事を与える祝 くいぞめ (名) 2) 初物を食べる事。[会話] ₁₎ クイハジメ、くいぞめや (です)、くいぞめ せな (しなれば) はざんわれ (駄目だ) 言うてなあ ひちや (七日) の 時んなあ (に)。₂₎ 米でも 麦でも 俵もん (物) 開けると こや (これは) クイハジメやなあ (だ) 言う時も あよおったなあ (有りました)。新米が獲れてもなあ、こや (これは) 新米の クイハジメや、(だ) クイハジメ 言うのを くいぞめやなあ (です)。はつもん (初物) をなあ、食う時んなあ (に)、米によらず、くだもん (果物) によらず 始めて食べるのおを。

くいはづれ (くひはづれ) (食外) 【名詞】 食いはぐれ 食べる時を外す。食べられない。[会話] あの ひた (人は) てえ (手) ん (に) 職な (が) 有る よってん (から) クイハズレな (が) 無いわれ言うて、てえ (手) に 職な 無い もな (者は) クイハズレな (が) 有る けど (が) 言うて。

くいぶち (くひぶち) (食扶持) 【名詞】 1) 食費 2) 食べるだけの量 (志 (布施田)) [会話] ₁₎ クイブチ

言うと、食うた (食べた) ぜん (銭) を 払う事、食費 を払う事を、クイブチや (だ)。おらな (私が) クイブチや (は) あんな (彼が) 払るて (払って) くれるし言うて、くいりよおと、クイブチ は、言い方が違うだけで意味は 一緒やわな (です)。

くいぶり 【名詞】 食べる様子 [会話] クイブリな (が) ええなあ (よい) 言うて。よけ (沢山) 食うと、あの ひた (人は) クイブリなええなあ 言うて。

くいぶん (くひぶん) (食分) 【名詞】 1) 食べるだけの量 2) 食費 [会話] ₂₎ 食い扶持 を与える、言うてなあ、食費 をなあ、クイブン 言う けどの (言います) (が)。食い扶持 言うて、兄貴らな (が) 食い扶持や (は) 呉れるし言うよおな意味やろな (でしょう) 食うもん (物) を 呉れると、こや (これは) 婆やんな (の) クイブンや (だ) 言うてな、食費 でも 食料 でも 呉れると なあ。

くいばし 【名詞】 徒食していること、又その人 ぼし は、法師の略転か [会話] 食うて まあ そんで (それで) なんも (何も) せんと (せずに) 食うだけ 言うのを クイボシ 言うてなあ、としよや (年寄り) は 仕事なんも よおせんとおって (出来なくていて) 飯や (は) 三度三度食わな (なければ) はざんやんない (いけないでしょう) そやもんで (それで) クイボシよ 言うてな。

くいまい (くいまい) (食米) 【名詞】 食用に当たる米 食糧 食費 [会話] クイマイ も 渡さななあ (なければ) 言うなあ (言います)、婆やんな (の) クイマイ も やらんと (やらずに) おつてなあ (居て) 言う時も、クイマイや (だ) 言うてな。他の家で 厄介ん (に) なつとると (なっていると)、婆やんな (が) 厄介ん なつたのん (の) 婆やんな (の) クイマイ も やらななあ (やらなければ) 言うてなあ、クイマイ も やらんと おつてなあ 言うて、やらせんと なあ (やらないと)、食い扶持 も 一緒や (です) いいよな (言い方が) 違うだけでなあ。

くいまくる (くひまくる) (食捲) 【他ラ五】 次から次へと、どんどん食べる 大食いする [会話] よけ (沢山) 食うて、食うて、食うて、食いすえる、クイマクル 一緒や (です)。

くいまけ 相手より食べるのが少ない事、又、出した金銭以下より食べない事 [会話] クイマケ せん (しない) よおん (に) おもさま (充分) 食いまくつて (食べて) こな (こななければ)。

くいもて 食べながら (志 (浜島))

くいもん (くひもん) (食物) 【名詞】 食べる物 (伊、熊) [会話] 食べるもん (物)、食うもん。クイモンも なんも (少しも) のおて (無くて) 言うて、米やろと (であろうと) 野菜でも、なんでもなあ クイモン言うて。クイモンな (が) なんも 無いよん (ように) なつてて (なつていつて) ひまのかあやれ (大変だ) 言うてな、食い物 言うのなあ クイモン言うの (のです)、食い物言わせんね (言わないのです)。

くいやい 【名詞】 食べる量、又は早さを競う事 (多、伊、南) [会話] みんなな (皆が) こんだ (今度は) クイヤイ しょおや (しましょう) 言うて、だな (誰が) よけ (沢山) 食べるか、はよ (早く) 食べるか クイヤイ しょおや 言うやんかいなあ (言います)。クイヤイ みたよんして (のようにして) 食うてなあ よけ (沢山) ごつお (御馳走) な (が) 有つて 言うてなあ、食べる競争や (です)。

くいよ (くいよう、くひやう) (食様) 【名詞】 食いかた たべかた 食べる動作 作法 [会話] 食べ方な (が) ええ (よい)、わりなあ (悪い) クイヨなええ (よい)、わり (悪い) 言うて。食べんのん (るのに) むちゃむちゃと べつんも (特別に) うまないよん (ように) 食べるとか、おいしそおん (そうに) 食べるとか。あやれ (あれ)、食い振りな (が) ええよお (よくて) 見よまあ (見なさい) 言うて、うまそおん (美味そうに) 舌鼓 うつて食うと。

くいよおじよお (くひやうじゃう) (食養生) 【名詞】

1) 食べる物に対し攝生すること 2) 病気など体が弱って居る時に体力をつけるためよい物を食べる。

[会話] _{1) 2)} クイヨオジョオ せえ (しなさい) 言う ねやわい (のです)。食べる事養生せえ 言うね (言うのです)。

くいりよお (くひれう) (食料) 【名詞】 食料 食費 (度、南) [会話] うちのクイリヨオに、とつとけ。

くう (口) 【名詞】 く (口) に同じ

くう く (苦) に同じ (伊、松、員、鈴市、鈴郡一、多、阿、張、名、度)

くう 九

くう (くふ) (食) 【他ワ五】 1) 食べる (志 (浜島、布施田)、鳥、鈴市、安、南) 2) 魚がよく釣れる (志 (布施田)) [会話] ₁₎ クウ、御飯 食べる事を、飯 食おかいなあ (食べよかな) 言うね (言うのです)。飯、クオヤンカレ (食べましょう) 言うね。御飯 食べよや (食べましょう) 言うのも 飯 クオヤンカレ。

ぐう (具) 【名詞】 ぐ (具) に同じ (志 (布施田)、上、

阿、張、名)

くうかい 食べますか [会話] 食べるかい (食べますか) 言うのを クウカイ 言うの、まあ くてきたわい (食べて来ました) 言うてなあ、まあ そえん (そんなに) 言わんと (言わずに) くええ (食べなさい)、どんだけ (どれだけ) でも 入るわい (入ります) 言うて。

くうけど (食) 食べるが、食べます

ぐうすかはちべえ。ぐうすけはちべえ 【名詞】 いびきをかいて熟睡しているさま はちべえ、八兵衛、擬人化した語。(志 (布施田、志島、国府)、鳥 (国崎)) [会話] 寝て いびき かいとんのを (かいているのを)、いびき かいとると (かいていると)、グウスケハチベエで 寝とられ (寝ている) 言うて。

くうた (食) 食べた (志、鈴市、伊) [会話] 御飯 食べた、飯クウタ、御飯食べた 言う事を クウタ。

くうたか (食)。くうたかい。くうたかな (女性語) 食前、食後に他家を訪れる時の挨拶言葉 食べましたか [会話] クウタカ 言うて、食べたか (食べましたか) 言うのを、クウタカ。クウタカ、クウタカイ、くうとるかい、言うのは 食べたかい 食べとるかい (食べているのですか) 食べとんのかあ (食べているのですか) 言うのを、食うとんのかい クウタカ 言うて、食うた後の事を クウタカイ 言うし、食う迄は 食うのかい 言うし。めしどき (飯時・食事の時間) に、よその家ん (に) 行た時ん (に)、やらんかい (食べなさい) 言うやんかい (言います)。めし食い時に来て、まあ クウタカイ 言うて 行くの (行きます)、クウタカイ 昼でも夜でも じき (食事時) に 行く時、昼やったら (だしたら) クウタカイ 言うしなあ (言います)。クウタカイ 言うて 行くな (のは)、昔の人やわい (です)。

くうたかれ 食べたであろうか

ぐうたら 【名詞】 怠け者 (阿)

ぐうたらべえ 【名詞】 怠け者を人名に擬して言う語 愚を擬人化して愚太郎兵衛の訛 (大言海)。(志 (布施田)、尾、北) [会話] 怠けもん (者) の事を、あや (彼は) グウタラベエで。

くうたる 食べてやる。食べてしまう。[用例] おんな (オレが) クウタル もて来い (持って来い)。

ぐうたろ (ぐうたろう、ぐうたらう)。ぐうたろべえ 【名詞】 怠け者 愚か太郎の訛。ぐうたらべえ参照 [会話] どじもんぐさ (怠け者) の事 グウタロ、あや (彼は) グウタロやなあ (だ)。

くうたんかい。くうたんかな (女性語)。くうたんかれ
食べましたか。食べたか。

くうちろ【名詞】食物をいつも食べている人 よく食べる人
くいちろ [会話] 仕事しいもて (しながら) なんやかや
(いろいろ) 食べて言うて、クウチロで 口いごかして
まあ (動かして) 言うて、あや (彼は) まあ 口のあいな
(間が) ないねな (無いのだ)、あや れ (あれ) まあ、仕事しいもてでも くとんねない
(食べているのだ) 言うて。

くうて (食うて) 食べて (志、伊、桑市、四、鈴市、津)
[会話] 食べる事なあ (を) クウテ、よけ (沢山) クウテ言うて。

くうてえ。くうてくれえ 食べて下さい [用例] 早よ、
クウテクレエ 汁もさめてくのん (味噌汁も冷めて行くの)。

くうてけ。くうてけえ 食べて行きなさい [会話] 食べて
けえ 言うのをなあ、なんも (少しも) ごつつおあ
(御馳走は) 無いけど (が) クウテケエ言うて、そしたら、まあ よばれてこかいのお (頂きましようか) 言うて。

くうてける 食べて行ける 生活して行ける [会話] ぜん
(銭) は 残さんてて (残さなくても) まあ、クウテカレエ
さいしゃ (さえすれば) ええわれ (よろしい) 言うてな、
食べるもん (物) を 不自由 せんと (せずに)、食べて
いかれる言うのを クウテケル言うのな。お金を
なあ、稼ぎな (が) わりいて (悪くて) とか言うて、
一人の人な (が) 言うやんない (言うでしょう)、そすと
まあ、そげん (そんなに) 言わんでも
(言わなくても)、クウテカレエサイシャ (さえすれば)
ええやんか (よろしい)、言うね (言うのです)。
金は残すとこい (所に) いかんけど (いかないが)
食うだけは 稼んで (稼いで) 来る言う意味や
(です)。生活 さい (さへ) してかれや (れば) ええ
ない (よろしい) 生活してかれる (いかれる) 言う事
や (です)。

くうと 食べる

くうとる 食べて居ます。

くうとるか。くうとるかい。くうとるかな (女性語) 食
べていますか 食事時、他家を訪れた時の挨拶、特に
夕食時 [会話] 御飯 食べとる (ている) とこい (所)
に行くとき クウトルカイ 言うて、くわんかい (食べな
さい) 言うて、くて (食べて) 来たわい 言うてなあ、
食事時の挨拶や (です)、クウトルカは、行た時の挨拶
や (です)。

くうとるか。くうとるかな (女性語)。くうとるかれ
1) 食べて居ない。2) 食べて居ません。

くうとんのかい。くうとんのかな (女性語) 食べている
のですか、食べていますか [会話] 御飯 食べとる
(ている) とこい (処に) 行くと、クウトンノカイ
言うて、くわんかい (食べなさい) 言うて、くてきた
わい (食べてきました) 言うて。

くうにこまる 生活に困る。食べていけない。

くうね 食べるのだ。

くうねやっただのん 食べるのだったのに。くうのん参照

くうの 食べるのです

くうのかい。くうのかな (女性語) 食べるのですか [会
話] クウノカイ 言うて、食べとる (ている) とこい
(所に) 来ると、しょんべ (小便) しとるとこい (し
ている所に) 行きあたや (当たれば) たれんのかい
(しているのですか) 言うて。

くうのくわんのでて よく食べる事をいう くうもくわ
んも参照

ぐうのみ【名詞】丸呑み

くうのん 食べるのに [会話] 食べるのん (のに) 言
うのを、クウノン、わしや (私は) これ クウノン 言
うて、ほつたろかいな (捨てようか) おもて (思っ
て)、人な (が) ほると (捨てる)と、まあ そや おん
な (俺が) クウノン、クウネヤッタノン (食べるのだ
ったのに) 言うてなあ。クウノン とか クウネヤツ
タノン とか 言うてなあ、ほつたんな (捨てるの
は) 勿体ないのん (のに) おんな (俺が) クウノン 言
うてな。

くうほお (くうほう、くうほう) (空砲)【名詞】放屁、
かすでつば参照

くうもくわんも よく食べる事 (北) [会話] クウモ
クワンモててなあ (と) 言うて、よけ (沢山) 食べる
のを、クウモ クワンモ てて 言うて しょおしょ
(少しの) の 食い方や (で) 無いね (無いのだ) 言
うて、よけ (沢山) 食う人をなあ。

くうもん【名詞】食べる物 食品 [会話] はつく言う
のは、クウモンを 慌てて 食うて、掴み食い (手掴
み) したり すんのを (するのを) かつちえど (飢え
た人)、みたいな (のようだ) 言うて。

くうもん 1) 食べます 2) 食べ物

くうやない 食べるな [会話] 餅搗いても、お供え搗い
たる迄クウヤナイ 言うて

くうろい (黒)【形容詞】1) 黒い (志、度、伊、南)
2) 詳しい [会話] ₁₎ クウロイなあ こや (これは)

クウロイ。こや (これは) クウロイのおで (ので)、そや (それは) クウロイヤんか (です) 言うて黒も。
くうわい 食べます [会話] 食べるわい (です) 言うのを、クウワイ言うのな。
くえ 食べよ (志 (甲賀))
くええ たべなさい [会話] 食べええ (食べなさい) 言うのを、クエエ 言うの (のです)、あんた (貴方) もクエエ 言うて、そんなら (それなら) よばよかい なあ (頂きましょう) 言うて
くえてや 食べなさい (志) [会話] クエテヤ言うて、はあ、よばよかいのお (頂きましょうか) 言うてな。
くえまあ。くえまあえ 食べなさい [会話] いもんにやげ (芋の煮た物) したね (したのです) はよ (早く) 隣いも (にも) 持てけ (持っていけ) 言うて、こばよおったね (配って居たのです) ぬきたいの (温かいのを) 炊いたね (炊きました) 早よ (早く) 一つ、クエマアエ 言うて。
くえます (魚) (くえ) 【名詞】スズキ科の海魚。体長1mに達す。体はやや、側扁し、体色は緑がかかった茶褐色で不規則な黒褐の横帯が走るが、大きくなると不明瞭になる。(志、鳥、度、尾、南、熊)
くえる (くへる) (食) 【ア下一】 1) 食べられる (志、鳥、上) 2) 生活していける [会話] ¹⁾ こや クエルかいなあ (だろうか)、食えんのかい (食べられますか) てや (と云えば)、いたんどう (傷ついている) 様なのを、食う時にやなあ (には)、食われんのかい (食べられますか) こえん (こんなんい) しとても (していても) 言うて、そや じよっとやれ (上等だ) くや (食べれば) ええない (よろしい) 言うなあ、クエルは 食べられる言うの。
くえん 一筋縄では行かない。食べられない。生活出来ない。(志 (布施田))
くおかい。くおかな (女性語)。くおかれ 1) 食べない 2) 食べないであろう
くぎざき (釘裂) 【名詞】衣服などを釘にかけて裂く事又、裂けた所
くぎさいとく 念を入れておく。注意しておく。(志 (布施田))
くぎり (区切) 【名詞】切れ目 物事のけじめ 段落 [会話] へきる (隔てる) 事を、クギル言うてな、仕事でも たいがいにして クギラな (なければ) はざんわれ (駄目だ) 言うて、おかな (終わらなければ) はざんわれ 言うのをな、たいがい、仕事も きりつけて おけまあ (終わらなさい) 言うて、仕事のク

ギリもつけまあ (つけなさい)、のべつ幕無しとらんと (していなくて) 言うてな。
くぎる 【他ラ五】 区別する。境界を定める。カギル (限) と通ず (大言海) (志 (布施田))
くぎわら 【名詞】折れた藁
くぐまる (屈む) 【自ラ五】 腰を curve、手足を縮めた状態になる。体を丸く縮める (員) [会話] こやって (こうして) かがむの クマル 言うねん (言うのです)、クグマル、うづくなる (うづくまる) とか、しよづくなる とか言うて、こしてなあ ちっそお (小さく) となると、しよづくならな (なければ) 足な (が) 痛い とかなあ、腰な (が) 痛い とか言うて、ちよいと (少し) しゃごむ (しゃがむ) よん (ように) すんの (するのを) クグマル 言うてな。
くくむ (含) 【他マ五】 口にふくむ 含む (志 (布施田、甲賀)、鳥 (鳥羽)、伊、員、鈴郡、鈴市、安、南、熊) [会話] 水ククム とか、たま (飴玉) ククム とか、口に入れる事なあ (です)。飲んだらんと (飲まずに) ロん (に) 入れとると (していると) ククンドレよ (でおれ)。
くくめる (含) 【他マ下一】 1) 口にふくませる 口の中に食物を入れてやる。ふくめる。くくむの口語。(桑市) 2) 物を詰め込む つっこむ 包む [会話] ²⁾ なんやかや (いろんな物) を、先い (に) ククメトイテ、(ておいて) なんやかや 突っ込む事を、ククメル、包む 言う事も よお (よく) 使うなあ (使います)。ふくろます (ふくらます) 事を 言うんかいなあ (言うのでしょうか)。
くくる (括) 【他ラ五】 紐や縄などを物に巻きつけてしめる ばらばらになっている物を縄や紐で一まとめに縛る、しめくくる 束ねる 全体を一つにまとめる (志 (布施田)、員、三、四、上、阿、南) [会話] かけるとか、ククル とか、物を束ねる事を、束ねる、ククル しばる うなし (同じ) 意味やけど (だが)、そげんして (そんなにして) 言葉が違うの (のです)。
くくんどる 含んで居る
くけばなお 【名詞】藁を布で筒状に包んだ鼻緒 (志) [会話] じよおり (草履) のクゲバナオ、縫らんと なあ (縫らずに) 縫う といて (ておいて) 藁 さいて (差して) すんのやし (するのです) なあ (縄) のおて (なって) すんの (するのを) よりばなおや (です)。
くける (紵) 【他カ下一】 縫いつける 縫い合わす 縫う (志 (布施田、甲賀)、鳥、多) [会話] くける言う

のは、裁縫して クケル。

くさ(瘡)【名詞】 はれもの 出来物 吹き出物 湿疹
かさ参照(張、上、阿、名) [会話] 出来もん(物)
のクサ、クサ 言うやんかい (言います)。クサ か
ぼ (膿が出て乾いている状態) ん (に) なつとんのお
を (なっているのを) クサな (が) ついた 言うやん
かい。出来もん(物) へ クサな (が) 出来て来たよ
つて (から) 治ってくんねえなあ (くるのだなあ)。
出来もん(物) の事 クサ 言う。クサ言うのを ねぶとや
(だ) 言うて。昔や(は) ねぶとな (が) よけ (沢
山) 出来おつた (出来て居ました)。ねぶとや(だ)
ねぶとや 言うて、そして そんな (それが) クサな
(が) ついて来ると かぼな (が) 出来て言うて か
ぼん (に) なつて まあ 言うて。出来もん(物) (が)
ねぶとな(が) かぼん (に) なつて来たよつて (か
ら) 治んねえなあ (治るのだ)。

くさ(糞)【名詞】 1) 野菜果物の房、へた 2) 出来
物の上に出来る。乾燥したもの。前項 くさ参照

くさ 臭い(志伊)

…**くさ** 代名詞、名詞の下につきそれを卑しめて言う。
くそ(糞)の転 じじクサ ばばクサ [会話] わり
い (悪い) 言葉で 言うんやわい (言うのです)、わ
り 言葉や (だ)。言葉遣いな(が) わりいて (悪く
て) じじクサ ばばクサ 言うとりおつた (言ってい
ました)。ごおなわく (腹が立つ) 事言うて 爺さん
や、婆さんら (が) 世話やく (指示する・教える・面
倒を見る)と、あのじじクサ 言うて、ごおなわく 時
ん (に) 婆クサ やたら (だとか) 言うて、わるわれ
た (叱られた) 時ん (に) かまう (反抗する) 言葉や
(です) 爺クサ 婆クサ。

ぐざ【名詞】 1) 愚図 はきはきせず動作決断が早く行
われぬ事 2) だらしない事 又、そのさまや人
怠け者(志(布施田)、員、上、阿、張、度、熊)
3) 物のくず [会話] グザよ (奴) 言うて、なんや
かや (色々の物) わりもんを (悪い物を) グザ、グ
ザな (が) よけ (沢山) 出来て。物のわり(物) の
も グ
ザ 言うし、にげ (人間) も 言うやんかい (言う
ではありませんか)。にげも あや (彼は) グザやよ
つてん (だから) 言うて、怠けた (怠け者) や (と
か)、だらしない にげ (人間) を なあ、あや (彼
は) グザやよつてん 言うて なあ。

くさい(臭)【形容詞】 【接尾語】 1) 怠け者 どじもん
ぐさ ぐさ参照(志(船越)) 2) らしい(志(布施
田、甲賀)、上、阿、鳥) [会話] クサイ言うのは、な

んやかや (種種) 臭いな (が) する。¹⁾ クサイ とか、
どじもんぐさ (怠け者) よ、どじもん が クサイ とか、
仕事 が したの おて (したくなくて) なにかなしん
(なんとなく) 気分 が すぐれん で (進まなくて)、そ
して、どじもん な (が) くそ おて (臭くて) なんも
(何も) したない (したくない) 言うて。今日は ま
あ (もう) 頭 わりいて (悪くて) どじもんぐさ の
病
気 おこつて なんも したないんよお (したくないの
です) 言うて。

くさいきれ(草熱)【名詞】 夏、生い茂った草が強い日
光に照りつけられて熱気を発する事(鳥) [会話]
クサイキレ 言うんかい (言うのですか)、草 で、道、
通ると なあ ぼおつと して くんのを (くるのを) 草
とり、田圃 や どけ (など) 通ると 六月 んなあ (に)、
あつ つうい (熱い) 風 な なあ (が) ぼおつと して くん
の (来るのを)、クサイキレ で 気持 な (が) わり なあ
(悪い) 言うて なあ。

くさかき【名詞】 田の除草

くざかつとる 1) 水の中に浸っている 2) 入浴中湯
の中に入っている。

くさかぶれ【名詞】 草の露で皮膚炎をおこす事。露かぶ
れ。(北)

くさかりがま(草刈鎌)【名詞】 草を刈るのに用いる鎌
刃が薄く峰幅がせまい(四、北) [会話] 草刈 ん (刈
る) のは クサカリガマ。

くざかる 1) 浸る。入浴、海水浴等、水の中に入る。
2) 浸る。物が液体の中に入っている。(志(布施
田))

くさがれ(草枯)【名詞】 草木の枯れる時 秋(北) [会
話] 春の事を くさ さ き、クサガレ 秋 や (です)。

くさぐ 1) ふさぐ 閉じる(志、鳥) 2) 気分がめい
って元気がなくなる が つかり して 気 が 沈 む [会話]
²⁾ 気分 が クサグ、ふさぐ 言う ねん (言うのです)、気
持 ち な (が) ふ さん で (ふさいで) とか、気 な (が)
ふ さん で 来た。うつとおしい気分の事を 気分 が すぐ
れん (常態でない) 事 を。気分(が) ふ さん で、ク
サグ 言う 人も 有 ん の か い な あ (有るのでしょうか)、
クサグ 言う けど 気分 な (が) むかむか して わり な
あ (悪い) は つきり せん で (しなくて) 面 白 ない 言
う 事 気 な (が) クサ ン デ。

ぐざぐざ【副詞】 1) しまりがなく、ゆるんでいる
だらしない(志(布施田)、員) 2) 不平 不満(志
(布施田)) 3) 遅い 4) 怠け者 5) 病気などで
不機嫌だ [会話] ²⁾ ⁵⁾ グサグサ と まあ 言うて、子供 ら

な(が) いじつとると (苛らついていると) さいご (その時)、グサグサ言うて、言うてなあ、今日はまあ、虫な(が) 出とんのかして (出ているのか) グサグサ言うて、守り (子守り) な(が) しのくいわれ (しにくいです)、親な (が) おけ (見ておれ) 言うてなあ。¹⁾ 表やどけな (などが) 寝てても (倒れても)、グサグサん(に) なとんねよお (なっているのだ) 言うてなあ、畑い (に) いて (行って) 西の風でも もみこまれて (揉まれて) どっちゃやら (どちらか) こっちゃやら (こちらか) 判らんよん (ように) なとんのをな (なっているのを) グサグサん(に) なとんねよお (なっているのだ) 言うて。⁴⁾ あや、グサグサやなあ(だ) 言うて、怠けもん (者) を言うのも有るしなあ。

ぐさぐさゆう 愚痴不平をくどくど言う [会話] いじる事 (苛々言う) ぐずぐずと泣いて ばっか (ばかり) おんのをなあ (居るのを) グザグザユウ。

くざけもち 【名詞】 黴を防ぐため又堅くなるのを防ぐため水に浸して有る餅 (志 (布施田)) [会話] 餅をなあ、とびき餅や栗のおを よけ (沢山) 搗いてなあ、こがん (四斗桶) 一杯も搗いて、そして、それを置いとくと (ておくと) かっとなつてくもんで (堅くなるので)、水い (に) 浸けといてなあ (ておいて) 毎日 水替えて すると 今頃迄 あよおってなあ (有って)。水、替えんのかな (替えるのが) 世話なけど、(面倒だが) そやけど (しかし)、水、替えると 何時迄 置といても (ておいても) 食われてなあ、水 ちょいと (少し)、替えんと おると せせなげ (下水) 臭なって来てなあ、おたべ (女陰) 臭いわれ (です) 此のクサゲモチや (は) 言よおった (言っていました)。あんまり (あまり) 水、替えんと おると。クサゲモチ今頃迄 食よおった (食べて居ました) とびき餅のクサゲモチ、胡麻 炒つといて (ておいて) さと (砂糖) 入れて、それを きな粉の代りにすると、おいしいて、きな粉したりなあ

くざける 水に浸す (志 (御座、浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽・答志)) [会話] 水へつける (浸す) 事、なんやかや (種々の物) 水へして (入れて) もどす (乾燥している物に水分を含ませて柔らかくする) 事を クザケル 言うのなあ (のです)、水へつける言う事やなあ。水へ クザケとけ (ておけ) 茶碗でも こびつとる (固くくっついている) よって (から)、今し (今) 洗わんでも (なくて) ええわ (よるしい) クザケとけ 言うし、こびつ

いてかん (こびりついていかない) うちん (に) クザケとけ 言うて。餅でも固い餅、固まってくと (いくと) くざけ餅に しょおや (しましよう) 言うし、豆やどけ (など) 炊くのも 一夜 クザケトイテ (ておいて) 炊くとか。何でも 水い (に) つけとく (ておく) 言うのを クザケル言うの (のです)。

くささき (草先) 【名詞】 草木の芽吹く頃 春 (志 (布施田)、北) [会話] 春の事を クササキ言うて 秋の事を くさがれ、クササキに 病気な (が) おこる (始まる・生じる) 言うて。おなご (女) な (が) ちやまい (血の病、神経症) な (が) おこつて (始まって) 言うて、クササキやもんで (なので) おこつたんなあ (始つたんだなあ) 言うやんかい (言います)。春雨 うとし (うつとうしい) よおな 日な (が) すると クササキ 病気な (が) おこつたんやれ (始まったのだ) 言うて。

くさし 【接尾語】 動詞の連用形について、その動作の途中にある事を示す。

くさす (腐) 【他サ五】 1) 悪意を持って他を悪く言う こきおろす けなす あしざまに 言う (志 (布施田)) 2) 動詞の連用形についてその動作を途中でやめる事を表す (南) [会話] ¹⁾ クサス、あや (彼) じつきん (すぐに) 人クサス。わり (悪い) 事言うと、わりくち (悪口) 言うと、人クサシテ まあ言うて。人の事をなあ わり事ばっか (ばかり) 言うと、あや (彼は) 人クサスのな (のが) えてこい (得意) やてや (だ) 言うて。

ぐざずみ 【名詞】 柔らかい炭 木質の柔らかい木で作った炭 [会話] あさ や (とか) あいなのおは (あんなのは) グザズミ 言うて やいこい (柔らかい) 炭なあ (です)。

くさたけ (草丈) 【名詞】 草の高さ。作物の伸びた高さ。

ぐざつく 1) ぐずぐず言う 2) 物事ははっきりしない 健康状態が思わしくない [会話] ¹⁾ ぐざぐざしとると (している)、グザツイテ 子供らやどけ (達などが) ぐずぐず、ぐずぐずと 泣いて いくら たらしても (なだめても) 聞かせんと (聞かないと) さいご (その時)、ぐざぐざと まあ 言うて (言います) 言うなあ。ぼえぼえ言うと よけ (あまり・多く) ぐざぐざ言うなあ 言うな 言うて、あんまり 小言言うのも ぐざぐざ。親父らな (達が) ぼえぼえ言うと ぐざぐざ言うて あの親父や (は) まあ 言うて よお (よく) 言うわい (言います)。ぐざぐざ言うて やって来たない (来ました) 言うて。²⁾ 天気でも ク

ザツク。天気が曇ったり 晴れたり はっきりせん (しない) のを グザツイトル 言うて。クザツク はっきりせん (しない) 事やなあ (です)。はっきりせん 事を ぐざぐざ言うんやろなあ (言うんでしょね) グザツク。

くさった 悪い つまらない (北、尾)

くさった した 行った、をのしって言う語

くさって した 行ったをのしって言う語 [会話] あの子な (が) まあ わり (悪い) 事ばっか (ばかり) しクサツテ言うて、こやあれ、こいな (こんな) 事しクサツテ 言うて、下手な事 したりすると、こいな事 しクサツテ言うて。

くさつとる (腐) 1) 腐って居る 2) しているの卑語

くさつぱら (草原) 【名詞】草原 くさはらの変化した語 (阿、張、名、南) [会話] 畑ん (に) 草な (が) よけ (沢山) 生えて来ると くさやまん (に) なって言うけどなあ。そやけど (しかし) クサハラは 野バラで 荒地の事を クサツぱら 言うて。

くさなか (草中) 【名詞】草の中、草の茂った所 [会話] 草深い とこで (所で、草な (が) ぼおぼお しとる (している) とこい (所へ) 行くと クサナカへ 行て (行つて)、草深こおて (かくて) まあ 言うてな。

くざのみ 【名詞】だらしく酒を飲む事 又、その人 (志 (浜島)、鳥 (長岡)) [会話] よけ (沢山) 酒飲むのを グザノミ ぐだべえ。酒のおで (飲んで) ぐだべえん (に) なつとる (なっている)

くさはぎ (魚名) 1) さんじるし にぎだい 体側後方に楯状の突起を囲む黒斑が一行に並び、その数は4～5ケ有るが、三と言う語が呼びやすいのか、さんじるし等の呼称が有る。体に微少な鱗があり、これに触れるとビロード状の感じがする。皮は強靱で全体に黒色を呈す (志) 2) 怠け者 (志 (越賀)) [会話] 2) はぎ (魚) や (で) なしに (なくて)、どじもんなくさい (怠け者) 事をな クサハギ 言うてな。あや (彼は) クサハギ やよつて (だから) 言うて。どじもんぐさ (怠け者) の事を、あや (彼は) クサハギ やよつてん 言うわい (言います)。1) クサハギ かざな (匂いがする) もんでだ (ので)、あれ そんなり (そのまま) 食うと 臭いやんかい (臭いのです) どいらい (大変)、せんぎり (充分) もおどいて (もんでおいで) 食うとなあ なんも 臭のおて (臭く無くて) 鯛の刺身 食うよおん (食べるように) しとる (している) けど、そんなり (そのまま) 食うと くさいんなあ (臭いのです)。

くさばな (草花) 【名詞】 1) 草に咲く花 2) 花の咲く草。

くさぶかい (草原) 【形容詞】 草が沢山生えて居る事。草が茂っている。

くさぶき (草葺) 【名詞】 茅、藁などで屋根を葺く事 又、その屋根 (志 (布施田、片田、志島)) [会話] くさやぶき、わらぶき、茅葺の家 クサブキ 言うてな。

くさぶら 【名詞】 草原 [会話] 草深い とこを (所を) クサブラ。くさむら 言うて 草むらん (の) 中い、(に) なんもかも 押し込んどいて (でおいて) 来たれ (来た) 言うてな。

くざべ。くざべえ 【名詞】 酔漢 べ、べえ兵衛 擬人化した語。(志、鳥 (長岡)) [会話] グザベ 言うな (のは)、仕事も なんも (なにも) せんと (せぜに)、酒ぼっか (ばかり) 飲んで ぐしゃぐしゃ してなあ あっちゃい (あちらで) 遊び、こっちゃい (こちらで) 遊び しとんのをなあ (しているのを) グザベ で まあ 言うてな。毎日 酒 くろて (飲んで) グザベ でなあ あんななあ (彼が) 言うて、くれんそん (に) なつとんね (なっているのだ)。酔おて 酔おて しとんのをなあ (しているのを)、くれんそん (に) なつとんね 言うて。

くさぼおき (くさばうき) (草箒) 【名詞】 ほうき草 (箒草) で作った箒 竹箒 しゅうろ箒等、箒の材料によって言う。(三重県全域) [会話] ほおき木 (草) でしたのを クサボオキ。あや (あれは) 箒木やもんなあ (です)。箒木言うな (のは) 畑で、家のともと (庭) で作ると そんな (それが) 実つて 実な (が) おつてた (落ちてしまった) のを 箒ん (に) すると どいらい (大変) ええねてや (よいのです) 箒木でなあ 箒 皆 作りおつた (作つて居ました)。

くさぼとり 【名詞】 夏、草原の中、又は近くで感じられる熱気 [会話] クサボトリ 言うんかい (言うのですか)、草で、道、通るとなあ ぼおつ してくん のを (来るのを) クサボトリ、田圃 やどけ (など) 通ると 六月んなあ (に)、あつうい (熱い) 風な (が) ぼおつ してくんの (くるのです) おおた (ああ) クサボトリ で 気持ちな (が) わりなあ (悪るい) 言うて。

くさむぎ 【名詞】 麦を撒いて芽を出し 10cmくらいになつたもの まだ節の表れない状態の時 [会話] クサムギ 言うて 麦蒔いて 生えて来るやんない (でしょう) 青々と 二寸か三寸になつたの (のを) クサムギ。ほお (穂) が出て来るよん (ように) になると、ふしこ

だつて来て(節が出て来て) そいなときや (そんな時は) 踏むと はざんねけど (駄目だが) クサムギのうちや (間は) 踏む程 ええんやんかい (よいのです)。クサムギ言うな 節が一つも無い はあ (葉) だけのおりん (時に)。クサムギと しゅうとや (嫁の実家) がよい (通い) は ふみや (踏めば) 踏む程 ええ (いい) 言うて、踏みさいしゃ (さえすれば) 根な (が) 張って 来んねやんかい (来るのです)。そやもんで (それで) 何回でも 子供らん (に) “踏みん (に) 行けよお (行きなさい) こかせよお” 言うてするし 舅屋のかど (門、入口) も もろたばかのおや (貰ったすぐの時は) 通いさいしゃ ええ ので 舅屋のかど と クサムギや 踏む程ええ 言うて、昔のゆいぐさ (諺)、そげん (そんなに) 言よおったわい (言っていました)。舅屋のかど 踏まな (まなければ) はざんね (いけないのです) 嫁もろても (貰っても) すぐに 呼ばせん (自分の家に連れて来ない)、泊まりん (に) 行くよつてんだ (行くのだから) いくらでも 踏むよつてん それも 行からつたら (行けなかつたら) はざんねよつて、踏まんよん (ように) なつたら はざんね。

くさむしり【草蟻】**【名詞】** 除草、草とり

くさむら【草糞】**【名詞】** 草原、草の沢山生えている所。

くさめ【名詞】 噓 (志、桑市、阿、張)

くさもち【草餅】**【名詞】** 1) 女陰 2) 女郎 草餅を売り歩いたとも、瘡 (くさ) 持ちの意とも 売春婦 3) 蓬を入れて作った餅 (桑市、張、度) [会話] 3) よごめ (蓬・よもぎ) 入れた餅 クサモチ。節句のクサモチ、やったり とったり 言うて、こころ 節句になると クサモチして、あっちゃ (あちら) こっちゃ (こちら) い (に) 配り しおったけど (したが) 今しゃ (今は) そいな (そんな) 事しゃせんもん なあ (しません)。節句や (だ) とか すすはき (盆、暮の大掃除) しても すすはきして 忙しても (忙しくても) ごつお (御馳走) して 親戚中配つてた (て行った)。

くさや【草屋】**【名詞】** わらぶき屋根 かやぶき屋根 又、その家 (志 (浜島、御座、甲賀、越賀、鶴方)、鳥 (鳥羽、神島、相差、加茂)、津、松、度) [会話] かやぶきの家な (が) くさぶき。昔や (は) くさぶきで涼して (涼しくて) ええ (よい) 言うて、クサヤの家ん (に) 入つとる (入っていると) 涼して 暑さ知らん 言いおつたのんなあ (言っていたのに)。瓦屋根や トタン屋根は ほとり (熱気) な (が) えらい

けど (大変だが)、クサヤぶきは ほとりな (が) のおて (無くて) 涼しんでわい (涼しいそうです)、どいらい (大変)。

くさやぶき【名詞】くさやに同じ (志 (御座、甲賀、越賀、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (鳥羽・神島・相差・加茂))

くさやま【草山】**【名詞】** 草の多く生えている所 くさつばら参照 [会話] 草な ぼおぼお しとるなあ (していると) おおた 畑や (は) クサヤマやれ (だ) 言うてな、草な (が) よけ (沢山) 生えると クサヤマや (だ) 言うて。

くさらかず【腐】**【他サ五】** 腐らす クサル (腐) の他動詞 [会話] クサラカシテ こやれ (これ) 言うて、腐つてく (ていく) ことを クサラカス、言うてな

ぐざらぐざら【形容詞】だらだらしている状態 しまりなくしている様 [会話] なんしよお (何する) ともせんと (せずに)、グザラグザラ しとるなあ (しているのを)、ぐたぐたやよつてんなあ (だから) とか、ぐずぐず やよつてんなあ とか 言うてな、間に合わん (役に立たない) 人をな。

…くさらん 否定の卑語。知りクサラン。要りクサラン。

…くさり【接尾語】名詞 形容詞について、そのようなものである事を示すののしりの語 意地クサリ クタ (腐) ると、関係有る (大言海) [会話] いじクサリ、こんじょクサリ、意地のわり (悪い) 人はなあ、いじクサリ 言うてなあ、こんじよな (が) わりと こんじょクサリ言う。クサリな (が) 付くのは わり事にクサリつけんの (つけるのです)、どこんじょクサリで言うて、“ど” まで つけんの。どいらい (大変) わり人は、ほんとん (本当に) どこんじょクサリで言うてなあ、どこんじょクサリの はてなしや (果て無しは) 言うてな。

くさりかげん 腐り始める。(熊)

くさりくさい 腐った臭いがする (南) [会話] この芋クサリクサイなあ言うて、腐つとるとなあ (していると) その付近な (が) くそおて (臭くて) 取つたても (取ってしまったても) まあり (周囲) な (が) くさい ねてや (臭いのです)。クサリクサイわれ (です) 言うて

…くさる【腐】**【自ラ五】** する …やがる …しくさる その状態の甚だしい様。卑語 動詞の連用形について相手の動作をののしって言う語 泣きクサル 笑いクサル やがる 動詞の上がるの転 男性のぞんざいな調子の会話に於て用いられる。相手や第三者の動作を

軽蔑したり、ののしったり、憎んだりする気持ちを込めて言い表す。ているに、やがるがついて ていやがる てやがる (志、伊、松、桑市、員、四、鈴市、鈴郡、津、一、多、上、阿、張、名、度、北、尾、南、熊) [会話] そいな (そんな) 事 レクサル 言うて、わり (悪い) 事すると。そいな事して 言うのを、レクサル 言うて。ごおなわく (腹が立つ)、腹立つ時ん (に)、レクサル、いにくサッテ (行ってしまうて) 言うて、腹の立つ時 使う言葉や (だ・です)、クサッテ言う事。めえめえと 泣きクサル、あいな (あんな) 事 言いクサル レクサル とか 言うてなあ。しくされ言うのは 言わせん (言わない) さらせ言うな (のは) 言う。ごおなわく (腹が立つ) 時んなあ (に) したれ (してやれ・しなさい) 言うのを さらせとか 言うて 腹立つ時やなあ (です) そいな (そんな) 事して 言うの、そいな事 さらして 言うて、ごおなわいとる時、言葉で言うと ぬかす 言うし するこた (事は) クサル言うて。

くさる (腐) 【自ラ五】 1) 食べ物が 細菌の作用によって食べられなくなる。腐敗する 2) 心がひねくれて駄目になる 墮落する 3) 気分がすぐれない

ぐざる 子供がぐずぐず言う。ぐずる、泣く ねだる (桑市)

…**くされ** せよ しなさい 強い命令 (志 (布施田、鶴方、甲賀)、鳥 (坂手)、松、阿、張、伊、北、尾) [会話] これ、レクサレ、もてきクサレ (持ってきた) とかなあ、ごおなわいとると (腹が立っている)。子供らでも言う事 聞かせんもんで (聞かないので) あれおこせ (よこせ) これおこせ 言うたり 言うて さいご (その時) そやこれ 持って いクサレ 言うてな、持って こい 言うの もてきクサレ。

くされ (腐) 【名詞】 腐った物、腐った所 動詞くされる (腐) の連用形の名詞化

くされがね (腐金) 【名詞】 少しの金。

くさわら (草原) 【名詞】 草原 (志 (安乗、甲賀)) [会話] 野原の事を クサワラ や (だ) 言うてな

くさんなか 【名詞】 草の中 ん、の、の 音便変化うちん なか うちんそと (志) [会話] 草原の中をなあ クサンナカ言うて。クサンナカん (に) 生えとた (生えていた) とか、クサンナカん (に) 落ちとた (落ちていた) 言うて、その他に うちんなか (家の中) 言うて見たり、海ん (の) 中 やとか (だとか)、てえ (手) ん中やとか 手につつんで かくれとる (かくれている) とこを (所)。

くしがき (串柿) 【名詞】 干し柿 (多)

くじき (挫) 【名詞】 1) 捻挫 関節に関節運動の範囲を越えて外力が加わった時、脱臼に致らないまでの状態 2) 骨折 脱臼

くじきいしゃ 【名詞】 接骨医

くじく (挫) 【他カ五】 1) 指先でねじる 小魚の頭を取る 料理する 曲げて砕く。折って傷をつける 2) 関節を痛める 捻挫する (志 (布施田)) [会話] 1) くじき言うのは クジク。魚の頭 クジク、2) 突き腕する事、てえ (手) くじいたた (てしまった) 言うて、足い (を) 捻挫したる (してやる) こたあ (事は) 足クジク。1) 魚の頭クジク 鯔クジク、うるめ (うるめ鰯) クジク 言うてなあ 頭をとん (取る) のを 頭クジク。

くざし (串刺) 【名詞】 物を串で刺し通す事 [会話] 田楽、クシザシ

ぐじっばい 【形容詞】 ぐつぐつ文句を言う 理屈を言う くだい (志 (布施田、甲賀、安乗)、松、北、尾) [会話] グジッポイ言うのも 有るしだ、愚痴な事 言うて グジッポイなあ 言う。そして 物凄い (く) 口答え すると、グジッポイ ねよって (のだから) 言うてなあ。これ したれよお (しなさい) 言うても やや (嫌だ) 言うて、言う事 聞かん こお (子) を グジッポイ ねよって 言うて、大人でも 子供でも 文句ばっか (ばかり) 言うて、人の言う こた (事は) 聞かんと (聞かずに) 自分の言う事ばっか とおそ (通そう) としてなあ 言うのを あやまあ (彼は) グジッポイんよって。

ぐじな 【名詞】 たんぼぼ (志 (片田、立神)、鳥) [会話] グジナ あや (あれば) たんぼぼ言うわい。とみな やら (とかを) グジナ言うやんかい (言います)。グジナ言うのは、よお 言うてや。

くじまあり 【名詞】 くじ運 (志 (布施田))

くしゃくしゃ 【副詞】 【形容詞】 1) 紙や布などを、もんだり丸めたりするさま 雑然としたさま、乱れた様くちやくちや 形がくずれたさま 2) 気分のすぐれないさま。わだかまりがあって気分が晴れないさま [会話] 1) ももぐれとる (ている) 事なあ 元も末も (始めも終わりも) 判らんよおん (判らないように) したんの (してやるのを)。クシャクシャ言うな (のは) ももぐれて (丸くかためて揉む) 新聞紙も、ももぐつといて (揉んで) クシャクシャん (に) なつた (なつた) いたつた。顔でも クシャクシャと ももぐつ た (てやった) よおな顔やなあ (だ)。

ぐじゃぐじゃ【副詞】【形容詞】 1) 物を浸すさま、物が潰れたさま、乱れたさま きちんとしていないさま 水分を含んださま 2) 不平不満 3) 柔らかいさま

[会話] ¹⁾ ももぐる (丸めてぐちゃぐちゃにする) やんない (でしょう)。ももぐったたら (てやったら) グジャグシャ (に) な って た (なってしまった)。クシャクシャ言うのと グジャグシャ言うのと 一緒の意味。クシャクシャん (に) な った 言うのも、グジャグジャも 一緒の意味や (です)。

くしゃめ (噓)【名詞】 くさめ (三、飯、張) [会話] くしゃみの事を くっしょめ 言う ね ん な あ (言うのです)。くっしょめな (が) よ け (沢山) 出 て 言 う て な あ。風邪 引 く ん か し て、(引くのか) クシャメ な (が) よ け 出 て 言 う て。

ぐじゅぐじゅ【名詞】 渦、渦巻 [会話] グジュグジュ 巻かれた 言うてなあ、渦な (が) 巻くの、グジュグジュ 巻かれた、言うて、潮浴び (海水浴) ん (に) 行 て (行つて)、島 も と (島の近く) 行 く と グジュグジュ 巻かれた 言 う や ん か い (言います)。グジュグジュ ん (に) 巻かれると よ お 出 て 来 ん で (よく出られなくて)。

ぐしょぬれ【名詞】【形容詞】 びしょ濡れ

くしょめ【名詞】 噓 くさめ [会話] はつくしょん、へええくしょん言うて、クショメな あ (です)。

くじらのまるぼおしのできるひい【俚諺】 好天気。湿度も少なく気持ちよい晴天の日。

くじり (袂)【名詞】 竹を割って縄を挟み 縄を通すのに用いるもの やのふき参照 [会話] 孟宗竹を割つてなあ 三糰位の中ん (に) し と い て (しておいて)、な あ (縄) 通 す だ け の 穴 な (が) あ け て あ ん の (有るのです)、先は ち よ ん ぎ っ と て (尖っていて) な あ 通 す よ ん (ように) して、言う と 針 や (です) 糸の代りん (に) な あ や (です)。それを ク ジ リ 言 う の。

くじる (袂)【他ラ五】 もぐ くじくに関係ある語 (上、阿)

ぐず (ぐず) (愚図)【名詞】 動作の緩慢な人 (上、阿、張、名、北、尾、南)

くすう (工数)【名詞】 職人の一日の仕事量。[会話] い っ く、に く、一 日、二 日 言 う の な あ い っ く、に く、今 日 は に く、か か っ た さ ん く か か っ た な あ 言 う て 一 日、二 日 言 う の な あ ク ス ウ。

ぐずぐず (ぐずぐず)【名詞】 鼻ずまり (志 (布施田))

ぐずぐず (ぐづぐづ) (愚図愚図)【名詞】 はっきりしな

い人 のろまな人 [会話] あ や ま あ (彼は) グ ズ グ ズ や よ っ て ん な あ (だから) 言 う て、間 に 合 わ ん (役に立たない) 人 を な あ。

ぐずず (ぐづず) (崩)【他サ五】 1) 物を砕いて壊す 破棄する、整った状態のものを乱して、ばらばらにする 大きなものを小さくする 2) 胡座で座る ク ズ る (崩) の他動詞 (阿) [会話] ²⁾ ク ズ サ ン カ イ、そ げ ん し と ら ん と (そんなにしていなくて) 言 う。 ¹⁾ そ し と い て な ん や か や (いろいろ) 積 ん で あ ん の も (有るのも)、それも ク ズ ス 言 う て な あ、う ち あ っ た れ (壊してやれ)、壊したれ 言 う の (のを) ク ズ ス 言 う て な。

ぐずせ 1) 胡座をかけ 2) 壊せ 崩しなさい [会話] ²⁾ ぐ ず ず、(崩す) が ら (岩の塊) ぐ わ し て 来 い ま あ (崩ずしてきなさい)、グ ズ セ 言 う の を ぐ わ し て 来 い ま あ 言 う て。

くすだ くすんだ、明るさがない [会話] はっきりし や せん (しない) 地味な色をクスタ色 言 う や ん か い (言います)

ぐずつく (ぐづつく) (愚図付)【自カ五】 1) 天気のはっきりしない。2) 準備にてまどる。愚図愚図している。(南) 3) 病気回復が思わしくなく、長引く。

4) 不平不満を言う [会話] ¹⁾ 天気な (が) グ ズ ツ ク と か な あ、照 つ た り 曇 つ た り す る と 日 和 な (が) グ ズ ツ イ テ の お 言 う て な あ、は え (梅雨) や も ん で の お (だので) 言 う て、は っ き り し や せん と (しないと) グ ズ ツ イ ト ル (ている) 言 う て な。 ²⁾ 子 供 で も あ れ し た れ (しなさい) こ れ し た れ 言 う て も、は っ き り せん と な あ 愚 図 愚 図 し と る と (していると)、こ の か あ (子は) ぐ ず ぐ ず や な あ (だ) 言 う て、用 事 せ え (しなさい) 言 う て も し ょ お と せん と (しよう とせず) お ん の を (居るのを) ぐ ず ぐ ず と こ の か あ (子は) 言 う て、支 度 す ん の ん (するの) 手 間 ど る の も な あ ぐ ず ぐ ず し と る (している)。

くすねる【他ナ下一】 ごまかす。上前を取る。かすめとる。クスはこそこそその転。ネルは東ねるのねるなどの意。(大言海) (志 (甲賀))

くすばい【形容詞】 こそばゆい。くすぐったい。(志 (鶴方)、伊、松、多、度、北、尾、南、熊)

くすぶる (燻)【自ラ五】 けむる。完全に燃えなく煙が出て居る。(鈴市、北)

くすべだき【名詞】 煙を沢山出して火を焚く事 [会話] 火 を ク ス ベ ダ キ す ん ね よ っ て (するのだから)、その上へ 上 が と る も ん (上がっている物) 真 っ 黒 ん

(に) 煤でなんね (なります)。

くすべる (燻す) 【他バ下】 1) いぶす 煙で燻す。煙らせながら燃やす。くすぶの口語 (志 (浜島、布施田、鶴方、甲賀)、鳥 (答志)、伊、松、鈴市、津、多、張、北、尾、南) 2) 皮肉を言う、嫌味を言う (志 (甲賀)、松、上、阿) [会話] ₁₎ 煙な (が) 出る事をくすばる クスベル 言うて。

くすばらす。くすばらかす 1) 燻す (南) 2) 苛じめる 嘩したてる [会話] ₁₎ ひい (火) 焚いて、けぶり (煙) よけ (沢山) 出すとクスボラカス、クスボラス言うてな よけ クスボラスナまあ けぶたい (けむい) のん (の)に 言うてなあ。₂₎ 人、苛めたりするとなあ、人クスボラカシテ言うてな、くすべられて弱ったよお言うてな。

くすばる (燻) 【自ラ五】 1) 燃え上がらないで煙を出している状態 くすべる くすぶる いぶる ふすばるの転。ふすばるは、くすぶるに転ず。(大言海) (三、鈴市、津、多、張、伊、南、熊) 2) 気が晴れないで、内にこもる。[会話] ₁₎ クスボル言うのは、けぶり (煙) な (が) 出る事を クスボル。けぶりで クスボル、言うて。草屋でクスボットラレ (ている) 言うて。草屋は 窓な (が) あっても、よけ (沢山) 無い もんで (ので) 草屋の家は クスボンネテヤ (くすぶるのです)、よけ クスボット草屋の屋根みたいななあ (だ) 言うて。てんじよ (天井) な (が) ひっくい (低い) もんで (ので) よお (よく) クスボルわな (ります)。けぶりな (が) 行き所が 無いもんで 真っ黒けやわい (です) 草屋は、屋根の竹も すすだけみたいななあ (だ) 言うて、くさやぶきのおは (のは)、すう (糞子) で てんじよ (天井) な (が) して あって (作ってあって) その煤竹を みがいてすると (磨くと) きんきんと黒光り どいらい (大変) ええん (てや (よいのです))。ぜん (銭・値) に なりおったねやんかい (なって居たのです)、その煤竹な (が) 草屋ぶきい (に) つこた (使った) その竹な (が) ぜん (金) になりおったの (なって居たのです)、皆 廊下の手摺やなんやかや (だとか種々の物)に しとりおったの (していたのです)。べっこおみたいなねえ (なのです)、みがくと 煤な (が) 光って来て、うるし塗りみたよお (のように) なんね (なるのです)。そやもんで (それだから) 煤竹な (が) どいらい (大変) ねな (値が) しおったの (して居たのです)。草屋ぶき とると (壊すと)、貰い手 (ほしい人) な (が) よけ あって、煤竹 皆 貰いん (に) 行て (行

つて)。てんじよ (天井) な (が) ひっくい もんで よお (よく) クスボンネヤンカ (くすぶります)、けぶり で。火の煙が一杯出て 燃え上がらせん (上がらない) 状態をクスボットテ (ていて)。クスボットル (ている) 言うのは 火にならしえんのなあ (ならないのを)。くんとんみたいん (に) して しとんの (を (しているのを)) クスボル。田い (に) はや (早生) 植えの時 くんとん こさえんの (作るのです)、燃やしたると (てやると) はざん もんで (ので)、クスベナ (なければ) はざん (いけない) ので くんとん こしやえんのなあ (作るのです) すくも (靱穀) を 稲撒いたん (の)に ふんので (ふるので) くんとん焚くの (のです)。クスベルとええんけど (よいが) 火出したると (出してやると) はざんねてや (駄目なのです) 灰ん (に) なつてくもんで (なつていくもので) けぶりで すると くんとんに姿なりで、(形のまま)で 炭になるもんで、くんとんやるとはえぎわな (が) ええもんで (よいので) くんとん こしやえんの (作るのです)。一斗缶を 穴通して うつぶけ (うつむけ) といて (ておいて) それへ すくもをして (入れて) 下から ひい燃やすと 燃えてかんと (いかずに) クスボット くんとんになるもんで、燃やしたると (てやると) はざんもんで 苦勞しおつた (して居ました)。くんとん言うのは、すくも (靱穀) を くすべて 炭ん (に) すんのなあ (するのです) 燃やしたると 灰ん (に) なつてくんなし (なつていくのです) クスベルと くんとんに なんの (なります)。

くすむ 【自ラ五】 1) しょげる はっきりしない 2) 色が地味になる 鮮やかさがなくなる 調子が沈むうずもれる 目立たずにいる [会話] ₂₎ クスム くすんだ色やなあ (だ) 言うけど、くらがり (暗い) よおな のおを (のを) クスム。はっきりせん (しない) 色を、あや (あれば) クスンドルなあ (でいる) とか、₁₎ にげ (人間) も なんやら (何か) 明るない (明るくない) にげ を、クスンダ うつとし (うつとうしい) よおな にげや (人間だ) なあ 言うて。明るいにげ や (で) ない、おとなして (おとなしくて) 沈んだよおなのおを そげん (そんなに) 言うんやんかい (言うのです)。クスンダよおな色言うのは はっきりせん (しない) 地味な色をなあ。

ぐずらぐずら (ぐづらぐづら) 【副詞】 ぐず、ぐずらは強調。動作の緩慢なさま。

くすりいび 【名詞】 薬指、IV指 (志、鳥、鈴市、多、

伊、尾、南、熊) [会話] 薬指 言うの クスリイビ なあ、こんで (此れで) 薬 舐めんねかいなあ (舐めるのでしょうか) そんで (それで) 薬指 言うんかい (言うのですか)、紅さし指とも 言うけどなあ (言います) くちべん (口紅) すんで (するので) 紅さし指 言うてな

くすりだい (薬代) 【名詞】 薬の代金。転じて医師への支拂い。治療費。

くすりとり (薬取) 【名詞】 1) 医師の所へ薬を貰いに行く事 又、その人 2) 苦い薬を飲んだあとで食べる甘いもの 飴などの類い (志 (布施田)) [会話] 2) 薬、飲んだ後で、苦い薬 飲むやんない (でしょう)、クスリトリん (に) たま (飴玉) 一つ くれまあ (下さい) 言うてなあ、クスリトリん (に) なんか くれまあ 口な (が) 苦いわれ (苦いです) 言うてな、口直しも一緒や (です)。1) 医者どん え クスリトリ に いて (行って) 来た 言うて、薬 貰いん (に) 行って来た 言うの クスリトリ やよお (だ) 今日 は 爺さんな (が) 言うてなあ。

くすりばこ (薬箱) 【名詞】 薬箱 富山の薬売りが配置して行く。薬を始め衛生用品を入れる箱

くすりもらい 【名詞】 医院に薬を取りに行くこと 又、その人

くすりや (薬屋) 【名詞】 薬品を売る店。薬局。

ぐずる (ぐづる) (愚図) 【他ラ五】 1) せがむ 強請する だだをこねる 2) 機嫌が悪く相手の言う事も聞かず困らせる。言いがかりをつける (志 (布施田、甲賀)、松、阿、三、鈴市、安、上、張、名、尾、鳥) [会話] 1) グズル言うな (のは) 子供らな (が) 親に甘えて ぐずぐず ぐずぐずと言うのを グズル。1) 金持ちのうちん (家に) 金借してくれとか くれ 言うのを グズりん (に) いて (行って)。あの家 行きや (行けば) 金な (が) あんねやよって (有るのだから) いて 借してくれ言うて たのもか (たのもうか) 言うて 行くのを、グズりん (に) いて、そいな (そんな) のおも (のも) 言うし。子供な (が) あんまり 甘え過ぎんのおも (過ぎるのも) グズル ぐじゅぐじゅと泣くのを よけ (よく) グズル。

ぐずれる (崩) 【自ラ下一】 崩れる 山、崖又は、建造物が部分的に壊れ落ちる 全体でばらばらになる (志 (浜島)) [会話] グズレル言うのは、崩れてく (ていく) 事、土を盛ると そんな (それが) 崩れてくんのを (来るのを)、土堤な (が) グズレル 言うて、雨な (が) 降ると 土堤な (が) グズレテ、水な (が) 入

って、よお (よく) 崩れおったわい (て居ました)。今しゃ (今は) コンクリで するよって (から) グズレヤシエン (ない) けど、昔や (は) 芝つけて (植え付けて) 土堤積みよった (積んで居た) もんで (ので)、雨な (が) よけ (沢山) 降ると 土堤な (が) 落ちて、くろくわ (土方) たので (たのんで) せな (しなければ) はざん (いけない) 言うてしよおった (して居たのです)。

くすんだ 引き立たない くすむ参照 [会話] クスンダ 言うな (のは) すすぽけた よん (ように) しとんのをなあ (しているのを)。なんやら (なにか) クスンダ色やなあ (だ) 言うて、暗がり (暗い) よおな色を クスンダ よおな色やなあ 言うし。にげ (人間) でも あやれまあ、クスンドテ (くすんでいて) 言うし なあ、うとし (うっとりしい) 人やなあ (だ)、クスンダ よん (ように) して、言うてなあ、なんも (なにも) 言わんと (言わずに) なんやら、ねがめた (睨らめた) よんして (ようにして) おると (居ると) おた うとし (うっとりしい) 人やわ (だ) クスンドテ (でいて) 言うて、はっきり しゃせん (しない)。

くせ (癖) 名詞】 物事がいつもきまって、そのようになる事、習慣 くせんと同じ

…**くせ** のに、くせん参照

くせぐ 防ぐ 塞ぐ

…**くせしとて** であるのに (尾) [会話] あげな (あんな) クセシテオッテ 言うて、あげな (あんな) くせん (のに) 言うて、あげなこと 言うクセシトテ、なんどお (なんだ) そのする こた (事は) 言うてなあ。わがとな (自分が) 言う事と する事と 合わせんとな (ないと) あいな事 言うくせん、こいな (こんな) 事して言うて、あんなに しといて (していて) おりながら 言うんか。

くせなわり 性質が悪い。する事が悪い。(盗癖、女癖) (志 (布施田))

くせのもん 癖になっている。性格の一部。(志 (布施田))

くせもん 【名詞】 一癖有る者。変人。曲者 (志 (布施田))

…**くせん (癖)** くせに 活用語の連用形又は、体言を受けて…であるのに、…にもかかわらずの意を言う 他人の動作、状態を非難する気持ちを含む [会話] ちっちゃい (小さい) クセン おって (居て) 大人みた いな事 言う。

くせんなる 習慣になる。特に悪い癖を言う

くそ(糞)【名詞】大便

くそ(糞)【接頭語】【接尾語】卑やしめ ののしる意を添える語 程度の甚だしい事をののしる意 接頭、接尾、両方に使用する。(一、上、阿、度、尾、南)

くそあま【名詞】女の子をののしって言う語(志(船越浜島)) [会話] あのくそやら(糞野郎)、あのクソアマ 言うて、ごおなわく(腹が立つ) 時ん(に) 言う言葉やなあ(です)。

くそいじ(糞意地)【名詞】強情 やせがまん(尾)

くそえらい 非常に大変だ 大変疲れる

くそおぼたい。くそおもたい【形容詞】大変重い

くそかき(糞掻)【名詞】大便、鶏糞などを掻き集めるのに用いる小鍬、大きな鮑の貝殻 [会話] とり小屋(鶏小屋)の。ひらくたい(扁平) のおを(のを) 鍛冶屋でこさえてもおて(作ってもらって) クソカキなあ(です)。

くそくらえ 相手の言葉や行為に対し、やけをおこしたり、ののしったりする時の語 勝手にしる どうにでもなれ(度)

くそせせかし【形容詞】大変面倒だ、忙しい くそは接頭語。[会話] 世話な(面倒だ) クソセセカシ 言うて 世話ながん(面倒がるのを)。

くそだらけ 糞で一杯。糞まみれ。

くそたりゃ【名詞】人をののしり 卑しめる語 くそたれはの促音。

くそたれ(糞垂)【名詞】人を卑しめ、ののしって言う語 はこたれ。糞を垂れるのみにして、他に能なしの意。(大言海)(鳥) [会話] このクソタリヤ言うてなあ。なつと(なんと) 言う事かいなあ(でしょうか) 皆 糞たれるのん(の)に。クソタレ言うて ごおなわいとる時んなあ(腹が立つ時に) 糞坊主やクソタリヤ 言うて、クソタレだけやなしん(でなくて) はこたれも、はこたれも クソタレも 一緒や(です)。はこたや 言うて 言うのも 一緒や。昔や(は) はこや(だ) 言うね(言うのです)。

くそたれも(糞)【名詞】海底から長く伸びる海藻 ほんだわら科、普通のホンダワラに比し粘性が高い [会話] 五月頃 はえ(梅雨) ん(に) になると、クソタレモ なんごお(長く)、海のみいひろ(三尋) よおひろ(四尋) も有る底から 生えて来て、上に ぼんと浮いて どお(櫓) も 漕がれん(漕げない) よおん(に) 浮いてくんね(来るのです)。五月頃 はえん(梅雨に) になると、クソタレモ言うてなあ そや

(それは) 又、はざんねてや(駄目なのです) 干しても 乾きのくうて(にくくて) ほんだら(ほんだわら) は 干しても じっくん(すぐに) 乾くんけど(乾くけれど)、クソタレモは 干しても なかなか 乾かせんで(乾かないので) ねちやがえして来て(粘りついて来て) はざんで(いけなくて) ききめ(効果) も とろおておって(少ないのに) 干すの(のに) 弱るもんで(困るので) クソタレモは嫌おったなあ(嫌っていました)。五月のはえな 吹いて来ると ねえ(根) から ごそつと抜けて来て そんな(それが) うきもん(に) になって 沖行くと むしろしいた(ひいた) よおん(に) 海一杯ん(に) 広がる、潮(海流)の流れて うきもで通られやへん(通れない) 言うて、じょおしな(漁師が) 言うてとてなあ(言っていて)。そやけど(しかし) それは ひろても(拾っても) なかなか(大変) 世話な(面倒が) かかるもんで(ので) がいん(あまり) 拾いたない(たかない) 言うて、クソタレモや(だ) 言うて。ほんとな(本当に) くそたれやでえ(です)。糞たれたよおん(に) 雨な(が) 降ると ねちやねちやん(に) なってくんねてや(来るのです) 乾かんと(ずに)。うきもな(が) 来た言うて。うきも 積みんきよおったけど(に行きましたが)。船の有るしとら(人は) うきもを しゃなげて(さらえて) 積んで きよおった(来ました)。かずくのより(潜って採るのより) うきも つりん(に) いこや(行きましょう) 言うて。舟の無いもな(者は) 浜い(へ) 寄って来たのより 拾われやせんけど(拾えないが) 舟の有る人ら そのうきもを つりに行きよったわい(行って居ました)。クソタレモも ほかの物でも はえん なると 浮いてくんの(来ます)。おかた(大部分) はえが吹くと 底のもん(物) が 皆、抜けてくるんやんか(来るのです) そやもんで(それで) クソタレモ ええのも(よいのも) まじって(混ざって) 浮いてくんのなあ(浮いて来るのです) 浮いとる(て居る) のは どい なもんでも(どんな物でも) うきもや(です)。

くそぢから【名詞】強い力。馬鹿力。

くそばい(くそばひ)。くそばえ(くそばへ)(糞蠅)

【名詞】 きんばえ(蠅) クロバエ科の蠅。体長8～9mm、体色は黄緑から青緑に光る。(志、鳥、伊) [会話] クソバエ言うのは せんちや(便所) ばえ。ほおばい あくばい せんちやばい 言うて。せんちやん(に) おんの(居るの) 青いのを 青蠅 せんちや蠅 言うんなあ(言うのです)。

くそひり。くそへり【名詞】魚の腹部の後方にある穴肛門 [会話] 蛇の真ん中から下をなあ クソヒリから下言うて、クソヒリから上言うてな、真ん中ごろん(に) ぼら(穴) な あいとる(あいている) とこな(所が) 有ってなあ、それ クソヒリや(だ) 言うて、蛇だけやなしん(でなくて) 鰻でも 魚でも、クソヒリ どづいたれ(叩いてやれ) 言うてなあ。

くそひる 大便をする(志(鶴方)) [会話] 便所い(に) 行く言う事をな クソヒル、くそひり、くそたれ、ひる 言うのをたれる 言うね(言うのです)。はこ(大便) たれるとか、しょんべ(小便) たれるとかなあ。

くそほじり【名詞】鼻 [会話] おっぱごろつきとおせ言うて、八幡さんの クソホジリ 言いおった(言って居ました)。

くそみそ 1) 味噌も糞も、善悪同じ。2) 完全に(志(布施田、甲賀))

くそやかまし やかましい うるさい [会話] クソヤカマシ、よけ(沢山) ぼえぼえと、これしたや(ら) はざん、(駄目だ) そこい(へ) 置いたら 雨ん(に) 濡らしてとか、色んな事 言うて たしなめんのを(たしなめるのを)。

くそやら。くそやろ(糞野郎)【名詞】思うようにならなくて、いらいらする時や、人をののしたり、自分を発奮させる時に発する語 名詞や形容詞について軽蔑の意を込めて、その後の意を強める やろ やろう 男性をののして言う語(志) [会話] クソヤロ言うて ごおなわく(腹が立つ) 時ん(に) わるうと(叱ると)、あのクソヤラ くそあま 言うて ごおなわく 時ん 言う言葉やなあ(です) クソヤラ くそあま 言うて。

くた 食べた(鈴市、伊、北)

…くた【接尾語】人を表す語又名詞について卑しめ、ののしる意を表す(ちり あくた、腐らす)、クサル(腐)の語根 クツ(朽) クチ(朽)と通ずるか。(張) [会話] その人の わり(悪い) 事 言うのん(に) はなクタ やたら(だとか) 言うて、鼻な(が) ひっくい(低い) 人 あのはなクタな 言うてな、あのはなべしゃけ(びしゃき) な 言うたりな、はなクタ 言うな(のです) はなびしゃけの事な、あのはなびしゃきや(びしゃけは) てやら(とか) 言うて、おなご(女) の こお(子供) わるう(叱る) 時ん(に)。鼻クタ言うて 鼻い(に) 引くを(鼻声になるのを)、あんなれ(あのね) 言うて 鼻い(に) 引

くのを 鼻クタ。

くだ(管)【名詞】くだぎつねの略

…くだい【接尾語】その状態を表す、まるクタイ、ひらくタイ、あらクタイ。(志、鳥、伊賀地方)

くだきつね(管狐)【名詞】信濃国飯綱山から出たと言う想像上の小さな狐 竹管に入り、くだ使いの間に答え、予言したり、種々の霊験を表すと言う。

くだく(碎)【他カ五】小さくこなごなにする。大きなものを小さくする 一万円札をクダク くだはキダ(段)の活用(大言海)

くたくた【副詞】1) 疲れたり弱ったりして力の抜けたさま 2) 物が形を失う程よく煮えたさま [会話] 1) 仕事 疲れると まあ かいだりて(だるくて) えろおて(大変で) クタクタン(に) なったよお言うたり、ぐったら ぐったらん(に) なつたよお(なつていった) 言うてなあ、あんまり(あまり) 疲れると。2) 柔らかい もん(物) でも おた こや クタクタ やれ(だ) 言うてなあ、ぐじゃぐじゃ や(だ) 言う時も 有るしなあ、ぐじゃぐじゃ やんかあ(でないか) こや(これは) 言うて 飯でも やいこいと(柔らかいと)。

くだくだ【副詞】小さく砕けているさま こなごな(志(布施田)、張) [会話] クダクダ 言うな、びしゃいたるとなあ(潰してやると)、クダクダン(に) なつてたない(なつていった) 魚も よけ(あまり) 煮てなぶつて ばっか(ばかり) おつて(居て) クダクダン(に) したたれ(してしまった) てやら(とか)、こや(これは) まあ クダクダ やんかあ(でないか) 言うてな。

ぐだぐだ【副詞】1) くたくたに同じ だらしく酒に酔っている状態 又、その時話す、うるさい語 ぐずぐず(志(布施田)、2) 非常に疲れた状態 3) 愚図愚図している [会話] 2) ぐったりしてまあ、疲れてな、さわ(竿) い(に) 掛からんよんして(ようにして)、グダグダン(に) なつたない(なつた) そや言うて。疲れて ひよろひよろ しとると(している)と、物でも 間に合わん(合わない) なつた(なつていった) もん(物) グダグダで こや はざんわれ(駄目だ) 言うし、3) グダグダ しとらんと(していなくて) 言うて、ごてごて しとらんと 言う事なあ(です)。グダグダして(して)はつきり せんよん(しないように) しとる(している) やんない(でしょう)、なん(何を) しよおとも(しようとも) せんと(せずに) ぐざらぐざら しとんな(して

いるのは あやまあぐダグダやよってん (だから) とか、ぐずぐずやよってんなあ とか 言うて 間に合わん (合わない) 人をなあ。

くだし (下) 【名詞】 下痢、下剤 くだすの名詞形 (具)

くだし (管師) 【名詞】 くだぎつねを使う人 [会話] クダシの懐、雨な (が) 降る日や (は) だっぴん (ずぶ濡れに) なんね (なるのです) くだ狐が 出たり入ったりするもんで (ので)。

くだしをかける 下剤を服用する [会話] くだし言うて 下剤 くだし飲んでなあ 言うて 便秘して クダシカケル 言うてなあ、よお (よく) 言うやんかい (言います)。

くだす (下) 【他サ五】 下痢する [会話] 腹 クダス、びいびい やれまあ (だ) 言うて、なちいさん (那智山) やれ まあ言うて、腹クダスとなあ、腹くだした 言わんと (言わずに) なちいさんやよお (だ) 今日 言うて。

くだす 暮す (志)

くたた (食) 食べてしまった [会話] 食べたた (てしまった) 言うのをな クタタ 言うて、おんな (俺が) まあ クタタレ言うてな のな (お前が) くんのん (来るのに) おっせいもんで (遅いので) まあ クタタ。

くたためる 【他マ下一】 説教をする 言いきかす 苛める (志 (浜島 布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、度) [会話] クタタメル言うな (のは) あげな (あんな) 事して あいな (あんな) 事したとか そいな (そんな) 事 言うてとか 言うて、いじめる事を クタタメル言うなあ いじめる事をなあ クタタメラレテ 言うやんかい (言います)。いじめられる言う事

くだつかう くだぎつねに予告させる くだぎつね参照

くたて (食) 食べてしまって [会話] おそかって おらな (私達が) ごっつお (御馳走) 皆 クタテ。

くたばった 1) 疲れた 2) 死んだ [会話] ¹⁾ 疲れた 言う事 クタバッタ 言う、まあ、今日は仕事な (が) えろおて (大変で) 疲れて 言うのをな クタバッテ ぐたぐた やよお (だ) 言うてな。²⁾ 死んだ 言うのも あの家 の爺やん な (が) クタバッタんて われ (そうだ) 言うて。

くたばりごこない。くたばりごこない (くたばりごこなひ) 【名詞】 死に損なう事 又、その人。老人をののして言うのに用いる [会話] 死に損ない 言う事や

な (です) クタバリゾコナイ言うの (のは)、死に損ないの事をなあ、クタバリゾコナイ。

くたばりぞこのた 死に損じた。のた なったの訛。

[会話] クタバリゾコノタ言うて、いきそこのた (行きそこなった) 言うんかいなあ (言うのでしょうか) いきそこのた 言うて 病気な (が) 全快した、いきそこのた、また 持ち直ったよお 言う事もなあ、冗談 八分ん (に) 言うけどなあ (言います)、くたばった ねやか (のか) おもや (思えば) 又、あやれ、いきゃがって (生きあがって) 来たれ (来た) いきそこのたん なあ (のだ) 言うけどな。

くたばる 【自ラ五】 1) 動かなくなる程ひどく疲れる

へとへとになる へたばる (志 (布施田)、鳥、多)

2) 死ぬのをののして言う語 (志 (甲賀)) [会話]

¹⁾ クタバる言うのは 疲れる。今日は よけ (沢山) 仕事して ものすごお (ものすごく) 疲れる事をクタバる 言うの。クタバッタ言うて、今日はまあ (もう) 仕事な (が) えろおて (大変で) クタバッタよお 言うて、ちよいとの (少しの) 事 やったら (だったら) 疲れた言うとんねけど (言っているが)、ああ クタバッタよお 言うたら (言ったら) ものすごお (ものすごく) かいだり (だるい) 事。かいだるい事を かいだり。

くたびれ (草臥) 【名詞】 疲れる。疲労。

くたびれもおけ (草臥備) 【名詞】 疲れだけが残って何の利益も無い事。骨折り損。

くたびれる 1) 疲れる 2) 長く使って、みずばらしくなる。

くたぶれ 【名詞】 疲れ (鳥、三、鈴郡、一、名)

くたぶれた 疲れた [会話] きい (気) くたぶれん (に) クタブレタ言うのなあ (のです)。

くたぶれもおけ (くたぶれまうけ) (草臥備) 【名詞】 骨折り損 (上、阿)

くたぶれる (草臥) 【自ラ下一】 疲れる 疲労する くたぶれるの変化した語 (伊、松、桑市、具、三、鈴市、多、上、阿、張、尾) [会話] 手首な (が) クタブレテ 痛いやんない (でしょう)。

ぐだべ。ぐだべえ 【名詞】 泥酔する事 酔っ払い ベべえ、兵衛、擬人化した語 (志 (布施田)) [会話] 酒飲み クダベエで くだまく のをなあ。なんも (何も) 仕事もせんと (せずに) 酒ばっか (ばかり) 飲んで、グダベエで、酒ばっか 飲んで グダベエ になって。

くだまく 酒に酔ってくどくどと喋る (松、多、尾、

南) [会話] 酒 のおで (飲んで) クダマク、親父や
(は) 酔っぱらよて クダマク、おかやん (母さ
ま) 朝から 寝ござ 巻く。

くだめ【名詞】 ふくだめ ふく 流貝子 とこぶし ミ
ミガイ科の巻貝。アワビ類の一種で殻はアワビに似て
居るが、はるかに小さく長径8cm位、外面は褐色、
または褐緑色で細かい刻み目が有る。内面は青みを帯
び真珠光沢が有って美しい。殻の外縁に6~8ヶの穴
が一行に並んでここから排泄する。肉は美味。(志
田、布施田、御座) [会話] クダメ言うな (の
は) ふくだめの事、クダメ言うと 鮑のちっちゃい
(小さい) のおより (のより) おつきい (大きく) な
らしえん (ならない)。あや (あれは) あれより おっ
きい ならしえん ねよって なあ (ならないのだから)
ふくだめの事を クダメ言うの。

くだもん【名詞】 果物 木や草になる食用の果実 (張)
[会話] 穀物でもクダモンでも よその国から もてく
るもんで (持ってくるので) がしん (飢饉) 知らん。

くだらく【名詞】 下痢 普陀落の意味借用 (北)

ぐたらぐたら【形容詞】 1) 愚図愚図といままでして
いるさま 2) 不平不満を言うさま 3) 泥酔してい
る様、又その人の雑言 [会話] のんだくれ (酒飲
み) な (が) グタラグタラ 言う とられ (言ってい
る)。

くたられ 食べてしまう

くだらん つまらない、役に立たない。くだらぬ訛。読
みが下らぬ、理屈が下がらぬの略。(広辞苑)

くだりごさい【名詞】 鮫が青の峰参りをして帰る日 山
から降りる日 ござい参照

くだりざか【名詞】 落ち目になる 次第に悪くなる事。
(上、阿) [会話] 天気クダリザカ、商売もクダリザ
カ、商売もクダリザカで、あの家や (は) 言うて、お
り坂の事も、クダリザカやなあ (だ) 言うし。

くだりばら【瀉腹、下腹】【名詞】 下痢 はらくだし
はらくに同じ

くだりぶね【名詞】 屋根の形

くたる 食べる 食べてやる (志 (鶴方、神明、立神、
志島、甲賀、国府、安乗)、北) [会話] 食べた
る (てやる) 食べる事を クタル 言うの (のです)。
なんもかも (なにもかも) 皆、くたて (食べてしま
って) なんも (少しも) ないない (無い) 言うて、し
んしょ (財産) しもて (失なつて) 人ん (に) 損かけ
られて すんのもなあ (するの)も。あの人ん (に) く
われたんて ない (食べられたそう)だ 言うてな。金、

貸し とて も (ていても) 戻 させ ん し なあ (ない) し そ
いな (そんな) のおを、あの人ん (に) く われたん
て われ (食べられた そう)だ あの家 まあ 言う やん
かい (言います)。

くだる(下)【自ラ五】 1) 下痢する 2) 貰う 3)
上から下にする [会話] 舟 な (が) クダル。上か
ら くだ って 来た、言う て な 上 い (に) 登 っ とん の な
(ているのが) くだ って くん ね て われ (来るのだそ
う)だ 言うてな、貰 ら う の も な、ど こ そ こ か ら ク
ダル 言 う て、呉 れ た の お を (のを) 言う時 あ ん な
あ (有ります)。

くたれ 食べてしまえ、食べなさい

くたろ 1) 食べてやろう たろは、たらうの訛 2)
食べよ 食べてしまえ [会話] まんじゅう はん
ぶ (半分) 食 い 残 し と、く い さ し を (食 い 残 し を) ま
あ、だ れ (どれ) ク タ ロ か い な あ (かなあ) 言うて。

くたろん 食べてやるぞ

くち(口)【名詞】 1) 言葉 話し 言語 世間の評判 う
わさ 2) 仕事、仕事先。3) 生活 4) 漁の解禁と
禁止、期間、口あげ、口どめ。(志) [会話] 磯 の ク
チ な あ い た。茶の ク チ な あ い た。ク チ な (が) あ
い た 言 う な (のは)、今 日 か ら 始 ま る 言 う の な あ
(言うのです)。く ち あ け も 一緒。

ぐち【名詞】 海漁、いしもち、いしもち参照 (志、四、
南、熊)

くちあかさせん 自分が喋り続けて相手に話をさせない。

くちあけ(口開)【名詞】 海の産物を採る事の解禁、い
りあい (入合) に関係した村落慣行の一つ、口開けと
は、もと物事の始めを意味する言葉で、一般に山の口
開け、鮑の口開けなどと呼び、その採集物ごとに採集
開始の日時や期間を村落自治体で定めその採取の開始
を、…の口明けと呼んでいる。一度口を明けてしま
うと、以後数ヶ月内至半年位は自由に村人に採らせる
場合と、一日だけ口を明けて、又別の日に口を明けた
り、或いは一カ月の内、二と七の日だけ口を明けると
言うような口の明け方もある。(志 (浜島 布施田)、
鳥) [会話] て ぐ さ (天草) の ク チ ア ケ や (だ)、め
え (若布) の ク チ ア ケ や、言 う て、今 日 か ら 口
な (が) あ い て 言 う、採 る そ の 日 か ら 入 ら れ る 言
う 事 な あ (です)。ク チ ア ケ や (だ) 言うて 昔 や
(は) あ ら め の 口 な (が) あ い た ど よ お い (明いた
ぞ) 言うて ふ れ よ お つ た (ふれました)。あ の ふ れ
る 人 の 事 ご よ じ 言う。口 な (が) あ く と、「よ
お 〜 い 荒 布 の 口 な (が) あ い た ど (ぞ) よ お 〜、茶

の口な あいたど よお〜い」言うて、茶摘みな
(が) クチアカケルと その日から 受け取るもんで
(ので) 家の飲み茶は いつ 摘んでも ええんけどな
あ (よいが)、渡す人らは 口な (が) あかな (明か
なければ) 一緒の日やなけな (でなければ) 受け取ら
へん (ない) やんない (でしょう)。そやもんで (そ
れだから) ふれよおったの。鮑のクチアカケと 天草と
荒布と茶、若布と貝の口な (が) あって 海老のクチ
アカケ 海老網のクチアカケ、おしま (大島) のクチアカケ。
おしまの口な (が) あいたどよお 言うて、しょんが
つの (正月) 十五日ん なんと おしまの口な (が)
あいた、島のもん (物) とんの (採るの) ふのり 摘
んだり あまのり採ったり、しょんがつ 十五日ん
(に) なんと おしまの口な (が) あくと。

くちあげ【名詞】 嘔吐 嘔吐したもの げえげえ
[会話] クチアゲ言うな (のは) げえ (嘔吐) 申す
のを 言う。子供な (が) 乳よおけ (多く) 飲んで
あます (嘔吐・あまらす) のを あげて言うて。

くちあたり (口当)【名詞】 1) 食物の口内に於ける感
じ方。2) 上手な物の言い方。

くちあまや 食べて行けない。あまはくどの上に吊るし
て有る道具で、口つるに同じ。

くちあらい 言葉が粗雑である、乱暴な言葉使いをする
[会話] 口 汚たのお (なく) 言う にげやなあ (人
間は) クチアロオテ 言うて、あんまり (あまり) ぞ
つきん (図々しく) 言う にげや (人間は) クチアラ
イ言うて。

くちあらしい (くちあらしひ) (口争)【名詞】 お互い自
分の意見を主張して言い争う事 口喧嘩 [会話] ク
チアラソイ すんのも (するのもの) やつもつさ 言う
て、せりやい (争い) したれ (しました) 言うて 口
喧嘩する事。

くちいじめ【名詞】 悪口や皮肉を言って、言葉でいやが
らせをする事 [会話] なんやかや (いろいろ) 言
い つめたり、あてこすり (皮肉) 言われたりな (で
ず) クチイジメ しやれて (されて)

くちいわず【名詞】 もの言わず [会話] クチイワズ 物
言わず 言うけど。あや (彼は) 物言わずやなあ (だ)、
人に挨拶もせん (しない) にげ (人間) を あや も
の言わずでな。

くちおも (口重)【名詞】 軽々しく物を言わない事 口
数が少ない事、又、そのさま [会話] クチオモ言うな
(のは)、よおけ (沢山) べたべた 轉ずらんと (喋ら
ずに) おとなし (おとなしい) にげ (人間) なあ (で

ず)。口な (が) 重おて (重くて) 言うけど、喋るに
げや (人間は) 口な (が) 軽い くちがる。

くちがあく 漁が解禁になる。くちあげ参照

くちかける 1) 依頼する。相談する。2) 話かける。

[会話] 1) クチカケル 口かけといたねけど (かけて
おいたのだが)、たのんだ (頼んでおいた) たのだ
(頼んだ) 言うて。昔や (は) あそこい (へ) 頼んで、
雇とて (雇って) くれとか つこて (使って) くれと
か 言うて。

くちがさ (口瘡)【名詞】 口の両端に出来る出来物 口角
炎 (三重県全域) [会話] 口の ふちい (周囲に) 出
来んの (出来るのを) クチガサ なあ (です)。今しや
(今は) 無いけど (が) 昔 クチガサな (が) よお
(よく) 出来よおったなあ (出来て居ました)。クチ
ガサな (が) 出来て 此処らも かぶたんなつてなあ
(痂疲なつて、出来よおつたわい)。

くちがしこい (口賢) 上手に喋る人 [会話] クチガシ
コイ、口利巧で 言うて 上手ん (に) 言う人、クチガ
シコイ言うて 誤魔化したる (てやる) よん (に) 言
う人

くちがじよおずだ。くちがじよおんな 言葉巧みに話す

くちかず (口数)【名詞】 ものを言う数 言葉の数 (志
(布施田)) [会話] 喋べるの よけ (沢山) しゃべる
にげや (人間は) クチカズな (が) おいいて (多く
で) 言うし、無口な人 クチカズな (が) のおて (無
くて) あの人言うて、ぼえぼえ ぼえぼえ 言うて、お
おた、クチカズな (が) おいて (多くで) 言うて、な
んやかや (いろいろ) くどくどと、あれも しときや
ええけど (よいが) これも しときや (しておけば)
ええけど 言うて まあ ほん (本当に) クチカズな
(が) おいて ぼえぼえと 言うて

くちがすいなる。くちなすうなる 何度も繰り返し同じ
事を言うので、言うのが嫌になる (上、阿、張) [会
話] クチナ (が) スウナル程 言うても 聞かせん (聞
かない) 言うてな、言う事聞かんとなあ (聞かない
と)。おおた あげん (あんなに) クチナ (が) スウナ
ル程 言うて あんのん (有るのに) また そげな (そ
んな) 事 しとんのか (しているのか) 言うてな、ク
チナスウナル程 言うな (のは) 何回も 何回も繰り返
して 言うて 口の方な (が) なつとか (なんとか) し
てくんのかいなあ (して来るでしょうか)。

くちがたっしや 雄弁で有る。

くちがみ (口囁)【名詞】 反抗する時の言葉 反抗 口答
え (志 (布施田)) [会話] クチガミして 泣いて言う

てな、ああ おれげ (俺家) の とおやん (父・主人) な (が) 有る時や (は) ほん (本当に) こげなかつた のん (こんなのだったのに)、言うて、いろいろと 有った事を 言うて クチガミして 泣いて 言うてな。

くちがみかむ 反抗してものを言う。口答えをする。

[会話] ぐずぐず ぐずぐずと 言うた様な事 ばっか (ばかり) 言うてな (言っていて)、くだらん事を 言うて 泣いたり 怒ったり しとんのをな (しているのを) クチガミカム。

くちからくり【名詞】 仕事を探す事 就業先を探す事 働き口を探す事 [会話] クチカラクリ 言うな (のは) 仕事を 探してなあ、お前とか (所は) にげ (人) な (が) 要らんかい (要りませんか) とか、どこそこで、人、頼む 言う 家や (は) 無いかいなあ (無いだろうか) とか言うて、仕事の先を からくん のを (探すのを) クチカラクリ なあ (です)。ぜんかせぎ (金稼ぎ) な (が) 無いとなあ、ぜんかせぎの 口な (が) のおて (無くて) 言う やんない (でしょう)。口は働くとこ (所) ぜんかせぎん 行く とこな (所が) 無い 言うのを 口な (が) のおて (無くて) 言うてな、口な (が) のおて 遊んどんね (でいるのだ) まあ 言うてな、そやもんで (それで) クチカラクリ したらな (してやらなければ) はざん (いけない) 言うて。

くちがる (口軽)【名詞】 よく喋る人 [会話] 喋るにげ や (人間は) 口な (が) かあるい (軽い) クチガル。

くちきき (口利)【名詞】 仲介に立つ人 (松) [会話] クチキキ 言うな (のは)、あの家 い (へ) やとて (雇って) くれとか、なんを (何を) 買おて (買って) くれ とか 言うて 頼む (のを)。クチキキン (に) たの で (頼んで) 言うて、私が 口きいたるわい (頼んであげます) 言うて。たのだる (頼んでやる) 言う。頼 んだる (でやる) 言う の (のを) クチキク 言うの。

くちきく 仲介に立つ。仲に入ってまとめる くちきき 参照

くちぎたない (口汚)【形容詞】 喋る言葉が下品である。

くちきよお。**くちきれえ** (口綺麗)【形容詞】 食物をむさばるように食べないさま 食い意地の張っていないさま

くちきり (口切)【名詞】 最初に事を初める。封切り。

くちきれ【名詞】 生れつき上唇の完全に隔合して居ない事 [会話] クチキレ ここな (鼻の下から上唇まで) が 切れとると (とっていると) あや クチキレ やなあ 言よおった (だ言っていました)。

くちぎん (口銀)【名詞】 手数料 口銭 (志 (布施田))

[会話] クチギン 言うて 一割つ (づつ) あげん (上納するのです) クチギンを 一割 引くとか 五分 引くとか 引くやんかい (引きます)、三円 なのお (で) すると 三十銭 する時もあるし クチギン 五割 とか言うて、クチギンを 出すやんかい (出します) くみやい (組合) え (に) 納めん (納めるのです)、くみやい の手数量。

くちぐら【名詞】 唇 [会話] 芋切 て 芋食 て 芋 の 乳 (あく) を 真つ黒ん (に) クチグラ へ つけて。

くちごたえ (くちごたへ) (くちへんとう) (口答)【名詞】 口答え 口返答 目上の人言葉に逆らって言い返す事、又そのような返答 [会話] クチゴタエ 言うな (のは) こげん (こんなに) 言うて、あげん (あんなに) 言うて 言い訳すん (する) のを。言い訳すや (すれば) クチゴタエん (に) 当るし 言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。そおやないけど (そうではないが) それ 言うて わけて (言わけて・説明して) 言や (言えば) クチゴタエん (に) 当るし な 言う。わけて 言う事を クチゴタエ クチゴタエ して 言うて。わるわれて (叱られて) クチゴタエ する 言うて 親らな (が) 怒るやんか (怒ります)、クチゴタエすんな (するな) 言うて。言い訳すると。

くちこんじよなわり 口汚ない 物の言い方があしざまである [会話] 口汚い 事を言うのを クチコンジョナワリ 言うね。ぞぶくる (大食い) よ、なあとすん (何をするのに) うしやがったねよ (来たのか)、こ い な と こ い (こんな所に) 道やないねど (ではないのだ) 言うて、口汚のお (なく) 言うのを クチコンジョナワリ 言うてなあ。

くちさきばっか 有言不実行、言った事に行動が伴わない。くちばっかに同じ。

くちさべし (口寂)【形容詞】 口に入れる 又は、口にするものがほしい感じである 口にする物がなくて、物足りない くちさみしい [会話] クチサ (が) サベシ われ (です) 言うて、なんか (何か) たま (飴玉) でも、しゃぶらしとけ (ておけ) 言うて なんか 食べたい 様な。

くちざわり (くちざはり) (口触)【名詞】 飲食物を口に入れた時の感じ [会話] クチザワリ、舌ざわり な (が) ええこと (よい事)。

くちしのぎ (口寝)【名詞】 生活

くちじゃみせん (口三味線)【名詞】 口で三味線の音や曲を出す事。

くちじょうず (くちじゃうず) (口上手) 【名詞】聞き手を喜ばす事が上手なさま 口先がうまいさま 又、その人 [会話] クチジョウズ言うの、ほた (ああ) あんた (貴方) 偉いなあ なんでも 知っとて (知っていて)、して 金持ちで なんや (とか) 言うて、上手ん (に) 言う事を 上手言う事を。

くちじょおもん 【名詞】口約束 [会話] クチジョオモン (口証文) では はざんわれ (駄目だ) 言うて、口だけでは 今日貸しただあ (貸したぞ) 言うて ああかった (借りた) 言うぐらいでは まあ おら知らん (俺は知らない) 言うたや (言ったら) ま そんで (それで) はざんねてわい (駄目だそうだ) 言うて。証文とつとかな (取っておかなければ) 言うて クチジョオモン言う時は口約束 口で そや (それ) 借した ああ かった 言うて 言うだけでは はざん。

くちじろ 【名詞】いしがき鯛の雄の老生。

くちすけべのいろまんた 【俚語】言う事は如何にも性について知って居る様に、振舞うが、実際には性について無知である事、また、その人。

くちだい 【名詞】口代 食事代 食費 [会話] 食事代言うのを クチダイ 言うてなあ。食事代 拂え 言うのを わがとら (自分の) 食うクチダイぐらい 拂え まあ (拂いなさい) 言うて

くちたたく (口叩) 【自カ五】よく喋る 大言する [会話] 喋んのをなあ (喋るのを) 九年 くよもは鍛冶屋を なるて (習って) 鍛冶屋 叩かず クチタタク 言うて 九年も 鍛冶屋 習いん (に) いたんけど (行ったが) 鍛冶屋は えごと (完全に) よお (よく) 習らわんと (わなくて) 口ばっか (ばかり) 喋ったりおった (ていました)。

くちちゃ (口茶) 【名詞】茶の出が悪くなり、それを補うために入れる茶の葉、又それを入れること

くちつける 1) 食べる。食べ始める。 2) 始める。

くちづたえ (くちつたへ) (口伝) 【名詞】人から人へ言い伝える事。

くちづて (口伝) 【名詞】くちづたえの略 人から人へ言ひ伝える事。

くちっばい。ぐちっばい (愚痴) 【形容詞】理屈が多い。愚痴をこぼし勝である 愚痴の多いの急呼 (大言海) ばい 接尾っばいの形で名詞、形容詞に多くついて、そのような状態を帯びている事を表す [会話] グヂッポイ。なんやかや (種々) 言うて、グヂッポイ事言うて、そおや (そうで) あるかれ (ない)、そや (それは) ちがわれ (違う) こおやれ (こうだ) 言うのを、

クチッポイ 言うて。グヂッポオテ (くて) ほん (本当に) あんな (彼の) 言う事な (が) すかん (嫌い) で グチッポイ事ばっか (ばかり) 言うて。力、入れてのらな (お前らが) そげん (そんなに) 言うたてて (言った所で) そや (それは) どおやれ (どうだ) そや こおやれ 言うて すん (する) のをグチッポオテ言うて。そいな (そんな) 事を どんぎれ (大便・固い大便) 言葉で 言うのな (のが) グチッポイなあ あや (彼は) 言う。クチッポイ ものの言い方して 言うて。どんぎれ言葉言うのは 大きな声で 威張るよ おん (に) 言うのを、どんぎれ言葉 言うやんかい (言います)。クチッポイ事ばっか (ばかり) 言うて クチッポイ言うのと グチッポイ言うのは 一緒や (です)。人な (が) どげや (どんなんだ) 言うたてて (言っても) めったん (に) 人のこた (事は) 聞かんと (聞かずに) わがと (自分) な (の) 言う事ばっか (ばかり) 大きな声で怒鳴って クチッポオテ まあ 言うの。

くちつる 食べて行けない。

くちでつむ 口の中へ入れて歯で潰す。 [会話] クチデツム 言うのは 口で ぷつんと 潰すのなあ (です)。ひよおそくつけて 蚤とんね (とるのだ) 言うて 寝る前に 座敷や寝間い (へ) いといて (行っておいて) しとんねやんかい (して居るのです)。人な (が) 歩いて いかん (行かない) 時ん (に) ぼつぼつ ぼつぼつ そして それ取って 潰しとると (て居ると) 飛んでくやんない (行くでしょう) ほかん (の) のおな (のが)、そやよって (それだから) 口い (へ) なあ。皆なあ クチデツムヨよおった (潰して居ました)、今しや (今は) 入れ歯やよって (だから) つまれやせんし (ないし)、昔やわが歯やよって (自分の歯だから) 蚤もつんだり 糸でも かちかちと 糸切り歯 (犬歯) で 鉄 いらんかったけど (要らなかったが) 今しや 鉄な (が) 切らされやせんね (手離し出来ません)、そやよって (だから) 蚤も、しらめも 皆 口で潰しおったの (潰して居たのです) 血を分けた兄弟や (だ)。汚い言うても ほんと ん (本当に) にげ (人間) のちい (血) より 吸うと らせんねよって (吸って居ないから) 猫や、いん (犬) の蚤や (は) ほぼらせんけど (口には入れないが) わがとらな (自分達の) 蚤やとか しらめは 昔の人ら クチデツムヨおったわい (潰して居ました)。えっちゅう (越中、禪) から 備後表 (畳) へ 跳んでくんよって (で行くのだから) うっかり しとられ

やへん (して居れない)。ほんどん (本当に) 昔やよお、蚤なおりおった (居ました) 敷布も 蚤の糞で真っ黒ん (に) なりおったのん (なったのに) 今しゃ蚤の糞 言うの (のを) 見た事無いやんな (でしよう)。

くちど【名詞】 入り口。出入口。(志(布施田)) [会話] 金閣寺 入ってく (て行く) クチド 有るやんない (有ります)。

くちどがめ【名詞】 口答え [会話] クチトガメ、そげん (そんなに) 言うけど (が) そや (それは) こおやんかい (こうです) 言うてな 逆らう事を 口答えする 言うてなあ、クチトガメや (だ) 言うてな、口答え 言うの (のを) クチトガメや 言うて、おなごさい (女の分際) で、クチトガメ して 言うてな わるわれよおった (叱かれて居ました)。

くちとしま【名詞】 若いのに如何にも情事について知って居る様に言うこと、その人

くちどめ【名詞】 1) 禁漁にする事 (志(御座)) 2) 言う事を禁止する [会話] 鮎の クチドメとか、くちな (が) 止ったどよおい (止まりました)、荒布の口な (が) 止ったどよおい言うて、ふれよ おった (触れまわりました)。よおい あしたは 荒布の 口な (が) あいたどよおい (解禁になった) 言うて こんだ (今度) 三日、四日、かずいて (採取して) 荒布の 口な (が) 止ったどよおい 言うてふれよおった。

くちとんがらす 不平を言う。口をとがらす。(志(布施田))

ぐちな 不平不満に満ちて言葉に出す。

くちなあ【名詞】 くちなわ 朽蛇、蛇類の総称 青大将 (志(布施田、国府、浜島、安乗)、鳥(答志、桃取、坂手、相差、国崎、加茂)、松、桑郡、桑市、三、多、度、北、尾、南、熊) [会話] クチナア言うのは 蛇の事なあ (です)。クチナアや。噛むのを まむし 言うし (言います)、クチナア 青大将やら なん (なに) やら 言うのなあ (のを) そや (それは) クチナアやれ (だ) 言うて、がいん (たいして・だいたい) 人噛まへんの (噛まないのを)、おっきい (大きく) ならへんの (ならないのです)。ならん (ならない) 時 クチナアな (が) 出て来て言うて。青大将やら 鼠とりやら 鼠とり言うな (言います) あれやなしん (あれでなくて)、まだ おっきいならんのおを (大きくならにのを) クチナア。

くちなあく 漁が解禁になる。くちあけ参照

くちなあし【名詞】 くちなしの花、くちなし アカネ科

の常緑低本、幹はよく分枝し高さ2m位になる。葉は光沢有り長さ6~9cmの随円形で先は尖り短柄を持ち対生する。初夏枝の先端に6~8cmの高盆状の六弁花を單生する、花は初め白色でのち淡黄色に変る。果実は長さ約3cmの長随円形で萼筒につつまれたまま黄赤色に熟す。黄色塗料、利尿剤として利用する。

[会話] クチナアシ言うて もも (実) のなんの (なるのを) くちなし、クチナアシ言うて引っ張んの (引っ張るのです)。昔や (は) むに膏やら なんやら つこて (使って) 小麦のこお (粉) クチナアシ入れて とんがらし (唐辛子) も きぞで (刻んで) 入れて 卵とこねて。

くちなえ【名詞】 蛇 [会話] どげな (どんな) 蛇 見ても 蝮見ても クチナエ (くちなわ・蛇) 見ても ふくのり (小さな蛇) 見ても まむしや (だ)。

くちなうまい 上手に言う。巧言を言う。

くちなえらい よく喋る 雄弁である 喋って人をやりこめる程である [会話] クチナ (が) エライ人に 行きあわすと (当ると)、こてんあわんわれ (手におえない) あや (彼は) クチナ (が) エライよってん (から)。

くちなおおい よく喋る。喋り過ぎる。要らぬ事を言う。出しやばる。

くちなおし(口直)【名詞】 まずい物や苦い薬などを飲食した後で、その味を消すため別の物を飲食して前の味を消す事 又、その物(上、阿) [会話] クチナオシ言うて、薬とりも一緒や (です)。お菓子でも たま (飴玉) でも 薬のおだ (飲んだ) 後で、食うのを (食べるのを) クチナオシとか、飯でも何んか (何か) 油濃いもん (物) 食べたてなあ (食べてしまつて) 口な (が) なめなめしとると (していると)、ちよいと (少し) さっぱりしたもん (物) な (が) ほしなあ (欲しい) クチナオシん (に) 言うて、油濃いもん (物) とか、味無いもん (物) 食べた時や (は) おおた、クチナオシん (に) なんか ほしなあ 言うてなあ。

くちなおっせい 喋り初めが遅い。

くちなおぼたい あまり喋らない。

くちなかたい あまり喋らない、聞いた事を触れ回さない。

くちなかるい お喋りだ。軽率に物を言う。

くちなかわい 食べて行く事 生活だ大事で有る。(志(布施田))

くちなきよう 食べ物に対し卑しくない 食べ物に対し

淡泊である。食べ物に対しあまり欲しがらない。特に間食に対し執着が無い。[会話] よけ (沢山) もしゃもしゃと食わせん (食べない) 人を クチナ (が) キヨオななあ言うて。

くちなきれい くちなきよおと同じ。飲食物に対して、慎みがある。くちきれえ参照 [会話] クチナキレイや なあ (だ) 言うな (言います)。口な (が) 器用な なあ (だ) 言うな (のは)、なんやかや (いろいろ) よけ (沢山) 食べやせんのなあ (食べないのです)。上品で食べやせんと (食べないと) あの人、器用な人や なあ (だ) 言うて、おおた、おら (私は) なんでも ほぼくんのん (ほほぼるのに) あの人、なんも (なにも) 食わせんなあ (食べない)、器用な人やなあ 言うて、よけ 食わせんのを 器用な言うて。

くちなきれ よく喋る [会話] よお (よく) 喋ん (喋る) のを、切れる あや (彼は) クチナ (が) キヨオキレンねよつて (のだから)。

くちなさえる 上手に喋る。

くちなじょんな 言葉巧みに喋る。

くちなすうなる 繰り返して言うので、口がだるくなる。言うのが嫌になる。くちがすいなる参照

くちなすべる つい言ってしまう。

くちなたっしゃ 雄弁で有る。

くちなのおて 働く所が無くて

くちなほとる 口の中があつくなる 一つの味でいつまでも占められている。[会話] 餡がしん (菓子) ロい (に) 入れといて 食うと、三銭で 十五も 買われるん (買える) やんかい (のです)、それ食うと クチナ (が) ホトツテ くんね (来るのです)。

くちなまある よく喋る

くちなめずり (くちなめづり) (口舐り) 【名詞】 舌で口の周りをなめまわす事 口なめずり、なめずる 舌で唇のあたりを舐め回す事 嘗め釣るの意。(大言海) (南) [会話] クチナメズリ言うな (のは) 唇 舐めんの (るの)。クチナメズリして 言うて よお (よく) 言うやんかい (言います)。クチナメズリやよつてん (だから)。

くちななめる 口の中が粘つく感じがする。味の濃い物などを食べてその味がいつ迄も残って粘る様な感じだ。

くちなわ (くちなわ) 【名詞】 蛇 くちなあ参照 (志 (国府 畔名 浜島 安乗)、鳥 (鳥羽 桃取 坂手 相差 国崎 加茂)、伊、松、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、亀、安、津、久、一、飯、多、上、阿、張、名、度、尾、北、南、熊)

くちなわり 1) 食欲がない 2) 言う言葉か下品である 言葉に棘がある [会話] 1) 飯な (が) うまない (まずい) とか、おつけ (味噌汁) な (が) うまない 言うのなあ、クチナワリ言う。そして 2) 人のわりくち (悪口) 言うてなあ すんのを (するのを) あや (彼は) クチナワリ (悪口を言う人) なあ (だ) 言うて、人のあらばつか (欠点ばかり) さぐつて (探して) まあ言うて 悪口言うたり 皮肉言うたりすんのなあ (するのです)。

くちにあえてもめにあえん 【俚諺】 腹は一杯で食べたくないが、目で見ていると食べたくなる。[会話] クチニアエテモメニアエん言うて みとりぐい (腹が膨れても見ていると食べてしまう事) で、見とるとさいご (見ていると) くたんのなあ (食べてしまうのです)。

くちにあう 食べ物が好きな物である。

くちにあわん 嫌いな食べ物

くちにかかる。くちんかかる 1) やり込められる 2) 食べ物の中に異物が有って口に残る [会話] 2) なんやら (何か) まあ がりがりと 砂な (が) 有つて クチンカカル言うてなあ、はあ (歯) い (に) なんかも 噛みしめたと (しめてやると) “がじ” 言うとなあ、おおた 気持ちな (が) わりなあ (悪い) 言うて、1) あんな (彼の) クチニ カカッタ おおじ よやれ (終わりだ) 言うて ゆいまげられたり (言い伏せられたり) まるけられたり (まるめられたり) すんのをなあ (するのを) あんな (彼の) クチン (に) カカッタ おおじよやれ 言うて。

くちのか。くちのかあ 【名詞】 口上手、言う事、喋ること、(志 (布施田)) [会話] クチノカナ (が) えろおて (偉くて) 言うて、口な (が) えらい。よお (よく) 喋る言う、いらん (いらぬ) 事を よお 喋る言う事やなあ (です)。クチノカ 叩いて 言うよつてん (から)、いなん (いらぬ) 口 よけ (多く) 喋るにげ (人間) を、クチノカ 叩いて 言うて、ほんと (本当に) あや (彼は) 口な (が) えらいな (大変だ) 言うて。

くちのかあばか 言うだけで、実行しない。有言不実行。

くちのみ 【名詞】 飲むための容器 (湯のみ、茶碗、コップ等) に注がず、やかんや土瓶の注ぎ口から直接口に当てて飲む事 (熊) [会話] 茶瓶から、徳利から そんなり (そのまま) 飲む だっぱ (ラッパ) 飲みすんのを (するのを) クチノミ。

くちは。くちのは (口端) 【名詞】 言葉のはし、話の種、噂、[会話] ええ (よい) 事でも、わり (悪い) 事でも

も 人のクチハん (に) 乗るもんなあ (乗ります)。

くちばしる (口走) 【他ラ五】 1) 言うの卑語 2) 失言する。言ってはならぬ事を思わず言う。

くちばっか 有言不実行。言うだけで実行が伴なわない事。(南) [会話] クチバッカ言うななあ (のは)。あれもしたるわ (してやる)。此も したるわい (してあげます)、あれもくれるわい (あげます)、これも くれるわい 言うても 嘘ばっか (ばかり) 言うてなあ、クチバッカで、なんもなあ (少しも) 仕事も してくれやせんし (くれないし)、くれるわい 言うて おって (居ながら) くれんと (呉れずに) おってなあ (居て)。そすと クチバッカやない (だ) 言うのなあ。わしげや (私の家は) なにが 有るよって (から) やるわい (あげます)、これも やるわい 言うてなあ、こっちや (こちらは) 貰らう おもとる (思っ居る) やんない (でしょう)、そすと 何時ん (に) なっても 呉れやせん (呉れない) もんでなあ (ので) あやまあ (彼は) クチバッカやななあ (だ) 言うてなあ、はつち (蜂) のすう (巢) で、クチバッカやれ (だ) 言うて。

くちび 【名詞】 海魚 ふえだい 全長40cm位。体は隋円形で側扁し物はややとがる。体色は橙赤色で鱗は黄褐色。目の下を頬を横切る 青色の線が有る。(南) はまふえふき スズキ目フエフキダイ科。フエフキダイ属。頭長は体高より小さい。目から2、3本の青色線が放射状に出る。

くちびろ (唇) 【名詞】 唇 くちびる ろーる (志 (国府、志島、片田、布施田、神明、安乗、鶴方)、鳥 (鳥羽、相差、国崎)、伊、松、三、鈴市、亀、安、津、一、飯、多、上、阿、張、名、度、北、尾、南、熊) [会話] くちびる言うのを クチビロ クチビロ 舐めて。

くちふさぐ 1) 喋らない 2) 喋らさない

くちべた (口下手) 【名詞】 ものの言い方が下手な事 [会話] クチベタな 人らな (が) 気に障る事言うたりなあ したんの (してやるのです)。人ん (に) 判るよん (ように) よお言わんで (言えなくて) クチベタな (だ) 言うの。なんでも (なにでも) 得ん (に) する様な事よお言わんとなあ (言えずに)、クチベタで言うてな。

くちべらし 【名詞】 人数を減らす事。特に家族の数を減らす事。奉行に出すこと。人身売買。(上、阿) [会話] クチベラシ言うと、食うもん (食べ物) な (が) 要る。家内な (が) おおげ (大勢) で 食うもん な

(が) 無いとなあ、クチベラシん (に) 働きん (に) 行かな (なければ) はざんわれ (駄目だ) 言うてなあ、口を減らすのをな。クチベラシすんのん (するの)に 食うもん な (が) 要らんよおん (ように) 何処い (へ) ても 働きん (に) 行きでもすると そんだけ (それだけ) のばってくんのん (延びて行くのに) そんで (それで) クチベラシ。秋い (へ) 働きん (に) 行くのもなあ、クチベラシん (に) 行てくるわ (行つて来ます)。茶山い (へ) ちやあ (茶) 摘みん (に) 行て来るわ クチベラシん (に) 言うて。

くちべん 【名詞】 口紅 女性が化粧のために唇につける紅 [会話] お母さんな (が) 化粧しとると (していると) クチベんでも 盗んだよおん (ように) して付けたりする、こお (子) な (が) 有るやんかい (有ります)、と、あや (彼女は) おしやま やなあ (だ) 言うやんかい (言います)。

くちへんとお (くちへんたふ) (口返答) 【名詞】 目上の人に対し、さからって返事する事 口答え (熊)

くちばかし 【名詞】 たえず食べ物に口に入れて食べている人。口卑しい人。(志 (布施田)) [会話] クチボカシ言うてな あいなしん (に) 口 いごかしとる (動かしている) にげ (人間) をなあ、クチボカシで あい無しん (に) 口 いごかしとる 言うてな。なんか (何か) 食とる (食べている) 人をなあ、絶えず いごかしとんの 食べとんの (ているのです)。口をただ 癖で いごかしとる 人も有るけど (が)、それやなしん (それでなくて) なんでも (何でも) くとらな (食べていなければ) はざん人、なんでも 口い (へ) 入れとらな (ていなければ) はざん人を あや クチボカシんよって (のだから) あい無しん (に) なんか 口い (へ) 入れとらな はざん (駄目) 言うてな。

くちぼそ 【名詞】 口が小さい事 上手にものを言う事 [会話] 目ぼそ (細い) の 女郎ん (に) 乗るもん (者) は 無いけど クチボソの 女郎ん (に) 乗らん (乗らない) もん (者) は無い。

くちまつ (口松) 【名詞】 1) おしゃべり 多弁 又、その人 まつは、擬人化した語 (大言語) (志 (越賀、浜島)、南) 2) 大人びた言い方をする子供 [会話] 1) クチマツ言うな (のは) おしやべ (お喋り) の事や (です)。よお (よく) 喋ん (る) のを クチマツ言うんやわい (言うのです)。クチマツよそこな (そこの) 言うて。2) そやけど (だけど) ひねこし (ませた・年寄り染みた) 事言うと クチマツやななあ (だ)

このかあ (この子は) 言うて、言うんやんかい (言うのです)、ちっちゃい (小さい) 子供らな (が) 大人みたい (のような) 事言うて まあ このかあ (この子は) クチマツやなあ 言うて。

くちまめ (口忠実) 【名詞】 よく喋るさま 口数の多いさま 又、その人 (志 (布施田)、北) [会話] くちまつと一緒にわい。(です) クチマメ 言うて よけ (よく) べちゃべちゃ喋んの (喋るのを) クチマメ で。

くちまらほえてきた 食べたくなってきた。

くちまらほやす 食べたくなる [会話] クチマラホヤシ タよお言うて 美味いもん (物) の 話 するとなあ、そんな (それが) 食いたなって来るやんない (たべたくなって来るでしょう)。そすと クチマラナ (が) ホエテキタ よお言うて。

くちもと (口元) 【名詞】 釣鉤と重りとの間 ハリス道糸より細くしてある (志 (鶴方、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、熊) [会話] クチモト 言うな (のは) てんぐす (てぐす) を 釣付けんのん (釣針付けるのに) てんぐす 付けるやんない (でしょう) クチモト には ほっそい (細い) ええ (よい) てんぐす 付けんねやんかい (付けるのです)。クチモト (へ) すんななあ (するのは) じっぱな (立派な) すかして 見ると 玉な (塊が) 多いのは (のが) 有るわい (有ります) こや (此れは) クチモトや (だ) 言うて、釣 (釣針) 付ける とこ (所) 鉛のあい (間) につける の (のを) クチモトや (だ) 言うて。そして (そうして) 釣 (釣針) そこい (其所) 付けると 此の位 (1m)、あい (間隔) おいて 鉛 おもいしんのおを (重い石ののを) つける の (のです) とごる (沈む) よおん (に)。

くちやかまし (口喧) 【形容詞】 口数が多くてうるさい。些細な事にも、とがめだてして、やかましく小言を言う。[会話] 色々な事を言うて たしなめんのおを (たしなめるのを) クチヤカマシ。

くちやくそく (口約束) 【名詞】 言葉だけの約束。証文などを取らずにする約束。

ぐちゃぐちゃ 【形容詞】 1) 混乱しているさま。きちんとして居なくて目茶苦茶なさま。(熊) 2) あれこれと取り止めもなく喋るさま。[会話] ¹⁾ グチャグチャ やれ (だ) まあ こや (此れは) 言うてな。 なんもかも (何も彼も) 目茶苦茶ん (に) してあんのを (有るのを)、なんもかも 雨ん (に) 濡れて グチャグチャん (に) なっとんない (なっている) 言うて、風 にも まれた場合 でも そおやしなあ (そうです)。大時

化の後 みたよなあ (のようだ) グチャグチャ 言うて。²⁾ ぐずぐずと いろいろの事 言うて よけ (あまり) グチャグチャ 言うな まあ 言うて、ぐざぐざ 言うな まあ 言うて、あれも どおやない (どうでない)、これも こおやない (こうでない) 言う人な (が) おるわなあ (居ます)、ぐざぐざ とまあ 言うて。

くちやね 食べて寝て仕事しない事。[会話] くうてな (食べては) ねえ (寝) しとんのを (しているのを) クチヤネやなあ (だ) 言うて。

ぐちゅぐちゅ 【形容詞】 濡れているさま

ぐちゅぐちゅ 【名詞】 渦、渦巻 [会話] グヂュグヂュん (に) 巻かれた 言うて、波な (が) たっかい (高い) とこから (所から) おって (落ちて) 来ると、グヂュグヂュ 巻いて 言うてな、鳴門の渦 が有る でしょ、あの渦 を なあ、渦ん (に) 巻かれた 言うて の を なあ、グヂュグヂュん (に) 巻かれた よお 言うてな。渦な (が) 巻いとる (ている) とこい (所へ) 入って くと なあ 体な (が) びりびり な って 泳がれやせん ねてや (泳がれないのです)。と、グヂュグヂュ 巻かれて 言うて。

くちよお (くてう) (口調) 【名詞】 話をする調子 言葉の言い回し [会話] あんな (彼の) クチヨオやれ (だ) そや (それは) 言うて。じよおく (いつも) 言う事を言うて、あんな (彼の) クチヨオやんか (だ) そんな (それが) 言うて、喋って なあ じよおく 言うた様な事言うとなあ、あやなあ (あれば) じよおく の クチヨオやんか (だ) 言うてな。

くちよおじよお (くちやうじゃう) (口養生) 【名詞】

1) 病気の快復を早めるため栄養のある物を食べること。2) 病気の悪化を防ぐため病気に支障の有る物を摂取しないこと。(志 (布施田)、熊) [会話] ²⁾ クチヨオジョオ よおせんで (出来なくて) なんもかも (全部) がぶがぶと 食うやんない (食べるでしょう)。そすとまあ、腹、下したり なんやかや すると なあ (いろいろすると) クチヨオジョオ、よおせん けん (しないから) 言うてな。クチヨオジョオ よおせん もな (者は) いやしんぼ なあ、くいしんぼ、わり (悪るい) 言う もん (物) を これ 食うと 胃 に わり とか、腸 に わり とか 言うても な むしゃくしゃ 食う もん (者) な (を) クチヨオジョオ よおせん。食べん と (食わずに) おけ 言う事を クチヨオジョオ せえ (しなさい) 言うね なあ (言うのです)。食う たると (食べてやると) ほん クチヨオジョオ よおせん で 言うて。なんでも (何でも) 食 べて する よって (から) 病気ん (に) なんねやれ (なるのだ) 言うて

な、クチヨオジョオ、一つも (少しも) よおせんねもんなあ (出来ないのだから) 言うて。1) 旨いもん (物) や (とか)、栄養の有るもん (物) 食べんのも (るのも) クチヨオジョオ。

くちよごし【名詞】 他人に食べ物すすめる時へりくだって言う言葉。まずい物、口をけがす(穢)意(大言海) [会話] 食べるもん (物) もてくと (持って行く) クチヨゴシやけどなあ (だが) 言うて、よけ (沢山) もてても (持って行っても) ほん (本当に) クチヨゴシやけど、これ食べてくれるかい (くれますか) てなこと (と言うようなこと) 言うて てえさい (体裁) に。

くちりこお(くちりこう くちりかう)(口利口)【名詞】 喋るのが上手なこと、またその人。[会話] 口な (が) 上手なひた (人は) クチリコオな人言うし 口賢い言うやんかい (言います)。

くちわり(口悪)【名詞】 人の嫌がることを好んで言う人。[会話] 人のわりくち (悪口) 言うてなあ すんのを (するのを) あや (彼は) クチワリやなあ (だ) 言うてなあ、人のあら (欠点) ばっか (ばかり) 探ぐってまあ言うて。

くつ【名詞】 くつえび うちわえび 体が団扇のように平なえび 体長は13cm位になり甲の表面には一面につぶつぶが有り頭胸甲は厚くて硬く、その側縁には外側に広がり、へりはぎざぎざになっている。前縁近く内側後方に向かって斜に深い切れ込みが有る。第二触角の一部も板状に広がり、そのへりは、ぎざぎざになっている。甲の色は赤味がかった泥の所に住んでいるので、捕らえられた時は灰色に見える。食品になるが、肉は少ない。

ぐつ【名詞】 具合 健康 都合(阿、張、名) [会話] 思うよお (ように) 行かせんと (行かないと) グツわり (悪い) 言うて、ぐつきわり、グツわり 言うて。

くつえび【名詞】 くつに同じ 参照

くつく【名詞】 靴 幼児誌(志)

くつさい【形容詞】 非常に臭い。促音添加して意を強める。(鈴市、津)

くつさめ【名詞】 噓 クサメの促音化 くつしゃめ参照(北)

ぐつき(具合)【名詞】 格好。様子。具合。都合 ぐつ参照(志) [会話] グツスキな (が) わり (悪い) 言うて よお (よく) 言うわい (言います)。なんやら (なにか) 格好な (が) わり のおをな (のを) こやまあ (これは) えらい (大変) グツスキや (は) わ

りわれ (悪るいです) 言うて 格好よお (よく) 出来んとな (出来ない)。

ぐつきわり 具合、都合、が悪い ぐあいしき ぐつき ぐつ参照

くつしゃみ【名詞】 噓。くつしゃめ参照(志(鶴方、神明、国府、安乗)、伊、松、桑市、鈴市、鈴郡、安、久、一、飯、上、阿、張、名、尾)

くつしゃめ【名詞】 くしゃみ 噓 呼吸が急に止まると共に声門が閉じ、次いで声門が開くと同時に呼吸を鼻から勢いよく排出する一種の咳のような現象をさす。主に鼻粘膜の刺激によって生ずる反射運動である(志(浜島、立神)、鳥、伊、三、鈴市、一) [会話] クツシャメ言うて、風邪ひいて クツシャメな (が) 出られ (出ます)。くしゃみ言うのを クツショメ。くしえん くしえん言うの、十八銭もおけたれ (もうけた) 言うて、クツショメ したと (してやると) ふたあつ (二回) すると 十八銭 もおけたれ 言うて。

ぐつしょ【副詞】 ずぶ濡れ ぐつしより [会話] グツショぬれん (に) なった。雨な (が) 降って来てまあ、雨ん (に) 降られて ぐしょぬれん (に) なったよお、びつしょん (に) 濡れた言うなあ、びつしょも言うしなあ。ぐしょ濡れん (に) なったよお、言うやんかい (言います)、ぐしょ濡れん (に) なって来たよおとか、びつしょ濡れ言うてな、ずぶ濡れん (に) なったてやら (とか)。

くつしょめ【名詞】 噓 くつしゃめ参照(志(御座、布施田、立神、国府、甲賀)、員)

ぐつすら【副詞】 ぐつすり。ら、りの音韻変化、よく寝入っているさま 残らずするさま すっかり。[会話] グツスラ寝た。グツスラ ぐつすり言うねやんかな (言うのです)。ぐつすり寝た 言うのは ものすごお よお (よく) 寝た 言う事やなあ (です)。よんべ (昨夜) は グツスラ まあ、寝た 言うて よお 言うけどなあ。大変よく寝た言う事を グツスラ 寝た 言うんやなあ。(言うのです)。

ぐつたらぐつたら【副詞】 疲れたさま。ぐたぐた、緊張感のないさま。くたくた。[会話] グツトラグツトラ んなったよお言うてなあ あんまり (あまり) 疲れると グツトラグツトラん (に) なったよお 言うて、ものすごお (大変) 疲れると。

ぐつちや。ぐつちやらぐつちやら 1) よく濡れている事 道などがぬかるんでいる 2) ごちやごちやに物が混じっている事 [会話] 2) グツチャ言うな (のは) 目茶苦茶ん (に) なつとんのを (なっているの)

を)、グッチャやよお(だ)言うてなあ。まあなんもかも(何も彼も)びしゃけて(潰れて)グッチャん(に)なつとる(なっている)言うてな。

くってかかる 反論する、口答えする

くつぬぎいし(沓脱石)【名詞】縁先に有る庭石。履物を脱いだり、また昇降ししやすい様に置いた石。(熊) [会話] クツヌギイシ言うて 石な置いて有った。座敷先や(とか)縁側の方にな、あがんのん(上がるのに)ちよいと(少し)たっかい(高い)もんでなあ(ので)、大きな石、置いてあるけどな、たっかい(高い)家や(は)置いとるけどな(ています)。

くつろぐ(寛)【自ガ五】安心する 気楽にする [会話] クツログ言うて、こおやって、色々なもん(物)で遊んで、色々な昔話すん(する)のを、そげん(そんなに)して言うの。今日は 皆 寄って来てクツロンデ 昔話して てな事やろなあ(と言う事でしょう)。休んで 言う事やろなあ。クツログ言うて 仕事も なんも(何も)せんと(せずに)こおやって(して)皆が寄ってなあ。

ぐつわり 都合が悪い ぐつ参照

くて 食べて(志、伊、多、阿、張、度、北、尾、熊) [会話] くうてえ言うの(のを)、クテ言うてなこれ食べて下さい言うのを くうてえ言うの(のです)。

くてえ。くてええ 食べて下さい(志) [会話] 食べよ言う事をな なんか(何か)盆え入れてな 出して来て まあ これ、クテエ言うてな 珍しもん(物)盆え入れて こいな(こんな)もん(物)やけど(だが)クテエ言うて、食うてくれ(食べて下さい)言うの(のを)クテエ言うて クウテエ。

くてかれやせん 生活出来ない [会話] ぜんかせぎな(錢稼ぎが)のおて(無くて)クテカレヤセン。

くてかんかい。くてかんかな。くてかんかれ 1) 食べて行きませんか。2) 食べて行きなさい。[会話] クテカンカレ言うのも、くてけえ(食べて行きなさい)言うのも 一緒やわい(です)。くてけえ言うて、ちよいと(少し)てえねえ(丁寧)な言葉で クテカンカレ言うて、ちよいと げすな(下品な)、こころやすいにげ(人間)に言う事なあ(です)。クテカンカイ言うのは ちよいと 上品なお(のです)、クテカンカレ言うて 下品なね(のです)そして こころ安い にげ(人間)にや(には)これ、クテカンカレのおも(お前も)言うて、目上の人にや(には)クテカンカナ 言うて そいな(そんな)いい方する

し(します)。

くてくれえ 食べて下さい [会話] 食べてくれるかい(くれますか)言うのを クテクレエ言うて。

くてけ。くてけえ たべて行きなさい [会話] くてかんかい クテケ言うて、目上的人是 くてかんかい言うし、したのもん(目下の者)くてかんかれ 言うて かいと、かれは 人によって。

くてける やつと食べて行ける 生活出来る [会話] 食うてく(食べていく)言う事、生活が出来てく(て行く)言う事、クテケル。まあ なつとかかつかして(何とかして)食うてかれ(食べていきます)言う事やなあ(です)、なつとかかつかして 生活出来る。食うだけは なつとかかつかして 食うてかれる(食べていかれる)。生活出来る 言う意味やなあ(です)。たいした事ないけど 食うぐらや なつとかかつかして、食うてくわい(食べて行きます)言うて。

くてた 食べて行った [会話] おらな(私の)ごつとお(御馳走)皆(全部)クテタ。

ぐてる【動詞】1) 粉碎する 2) ごてる ぐずぐず不平や文句を言う ごねる 3) 酒に酔ってぐずぐず言う 4) 素行が悪くなる。ぐれる。[会話] ぐれるグテル言うねんなあ(言うのです)。⁴⁾ 子供らな(が)あんまり 親らな(が)きびしいと さいご(その時)、グテテタ(ていった)言うて。²⁾ 争いや なんか(とか) 言いやい(言い合い)して、そいな(そんな)時には ごてる言うけど。 言いやいして、はかな行かんのを(はかどらないのを)ごてる。グテル 言うて、きまりのくい(決定しにくい) 時ん(に)。

ぐでん【形容詞】泥酔したさま(上、阿)

ぐでんぐでん【形容詞】泥酔したさま。くたくたより生じた語(大言海)(志(布施田)、南) [会話] ぐれんそ 酒飲んで ぐたらぐたら しとんの(しているのを)グデングデンや(だ) あや(彼は)ぐれんそ やんか(だ)言うてな。

くど【名詞】かまど かまどころの意で煮炊きする施設をさす。かまどの後ろの煙出しより転じた語。竈を吾党にはクドと言う。何の義なるを知らず。あるいは焼所(タキドコロキド)のタとコロを略したるか、ホはかまどの中略にて、かと、くとは通音を用いたるか。(伊勢の浜荻)(志(御座、越賀、浜島、布施田、国府、鶴方、神明、立神、甲賀、安乗)、鳥(相差・桃取・坂手・加茂 鳥羽)、桑郡、桑市、員、三、四、

鈴市、津、一、飯、松、多、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] まあるうい (丸い) こおじん (荒神) さんをクド、昔や (は) こおじんさん言うて、かまどの事 言いおったなあ (言って居ました)。こおじんさんを祭らな (祭らなければ) 言うて、しよん がつ (正月) ん (に) なっても 餅ひとかさねえつ (一重) したり、祝い日になんなん (なんでも) 神さんへしても、こおじんさんへも、洗いよね (米) して供えたの。

くどい【形容詞】 1) 味が濃厚だ しつっこい (現象すべてに 話がくどい) どくらし (三重県) 2) 理屈っぽい [会話] 2) クドイ言うのはなあ、言うたよおな事 ばっか (ばかり) 言うて ヒチクドイ 言うて。ヒチクドイ よけ (多く) 言わんでも (言わなくても) 一回 言や (言えば) わかられ (解ります) 言うて。1) 味が濃い時でも クドイ。あんまり 塩辛かった時やとか、(だとか) 甘すぎたりすると こや (これは) クドイなあ 言うなあ (言います)。どくらし 言う事 やるなあ (でしょう)。どくらし あんまり 甘いと あんまり こや (これは) さと (砂糖) な (が) ききすぎて、どくらし われ (です) 言うて。着る もん (物) でも 色な (が) あんまり 濃おかったりすると、ううた (ああ) どくらしよおな 色や (だ) 柄も 色もなあ (です)。あんまり エッチ (助平) な事 言うても、ううた あいな (あんな) どくらし事言うて そいな (そんな) 時も そお言う言葉使うの。

くどがみさん【名詞】 かまどに祭って有る神。かまどの神様。

くどき (口説)【名詞】 おどりくどき 踊り口説き 盆踊りに歌われるくどき節の事。七七調の長編の叙事的歌謡を同じ曲節で繰り返して歌うリズムカルな物である。代表的なものとしては鈴木主人が有る。盆踊りに、くどき節が用いられるのは、おそくとも1658年以前で、盆踊り歌はくどき節と短編の旋律本意のものと二種ある。**口説** くどき くどきの語義は繰り返し、繰り返し長く説明する事で、その説明には詠嘆的な調子が含まれた場合をさす。物語り的な内容を有し、七、七調か七、五調の連続で叙事的である。[会話] 盆のクドキは、音頭言うたり (言ったり) クドキ 言うたり。音頭言うのは“和具の後ろの”言うのが あれが音頭で、クドキ言うのは、小説 みたよおに (のように) 長々と 鈴木主人 やとか (だとか) 言うて それ”やああとせえ” 言うて来ると クドキ言うの (のです)。囃子 “ああ やあとこせ” 言うの はやし

初午でも “よいさ よいさ” 言うな (のが) はやし、よいころ節でも さああ よいさ よいさ 言うやる (でしょう) そんな (それが) はやし。

以下に盆踊りの口説きと音頭歌を記す。

くどきに入る前置 1 わしに音頭をとれとは無理よ アーヤートコセ 本はのぞかず師匠もとらず アーヤートコセ ヨーイヤナーハリワイセ 御座や越賀や和具、布施田 片田、船越、波切や名田で ひろい集めし音頭でござる 節の悪いは私の不精 声の悪いは親よりゆずり 知らぬところは教えておくれ 落ちたところは拾うておくれ さらばこれからぼつぼつどこ こ えいやアトコセとはやしをたのむ 2 ちよいと出ました三角野郎が 四角四面の櫓の上で 音頭とれとは おおそれながら しばしご免をこうむりまして 何か一こと読みあげまする けいこ不足でおぼつかないが 平にその儀はおゆるしなされ 許しなされば文句にかかろ **1 阿波の鳴門の巡礼くどき** ここにあわれな巡礼くどき アーヤートコセ 国をどこよとたずねて聞けば アーヤトセー ヨーイヤナハリワイセ 阿波の鳴門の徳島町よ 主人、忠義なさむらいなれど 家の宝の刀のせんぎ 何の不運か無実のなんぎ 国を立ちのき夫婦の願い 神や仏に心願かけて さずけたまえや、あの国光の 刀商売とぎやの店を 心おきなく目くばせなさる 行けば程なく大阪町よ 音に聞こえた玉造りにて 九尺二間の長屋のすまい そこやかしことたずねんものと 三つになる子を我が家において もはや七年ばばさまそだち 子どもながらも 発明ものよ 年は十にてその名はおつる 親の行くえをたずねんものと 育てられたるそのばばさまに 長いおいとま旅立ちねがう もうしばばさまあれ見やしゃんせ 隣近所のあの娘のように 髪をゆうたりだかれて寝たり それがわたしはうらやましいよ 今日はずひなくおいとまいたし 諸国西国巡礼すがた 背なにおいずる六字の名号 胸に四寸のくせがねつけて 左うえにて六分になして すげの小笠に同行二人 娘おつると書いたる文字も すみがにじみてすがたがうすい 年はようよう十にはなれど 西も東もわからぬ娘 育てられたるそのばばさまと 別れゆくのが紀州をさして 札所一番あ的那智の山 二番紀の国紀三井の寺よ 三にゃ同じく粉河の寺よ 父と母との恵みも 深き 四番和泉のまきおの寺よ 参りよりくる皆人さまが 願をかける藤井の寺よ 神のめぐみか観音さまのお引合せか前世の縁か 軒をならべてみな家つづき 報謝願うとそのいう声に 我も我もとみな出て見

れば さてもかわいい巡礼娘 母のお弓は我が子と知らず 報謝進上とそばへとよりに 見ればかわいい巡礼娘 そなたの父さまあ母さまに 同行三人巡礼するか 私しや恋しいあ父母さまに 逢いたさ見たさに遠路の道を 一人西国するのでござる 悲しいことは一人の旅よ どこぞの家でも泊めてはくれず 人の軒ばや野山にねては 人にしかられぶたれるばかり わしが父さまあ母さまは どこのお弓にいやしゃんすやら 早うたずねて逢いたいものと いえお弓は早や気にかかり 一人旅とはどうしたわけか わけは知らねど三つの時に わしをばばさまにあずけておいて どこへいったか行くえが知れず そとしそなたの二親さまの お名は何とじゃ聞かせておくれ わしが父さまは重郎兵衛とやらで 母はお弓ということなるを 聞いてびっくりお弓の心 そばへすりよりおつるの顔を 穴のあくほどつくづくながめ おぼえあるのかひたいのほくろ そなたそのよにたずねたとても顔も所も知らない親を もしもたずねてあえない時は ほんにせんないことではないか さらばこれから心をかえて 帰らしゃんせよばばさまそばへ 親もおつつけもどるであろうと いえおつるはその親切に あまりおばさまおなげきあるで 帰りともないいこともないよ どんな苦勞もいとわぬほどに おいておくれよおばさまそばへ それがわたしの一生の願い

2 阿漕平治ものがたり 平治母親病氣となりて 医者にかけたら医者様これは 伊勢の国なる阿漕が浦のやがらなくては本復できぬ 聞いて平治はこれさいわいと 頃は五月のさつきの頃よ さつき頃なら西風しのぐ みのよ笠よは我が家にあれど 船よ綱よは借りととのえて 波のなぎ間に船つきおろし 風のなぎ間に綱かけまわし やんさえやさとやがらを引けば やがらのらずにかの宝剣が これも宝とおしいたいて すぐにわが家へはや走りくる 天下ご法度の阿漕の浦に 網を入れたは何者なると 上のごせんぎと相りました 運のつきかよかのすげ笠に 一にへの字と書きある故に すぐにせんぎと相りました 親に孝行な平治であれば 庄屋の彦作次郎藏よんで 次郎藏その罪ひきうけました 伊勢の津の町阿漕の浦に 今も残るは平治の塚よ 阿漕浦に平治塚がある 月の夜の何を阿古木に鳴く千鳥

3 鈴木主水白糸くどき 花のお江戸のそのかたほとり さてもめずらし情死ばなし ところ四谷の新宿町よ 紺ののれんにききょうの紋は 音にきこえし橋本屋とて あまた女郎衆のあるその中で お職女郎の白

糸こそは 年は十九で当世育ち あいきょうよければ 皆人様が われもわれもと名指して上がる わけてお客はどなたときけば 春は花咲く青山辺の 鈴木主人という侍よ 女房持ちにて二人の子供 三つ五つはわんぱくざかり 二人子供のあるその中で 今日も明日もと女郎買いなさる 見るに見かねて女房のおやすある日わが夫主水に向い これさわが夫主水様よ わたしや女房でやくのじゃないが この子二人はだてには持たぬ 十九や二十の身じゃあるまいし 人の意見を言う年頃で 金のなる木も持ちやしゃんすまい やめておくれよ女郎買いはかり どうせ切れるの六段目には 連れて逃げるか情死するか 二つ一つのしあんに見える 言え主水は腹立ち顔で 何のこしゃくな女房の意見 おのが心でやまないものが 女房ぐらいの意見じゃやまぬ ぐちなそちより女郎衆がかあい そちがいやなら子供を連れて そちのお里へ出て行きやしゃんせ 愛想づかしの主水の言葉 又も主水はこやけとなりて 出でて行くのが女郎買姿 後でお安はさてくやしやと いかにも男がわがまましよとて 死んで見せよと覚悟はすれど 五つ三つの子に引かされて死ぬに死なれずなげいていれよば 五つになる子がそばへと寄りて これさ母さんぜ泣かしやんす どこぞ悪くばお薬やろか どこぞいたくばさすりて上げよか 言えお安は顔ふり上げて どこもいたくて泣くのじゃないが おさなければよくきけ坊や あまり父さん身持ちが悪い 意見すりや又こしゃくなやつと たぶさつかんでちょうちやくなさる 私しや残念自害をしよう 自害すりや又われ等がふびん どうせ女房の意見じゃやまぬ さればこれから新宿町の 女郎衆たのんで意見をしよう 三つになる子を背にとおんで 五つになる子の手を引きつれて 出て行くのが新宿町よ 紺ののれんにききょうの紋は 音にきこえし橋本屋とて 見れば表に主水のぞうり それを見るより小職をまねき 私しやこの屋の白糸さんに どうぞ会いたい会はしておくれ 言え小職は二階へ上りこれさねえさん白糸さんよ どこかの女中か知らない方が 何かあなたにわけあるそうな 逢ってやらんせ白糸さんよ 言え白糸二階から下りて 私を尋ねる女中と言うは お前さんかよ何用でござる 言えお安ははじめて逢うて 私しや青山主水の女房 お前頼んだ他でもないが 主水身分は勤める身にて 日々の勤めをおろそかにすれば ついにこふちもはなれる程に せめてこの子が十にもなれば 昼夜上げづめなさりとままよ その道理をよくききわけて 三度来

たなら一度は上げて 二度は意見で返しておくれ 言
えば白糸言葉につまり わしもつとめの身の上なれば
女房持ちとは夢にも知らず ほんとに今までお客とし
たが さぞやにくかるお腹も立とう 私しゃこれから
主水様に 意見しましょうお帰りをなされ 言うて白糸
二階へ上がり お前女房と子供が二人 わしを頼みに
参った程に 今日はお帰りとめてはすまぬ 言えは主
水はにっこり笑い すぐに其の日も居つづけなざる
後で二人の子供を連れて お安が家へ急いで帰る
までくらすと主水はおそい 白井方よりお知らせあ
って 主水身持ちが放らつ故に ふちも知行も召し上
げられて きいてお安は仰天いたし ふちにはなれて
長らへ居って 馬鹿よたわけと言われるよりも 武士
の女房じゃお安をしようと 二人子供を寝かしておい
て すずり引きよせすみすり流し おちる涙がすずり
の水よ 涙止めて書きおきいたし 白きもめで我が
身を巻いて 二人子供の寝たのを見れば かわいかわ
いと子に引かされる 思い切り刃をさか手に持って
ぐつと突きこむやいばの下に 二人子供が早や目をさ
まし 三つになる子が乳にとすがり 五つになる子が
背にとすがり これさ母さんのうかかさんよ わしら
二人らはどうしましょうと おさな心にただ泣くばか
り 主水それとは夢にも知らず 女郎屋立ち出てほろ
ほろよいで 女房知らせの小唄で帰る 表口より今帰
ったと 言へば子供がかけてつけてまして これさ父さん
お帰りなるか なぜかかかさん今日一日は ものは言
はず寝てばかござる 言へば主水は驚きまして あい
のからかみ開いて見れば 女房お安は血潮にそまり
そこで主水も仰天いたし おれが心が悪いが故に 自
害したのかふびんなものよ あわれなるかやお安の死
がい こもにつつんで背にとおうて 三つになる子に
いはいを持たせ 五つになる子に水おけ持たし だん
な寺へとほうむりました

4 油屋そうどう 伊勢で名高い油屋そうどう お紺
生まれをたずねてきけば 鳥羽や安乗といわんすけれ
ど 鳥羽はいつわり安乗はうそよ 紀州熊野の木本奥
の 流れ谷かよ本町生れ 父のその名は文蔵というて
親の代から百姓が商売 一年すいそん三年不作 不作
つづいて五年の不作 上の年貢につまりし故に 姉を
売ろうか妹売るか 姉を売っては先祖にすまぬ 妹売
りては百姓ができぬ 中のお紺を売らねばならぬ お
紺ここへこい、いいつけござる 上の年貢に困りしゆ
えに いやなつとめもいたさにやならぬ 伊勢の古市
へ奉公にゆくか 幼心で「はい」いきますと あまた

朋輩あるその中で わしは古市奉公にゆくが ご縁あ
つたらまたあいましょう ご縁なければもうこれ限り
弁当たこにもお米はないし 粟の握りめし菜の葉につ
つんで 父につれられ伊勢路をさして 馬子はおらね
ど馬子瀬の坂を 伊勢路通りて古市町を 末でひろが
る扇屋店を こぼしや流れる油屋店を おとしやうち
やれる備前屋店を 中の油屋へお紺は売られ 金子五
十両であきないいたし 金子五十両を早や受けとりて
あべのやすまの子わかれよりも 文蔵お紺のわかれは
あわれ 話かわりてお紺の役目 夜は四つまで寝るこ
とできず 朝は早うから起きねばならぬ 客がみえた
らもてなしいたせ ハイと返事はいたするけれど 幼
な心でお紺は眠る 眠るところを仲居が見つけ 長い
キセルでくらされまして つらいつらいが身にこうじ
よして 裏の地藏さんに宿願かける 若き生木の枝お
りませぬ あついごぜんにおつゆはかけぬ そういう
まにおやまとなりて 初のお客が六十あまり 肩をも
めやら腰さすれやら ねぎの息子の貢の助に なじみ
恋しのつもりし故に 二人仲をば悪縁となる

お糸定吉くどき ここに大阪新町すじに ます屋長者
のお糸というて 年は十六花ならつぼみ お糸きりよ
うは三国一よ 天にたとえりや、てるての姫よ 地に
たとえりや玉おり姫よ 鳥にたとえりやくじゃくの鳥
よ 同じその町に呉服屋のむすこ 一人むすこの定吉
というて 年は十七今咲く花よ いつのまにやらお糸
を見そめ 見そめあいそめ、ちよとほれそめて 文を
やろうと早や気がついて 文はだんだんかわしてやれ
ど 文の返事は今更になし さらばこれからのしびに
かかる しびしびのびて門までいたら 門はしめられ
えび錠がかかる 大工さんよりかじやがにくい 門の
かけ金みなかじやうつ 門をとびこえ雨戸をあけて
あかり障子ですかして見れば 六畳八畳もいく間もこ
ざる 奥の十畳がお糸の部屋よ 床にかけたるやりな
ぎなたよ 枕もとにはつり提灯が 両方脇には下女腰
もとよ お糸お糸と小声でおこす お糸おどろきこっ
りや何事ぞ けしよか、まよいかまた人間か けしよ
じゃござらぬまよいじゃないが 文をつかわし、定吉
でござる 石でかためたお糸じゃとても 落としかけ
たら落さにやならぬ けしよで落ちねば、まよいで落
とす 色で落ちねば理ずめで落とす そこでお糸はつ
い落とされて 親のゆるさぬ帯とくからにや かわる
まいぞえ定吉さんよ 鮎は瀬にすむ鳥や木にとまる
人は情の下にすむ

まおとこくどき ところ大阪北新町よ あぶらめいさ

つ孫さというて このま男はごうせな人よ 夜は四つまで油をしぼる 朝は早よから油を売りに 油売りにて孫さはるすよ 孫さ女房にお早というて お早きりようよい三国一よ 立てばしゃくやく、すわれはぼたん 歩く姿は姫ゆりの花 同じ新町に吉之丞というて このま男ははでしゃな人で 冬の頃なら上から下へ着たる着物のその数多し 長い刀を落としにさして 足袋はうんさい、ばらおのせきだ チャラリ、チャラリと新町すじを 歩きくるのをお早が見そめ 星の数ほど男はあれど わしのすいたは吉之丞ばかり これさ吉さん吉之丞さんへ 孫さ、るすじゃにちよとよりなされ お茶をくむやら火を入れるやら 一つ二つは親切ばなし あとのところは、かの色ばなし そうこういうまに油は売れる 子供衆にはおんつけ油 つけてね油、ねんとうねんとうと そばの茶店へ腰うちかける 孫さ家にはま男あると 聞いて孫さはその場を立ちて 急ぎ足にて我が家へ帰る お早女房よ今帰りと いうにお早はま男かくし これさ孫さんわしや待ちかねた お酒あがらば、かんつけましょか はいたワラジのひもときましょか 二十三夜、わしやくほどに 後をたのむと女房のお早 いうて孫さはその場をたちて 油小屋にと、しのんで入る お早それとは夢にも知らず これさ吉さんこよいはよいと 心ゆるしてしめよるならば 孫さなやにて手しよくをとぼし 親の重代さらりとぬいて これさ吉之丞よくきなされ 人の女房と枯木の枝は のぼりゃのぼるほど末とげでせん 思い知れとのかさね切り

奥州仙台白石ばなし 奥州仙台白石ばなし 姉の宮城に妹の信夫 父のその名を与茂作いうて 頃は五月のさつきの頃よ すげの小笠に手甲脚絆 親子三人田の草取りに 姉が歌いだしゃ妹がつける さても与茂作うれしい思い 時に片倉小十郎さまの 手下さむらい志賀団七が 通りかかるを夢にも知らず 妹信夫がつかみし草を そこよここよとなげんとすれば めした袴の裾にとかかる そこで団七、大いにいかり 一合とつても身はさむらいの 家に生まれし団七なるぞ 親子三人手打にいたす そこで与茂作仰天いたし 何のがんぜもござなきところ 平にご容赦くださりませと いえどたのめど聞き入れもなく そこで与茂作とうわくいたす 二尺八寸だんびらものを めいた白刃を与茂作見かね 今はおちぶれ百姓はすれど もとは河内の楠木公の いやえもはげしい与茂作なるぞ 一手二手は受けても見よと 受けも受けたが草刈がまできじとたかなら勝負もつかず そこで与茂作逃げんと

するを 後肩先ざんぶと切られ ついに与茂作この世を去りぬ そこで泣き泣き二人の娘 我が家をさして逃げてゆく 親の仇を討ちとると言う

お梅伝次くどき 草家雨なら出て見にや知れん お梅伝次も語らにや知れん お梅十四のその冬ごもり あけて十五のその正月に ほほびきもどりの伝次に出あい これさお梅と手をうちかける 袖をひくやら乳ひねるやら おはずかしいやら又うれしやら 恋のつぼみの開きしときは 顔へ紅葉がチラリヤパッと そこでお梅はつい落とされて 親のゆるさぬ帯とくからはかわるまいぞえ伝次郎さまよ 何のお梅やその気はさらに わしの思いは石山寺の 石に 証文岩にはんある日お梅が伝次にむかい わけもいわずに兄殺してと お前兄きの八郎兵衛方へ 親と親とのご相談さまり 嫁にもらわれ行かぬばならぬ かわいお前とそおよとすれば お前兄きにいいわけたたず 親のいい条聞こうとすれば かわいお前とそうこできず あちらたてればこちらが立たず 両方立てれば我が身が立たず 同し流れの水のむからにや 親のいい条きかんせお梅 そうこういううち月日がたちて 頃は五月のさつきの頃よ さつき頃なら山田の田植え 家内のこらず山田を植えに 後にお梅はお茶たいている 時に伝次が茶桶をさげて お梅女郎よまだ茶は出ぬかもちと待たんせよ茶ができる うすき出ばなをくもよとすれば これはお前の心のうす茶 これは私の恋茶でござる 昔なじみでべに花ぞめは 色はさめてもその気はのかん 奥へござれと手を引きつれて 一つ二つの話がすぎて かかるところへ八郎兵衛きたる これはどうじゃと言う間も早く 部屋に入りて親重代のぬいた白刃をお梅に合わせ 返す刀で我がのどぶえをえぐるところを伝次がおさえ これさ兄さんわし殺しゃんせ そうという間に隣や近所 一家一同みなよびよって お梅そばには二親ござる これさお梅や苦しじゃないか 苦しござんす二親さまよ 思う男とそわさぬ親は 親じゃござらぬ子のかたき

文衛くどき 国は大阪でその名も高く ま綿問屋の文衛というて 去年九月にま錦を売りに ま綿売りにて文衛はるすよ あとにしゅうとが悪気ができて かわい我が子は手づちの手んぼ にくい嫁女は発明ものよ あいつありては我が子がふびん あいつ殺すよな薬がほしい 前の医者屋へうろろう走り ごめんなされと障子をあける 隣のばあさんかよくきた入られ 入ってお茶のめおタバコあがれ お茶やタバコはごめんでござる わしのきたのはほかでもないが 毒な薬があ

るならわしに どうか一服あわしておくれ いえお
医者も腹立ち顔で 人を助ける薬はもれど 人を殺す
よな薬はもらぬ いうにばあさんふところよりも 金
子五十両をいらしておいて 前につきつけニコリ笑
い ぜひと申さば教えてあげる 金にまたか大馬鹿
者よ 青いトカゲに小梅にこしょに 竹の切口にさが
りし水を 酒にあわせて煎じてつめて それをのませ
ば忽ち死にる 家に帰りにて金とり出して 人をたの
んで毒薬のせて あけて三月三日の節句 嫁女こいこい
盃さそう いつにかわらぬしゅうとのきげん 虫が知
らすか祝いの酒が のめば毒薬のまねば不幸 涙なが
らに盃もちて のむかのみめに毒薬まわる 色は青ざ
めまなこはくらみ 爪め先まで紫色よ 腹の子までも
みじんとなりて あまり苦しさ水くれといや 裏の蓮
池の泥水くれる これがのまりよかおのれがくらえ
畳八畳は血染めとなりて 枕びょうぶをそばへとよせ
て 指を食い切り書きおきいたし そうこうする間に
文衡は帰り うちのそうどうはこりや何事ぞ 文衡嫁
女はとん死で死んだ そうかとん死か、ふびんなこと
よ 死がいにたれてなげいていれば 枕びょうぶを
眺めて見れば 何のとん死かとん病でしょうか うち
のばばあが悪気ができて 毒を仕込んで嫁女を殺す

和具盆おどり唄 1 沖のくらのいに白帆が見えるエ
サー紀州の国あればソリヤアみかん船 イヤレみかん
船アエーエー紀の国あればエ

2 みかん船ならいそいでおじゃれエ サー山せは冬の
ソリヤア西となる イヤレ西となるアエーエー山せは
冬のエ

3 宮の熱田のならずの梅はエ サーク咲く花はソリヤ
ア実一つ イヤレ実一つアエーエー千咲く花はエ

4 宮の熱田の二十五丁橋はエ サークかけたか橋がソリ
ヤア中高に イヤレ中高にアエーエーかけたか誰がエ

5 瀬田のから橋や、から金ぎぼしエ サークつれし水
にソリヤアぜげが城 イヤレぜげが城アエーエーう
つれし水にエ

6 踊りしゅんできたに、トコロテン出しゃれエ サーク
醤油かけて皿へソリヤアちよと出しゃれ イヤレちよ
と出しゃれアエーエー醤油かけて皿へエ

7 西はいの山、東はせ山よ サークへだてる中はソリヤ
ア吉野川 イヤレ吉野川アエーエーへだてる中はエ

8 そよと吹いたは、ま西かませかエ サーク吉田の浦へ
ソリヤアそよそよと イヤレそよそよとアエーエー吉
田の浦へエ

9 吉田通れば、二階から招くエ サーク鹿の子のしかも

ソリヤアふり袖を イヤレふり袖をアエーエー鹿の子
のしかもエ

1 0 鶴方の浦を、山がとおしやるエ サーク山がに船
がソリヤアつくものか イヤレつくものかアエーエー
山がに船がエ

1 1 娘十七八やだきごろ、寝ごろエ サークひきごろ
袖もソリヤアだましごろ イヤレだましごろアエーエー
ひきごろ袖もエ

1 2 和具のうしろの、間崎の前でエ サーク引くぞえ手
ぐりソリヤアかかのかせて イヤレかかのかせてアエーエー
引くぞえ手ぐりエ

1 3 大島うちらへ、シュルシが見えたエ サークあるま
いよそでソリヤア和具である イヤレ和具であるアエー
エーあるまいよそでエ

1 4 剣光寺のたけのこを、しょつぼりよとぬけばエ
サーしょつぼりよとぬけばソリヤアあとはシュルがた
る イヤレシュルがたるアエーエーしょつぼりよとぬ
けばエ

1 5 想いも恋もアエーエー、笹舟にのせてエ サーク迎
えにきたかソリヤアなさけなのさまエ イヤレなのさ
まよアエーエー迎えにきたかエ

1 6 向いの山で何やら光るエ サーク朝草かりのソリヤ
ア刃が光る イヤレ目が光るアエーエー朝草かりのエ

1 7 しおれた草を刈ろうとすればエ サーク新し鎌のソ
リヤア刃がおれた イヤレ刃がおれたアエーエー新し
鎌のエ

1 8 おれたが大事か、こぼれたが大事かエ サーク近
くにかじやがソリヤアないものか イヤレないものかア
エーエー近くにかじやがエ

1 9 若い衆の手拭いはアエーエー何たる紺やが染めた
やら サークはしばしや紅鹿の子ソリヤア中はとくさ色
イヤレとくさ色アエーエーはしばしや紅鹿の子エ

2 0 つつじ椿で山山でらすエ サークかつおで沖のソリ
ヤア浜白む イヤレ浜白むアエーエーかつおで沖のエ

2 1 盆にやぼたもち正月にやまもちエ サーク節句にや
あいのソリヤアよごめもち イヤレよごめもちアエー
エー節句にやあいのエ

2 2 しょんがぼさまは、ぼたもちすきでエ サーク九つ
宵にやソリヤア今朝七つ イヤレ今朝七つアエーエー
九つ宵にやエ

2 3 お前も巡礼アエーエーわしもまた巡礼エ
サーはりまの書写でソリヤアめぐりあお イヤレめぐ
りあおアエーエーはりのま書写でエ

2 4 トント唐人船の矢え入れたエ サークともやらどこ

がソリヤア表やら イヤレ表やらアエーエーともやら
どこがエ

2 5 古市の町中でアエーエー五匁せきだをなげかけた
サーそれを買ったやつおれがやにやんしょ イヤレや
にやんしょアエーエーそれを買ったやつは

2 6 寺のどんだる坊主いざり子をもうけたエ サーい
ざらばいざれソリヤア寺の茶をひかさ イヤレ茶をひ
かさアエーエーいざらばいざれエ

2 7 踊るもはねるもえーアエーエー今日あすかざり
エ サーあすまでささすまいソリヤア晩にやしもてや
ろ イヤレしもてやろうアエーエーあすまでささすま
い (この唄は十四日と十五日に歌う) 歌が切れそうに
なると次の歌でつないでやる これは出だしがない
2 8 イヤレこまがぼちこんだアエーエー板の間の上で
サー板の間の上でソリヤアこまがぼちこんだ

くどく (口説) 【自カ五】 【他カ五】 1) 懇願する た
のみこむ 2) 愚痴を言う 泣き事を言う (桑市、松、
多、阿、張、北、尾) [会話] 1) おなご (女) クドク
のおも (のもの) 有るし。 どこやかや (各方面) 雇いん
(に) いて (行つて) 来て くれえ (下さい) やとか
(だとか)、 いかまい (行かない) 言うのを 一生懸
命 世話やいて (して) 行く よおん (ように) すんの
を (するのを) クドイテ来たよお (来ました) 言うて、
よお (よく) 言うけど。 クドカレテまあ (もう) 言う
て。おたのみ申す 言うこと。頼む言う事や (だ)。
そお言う ばやい (場合) やなあ (です)。人、雇い
ん (に) 行つた時は。

くどく (功德) 【名詞】 御利益 恵 [会話] 物を呉れて
人に クドクスんのを (するのを)、ほして 説教して
クドクスんのと (するのと) そして ゼンゴンクドク
(善根功德) 言うのも有るしなあ。ゼンゴンクドク有
る人は五十万倍 守らせ賜う言うて、 唱えん (唱え
に)。人に物与えんのも (るのも) こや (これは) ク
ドクん (に) なる よおん (ように) 言うてなあ、人の
手伝い すんのも (するの) クドクや (だ) おもて
(思つて) するわ (します)。

くどくど。ぐどぐど 【副詞】 1) いつ迄も不平、不満を
言っている事。2) いつ迄も小言を言つて居る。叱る。
(志 (甲賀)、鳥)

くとけ 食べておけ 食べておきなさい [会話] 朝
しる (味噌汁) で くや (食べれば) ええわれ (よろ
しい) 言うて、昼も 残りのしる (味噌汁) で クト
ケ 言うて。

くどる 食べている [用例] 飯 クトル

くながり 【名詞】 暗い所 (北、尾) [会話] いなさかど
(東南の隅) は、 こクナガリ (少し暗い) しとるし
(しているし) 下座 やんかい (です)。

くながりなってきた 暗くなって来た。夜になる時と雨の
降り出す前の曇り空と。 [会話] くらがりなつて来
た、くらがりなつて来た 言うのも言うし、クナゴ
ナツテキタ言うのも言うしな、暗がりなつて来たのん
(のに) 言うてな 暗がりなる迄 仕事したてやら。
(とか)

くにながえ (くにながへ) (国替) 【名詞】 死亡する事 [会
話] クニガエ言う な (のは) 死んで くと (行くと) 言
うやんかい (言います)。クニガエ してく (して行
く) 言うて。よその人 ら (は) 天国へ行く 言うし、
ここの人 ら クニガエしてく 言うて、死んで く
事を どんな (どんなに) 偉い人でも死は まぬかれや
せんし (まぬがれないし) 天国行くね (行くのだ) 言
うて。どんな偉い人でも 死んで く 言う ‘て’
(手段) 持つとんねよつて (持っているのだから)、
そやけど (しかし) こんな (それが) 死んで からつた
ら (死んで行かなかつたら) そこらじゅう 一杯 ん
(に) なつて来て なつともかつとも (なんとも) 置
き所が あるか (有りません)。なつともかつとも
しゃあない (仕方がない) よおん (ように) なつてく
(なつて行く) 置き所 な (が)、無いよおにして。

くにする 気にする。心配する。(志、鳥 (加茂)) [会
話] なんやかや (いろいろ) 苦勞になあ、気にかけて
なあ、 おとつしゃ (ああ) 具合 な (が) わり (悪る
く) なつて こな (来なければ) ええのん (よいのに)、
こげん (こんなに) して しとて (していて) こいな
(こんな) 病気 ん (に) ならな (なければ) ええのん、
癌になつて かせんねかいなあ (なつていかないのだろ
うか) 言うて。気がかり ん (に) なる事をなあ、 そい
な (そんな) のおを (のを) 言うんやわいな (言うの
です)、 なんか (なにか) 気にする。医者 な (が) あ
げん (あんなに) 言うたけど 気になるなあ おもてな
あ (思つて) 気にかけること 気苦勞する事を 言うん
やろなあ (言うのでしょうか)。 あんな (あれが) クニ
ナツテ しよお (しかた) な (が) 無いね (ないの
だ) 言うてな。 せんならん (しなければならぬ) 事
せん と (せずに) おるとなあ、あれ せんならん、こ
れ せんならん おもて (思つて)、ま それを ク
ニスル クニナル言うて 言うんなし (言うのです)。
そして 人になあ、言われた事でも あげん (あんな
に) 言われた、 こげん (こんなに) 言われた、あの人

な (が) あいな (あんな) 事言うて ま、それを クニスン (する) のも言うしなあ。心配するとか、気にかかることをな。

くになる 気にかかる。心配になる。重荷になる。(鳥)

[会話] かやくた (羹) で 焚くもんで (ので) 御飯炊くのな (のが) どいらい (大変) クニナリオった (なって居ました)。

くにもと (国許) 【名詞】 故郷

ぐにゃぐにゃ 【副詞】 弾力が有り、柔かい。

くねる (曲、拗) 【自ラ五】 曲る。歪む。(志 (鶴方)、上、阿、張、名) [会話] くねくねと道な (が) 曲つとると (ていると) くねくねと クネットテ (ていて) どいらい (大変) 通りのくい (にくい) 道やなあ (だ) 言う。曲がりくねった言うやんない (言うでしよう)、曲つとる (ている) とこ (所)。

くねんぼ (九年母) 【名詞】 1) ミカン科の常緑小高木 インドシナ原産 幹は高さ3~5mになり、ミカンに似てやや大きく6cm位の果実を秋につける。表皮は厚く、種子が多いが甘味があり生食される。印度語 Kumla nebu (柑橘) の略 (大言海) (桑郡) 2) 山の芋 [会話] ₂₎ せんちや (便所) の女房 かげや (陰屋) の女房 こじいき (乞負) クネンボ 芋焼いて 食らえ。

くばりもん (配物) 【名詞】 祝儀や挨拶として又、謝礼として配る贈り物 [会話] 爺やんな (の) しまいの (最後の) 年忌やよって (だから)、クバリモン でも しょおやんかあ (しましよう)。

くばる (配) 【他ラ五】 配分する 分けて与える こばる [会話] 物をくばる。くばる言うね (言うのです) クバル 事をなあ、餅 こばって 来た言うて、八十八の餅 こばらな (なければ) はざんわれ (いけない) 言うて クバル 事をな、こばらな はざん 言う。昔、ちよいと (少し) 働きん (に) いて (行って) 来てても あきい (秋に) いて来たね (行って来たのです) 言うて みみがしん 言うのな (が) 有ってなあ、普通の家や (は) 七枚で ちよいと 濃い家や (は) 十枚で、もつと (更に) 濃い家や 十三枚位でなあ そして 土産や (だ) 言うて こぼんね (くばるのです)。隣組いも (にも) 皆 クバヨオッタ (配って居ました)。

くびかざり (首飾) 【名詞】 首を飾るもの 特に婦人の装身具として宝石、貴金属を数珠状につないで首につけて装飾とするもの [会話] クビカザリ、ネックレス。

くびかたげる 頸を傾ける。疑問に思う。思索する。

[会話] 思索ごと、考え事すると クビカタゲル。師走の蛙や (です) 寒蛙。首ひねったよお (捻ねりました) 言うて、あの時 なんやら (なにか) 父さんな (が) 言うたのん (言ったのに) あや (あれは) なつと (なんと) 言うたね やつたんかいなあ (言ったのだったのか) 言うて、小首 かたげて (傾けて) 考える。クビカタゲテ、いくら 思い出しても よお 思い出さんねよお (出せません) 言うて。

くびきれちよお (くびきれちやう) (首切疔) 【名詞】 首の周意にできる腫物 [会話] クビキレチヨオ や言うてこの溝い (へ) 出来ると クビキレチヨオや (だ) 言うて、よお (よく) 出来おったなあ (出来て居ました)。首な (が) 一升どつくり (徳利) みたよん (のように) 腫れて なあ、首よお (よく) いごからったやんかい (動かせなかつたです)。

くびすじ (くびすぢ) (首筋) 【名詞】 頸、うなじ (三) [会話] クビスジな (が) 張って、わりいて (悪くくて) 言うなあ、ほして 首 こお ねじやあるいて (捻じって) クビスジな (が) 張んのは (張るのは) 頭い (に) のぼって くんで (来るので) わりね (悪るいのです)。

くびたま (首玉) 【名詞】 くびすじ 首 (桑市、三、鈴郡)

くびつり (首吊) 【名詞】 首をくくって死ぬ事 [会話] 首つって、よお (よく) 死ぬやんかなあ、(です) クビツリや 言うて。

くびまき (首巻) 【名詞】 えりまき 襟巻 寒さを防ぐため、ちりや、ほこりや、砂をよけるため、又、装飾のため首にまく物の総称 肩掛けとの区別は困難である [会話] ショールの事 クビマキ。糸糸で編んだのなあ (のを)。クビマキにして。肩掛け 言うたりなあ、昔や (は) 肩掛け 言いおった (言って居た)。ショールの事を。肩掛け こおて (買って) もおて (貰って) 言うて 喜んで おった (いました)。

くびやる 1) 約束は守る。2) 言った事に責任を持つ。(志 (布施田、鶴方、甲賀))

くべる (焼) 【他バ下一】 1) 火の中に入れる (志 (布施田)、鳥、上、阿、張、名、南) 2) 燃やすため火の中に薪や紙などを入れる。たく。(志、鳥、南、熊) [会話] ₂₎ 木 クベル。突つ込むのを クベル。そや (それ) 木もクベテ もつと えごつと (充分に) 燃やせまあ (燃やしなさい) 言うて。はよ (早く) クベタラナ (くべなければ) 燃えやへんわれ (燃えません) 言うたり、木な (が) ひざって きたり (根本まで

燃えて来る・火去る) ひざりも クベヤセンネナ (燃やさないのだ) 言うて、なんも (何も) せん (しない) 人ら。ひざって来た 言うのは 燃えて、ひざ (火座) な (が) 外の方へ、鍋の下におらんと (居ずに)、鍋の下より こっちい (に) 燃えてくんのを (来るのを) ひざり火 言うて、はよ (早く) それを突っ込め 言うて ひざり火を つつこんだれ (でやれ) 言うて、ほと (すると) なんも せん 人な (が) おると (いと) ううた (ああ) なんも せん と ひざり火も クベヤセンネ (くべないのだ) 言うて。火が、ずうっと手前の方迄 燃えて 燃え伝って 来たれ そやあれ 言うて それを ひざり火。

くぼ (窪) 【名詞】 臼で米や餅を搗く時の単位 一臼分 (志 (布施田)) [会話] ひとクボ (一窪) 言うのは、上へ じゅう (重) によって 二升クボ 三升クボ、二升クボで、あんまり 三升クボん (に) すると、おなごは よお 搗かんの (搗かないのだ)、男らは力が えろおて (えらくて・有って) はよ (早く) こなすけど (小さくする、調理する)、おなご (女) らあんまり クボな おっきい と 一クボ 搗くのもはあはあ言うて、なついでん (夏犬) な 来たよおん (ように) 言うて、ううた (ああ) 代わって くれや (くれれば) ええのん (よいのに) 思うね (思うのです)。あられ搗くよおん (ように) になると よお (よく) 搗かな (搗かなければ) はざん (いけない) もんで (ので)、はあはあ はあはあ 言うて、ううた (ああ) なついでん な 来たくらいや (だ) 代わった れまあ (代わってやりなさい) 言うて、ひとかわりい つ (交替) して貰うとええんけど (よいのだが)、ひとクボ 搗くと ふうふう言うの (のです)。じゅう (重) 言うのは 四角いの (のを) 今しや (今は) 丸くたい (丸い) かね (金属) んのお (ののを) 売つとるけど (売って居るが)、昔や (は) 四角いのおい (のへ) 三つ重ねて じゅうを、そして 竹の箕を敷いて 下からだんだんと (次第に) 取って搗いて、又、上へおそて (重ねて) 又、下から取って搗いて 三つつ (三つずつ) しおった (して居ました)。二つする家もあるけど おおかた (大部分) 三つやわ (です)。上の二つは 一人持っといて (持っておいて) 一人下んのおを (下のを) 取って ふたありいつ (二人ずつ) 要るわい (要ります)。二人三人つ (ずつ) 搗くよおん (ように) になると おそうのや (とか) 火 焚くにげ (人間) や (だ) 言うて おそわな (押さえなければ) いかんし (いけないし) 搗くのも 代わって

貰うと ええけど、(よいが) 一人で、ひとクボ こなすと (搗くと) えらいわい (大変です)。

くま (熊) 【名詞】 1) 間抜けな人間 2) 人の上前をはねる人 [会話] ¹⁾ うっかりした事すると クマやれ (だ) 言うやんかい (言います)。²⁾ 上前をはねるピンはねをする、人の上前 はねたると、(てやると) あや (彼は) クマで だいいぶ (大部分) てえ (手) ねぶった ふうや (様子だ)。

くまのい (熊胆) 【名詞】 熊の胆嚢 健胃剤 (三重県全域) [会話] クマノイは 苦いねやんかい (のです) クマノイ飲むと いい (胃) に ええんかい (よいのですか)、そや (それは) 物凄い苦いんてわいなあ (苦いそうです)、クマノイは 腹痛ん (に) になると クマノイのましよおった (飲ませました)。

ぐまんじょ。ぐまんりょ 【名詞】 植物 いぬびわ 犬枇杷 クワ科の落葉樹。高さ2~4m 樹皮は滑らかで、灰白色、傷をつけると乳白色の液汁が出る。葉は倒卵形か倒卵状長隋円形で先が光る。雌雄異株で、春小さな白い斑点の散らばったイチジクに似た花囊をつける。花囊は15mm程で夏から秋にかけて、紫黒色に熟し食べられる。[会話] しよんがつ (の正月) あらくさ (豆播き) の箸ん (に) すんの (するの)に、グマン ジョ。きい (木) 削って刺すやんない (でしよう)。もも (果実) な (が) 無花果のちっちゃい (小さい) のおやてや (のです)。あからむと (熟すと) 真っ赤ん (に) なって うまいんなあ (美味しいです)。

くみ (組) 【名詞】 仲間 味方 [会話] 私とあんた (貴方) クミしよおか (しましようか) 言うて、二人で組むとか、三人組するとか 四人組とか。組んでする言うのは 何人かを 一組にすんの (するの) 組む。仲間になる。組んで入れてもおて (貰って) 言うて、あんたらん (貴方方の) クミい入れてええ (入れて下さい) 言うて。

ぐみ 【名詞】 植物、グミ科グミ属の総名称、日本には十五種程あり落葉また常緑低木で高さは二米程になる。褐色か銀色の鱗毛や星状毛を密布した茎を互生する、春または秋に先が四裂した白色の筒状花を開く。果実は球状で赤熟して食べられる。材は強韌 (志 (布施田)、鳥、伊、四、桑郡、安、員、飯) [会話] シュン シュン グミや (です) シン シュウ グミ 言うのを シュン シュン グミ 言うて、シン シュウ グミ 言うな (のは) まるくたい (丸い) のおで (ので) よけ (沢山) なんのをなあ (なるのを)。広 (地名) のあや (あれば) なあがい (長い) チョコチングミ、提灯みたよ

ん (のように) なあがい (長い) やんかい (です)。
それから 畑の土手に ちっちゃあい (小さい) グミな
(が) なんのな (なるのが) 有るやんかいなあ (有ります)、あや (あれは) なに グミ 言うねやら (言うのか) 知らんけどなあ (知らないが)。グミ 食うと 渋いのおで (ので) 尻い (に) つまらかすど (つまらずぞ) 言うてなあ、はこ (大便) な (が) 出やせんど (出ないぞ) 言よおった (言っただけ)。そやけど (しかし) グミ をなあ、あっかいの (赤いのを) 取って食い ん (に) 行きおったの (行って居ました) なんも (なんにも) 食う もん (物) な (が) 無いもんでなあ (無いので)。

くみおき (汲置) 【名詞】 水を汲んでおく事 又、汲んでおいた水 [会話] 水 クミオキ、水 クミオキ しとかな (しておかなければ) まあ 雨な (が) 降ると 汲みん (に) 行かれやせん (行けない) よって (から) 言うて。昔、水 貰らいん (に) 行きおったやんない (行って居たでしょう)、井戸な (が) 無いもん (で) (ので)、寺屋い (へ) 迄、飲み水 なあ 担いん (に) 行きおったの (行って居たのです)、使い水 はなあ、隣 近所 で すんね (するのだ) けど、(が) お茶の水 は 寺屋の のおで (ので) すると美味しいね (のだ) 言うてなあ、じょおく (いつも) ちゃあ (茶) の 水や (だ) 言うて 甕い 一杯 クミオキ しときよ おったの (しておいて居ました)。

くみこむ (組込) 【他マ五】 1) ある物を全体の一部として、その中に入れる 2) 仲間に入れる [会話] ₁₎ なんやかや (いろいろ) 物を 組むの を クミコム。三つ 組ん (に) 組むとかなあ、₂₎ 自分らの仲間 に 組 を 組んで、何処、其処 行くの ん (に) 組、組んどいて (で) 行こか (行きましようか) とか、組、組んで 仕事しよおか (しましようか) 言う時も クミコム。

くみこむ (汲込) 【他マ五】 汲み入れる。

くみする (組) 【自サ変】 仲間になり加勢する 味方する (志 (布施田)) [会話] お前ら、私ら クミシヨオヤ (しましよう) 言うてなあ、組、組む 言うのなあ。仲間 を 集める 言うのなあ、組、組んで しよおやんかあ (しましよう) 言うてなあ

くみたて (汲立) 【名詞】 汲んだばかりで有る事 汲んで間のない事、又、その物 [会話] クミタテの水や (だ) はよ (早く) 飲め 言うてなあ。寺屋の クミタテの水やどお (だぞ) 美味しいど (ぞ) はよ 飲めえ (飲みなさい) 言うて、杓ん (に) 一杯 ぐいぐい

と 飲みよおったね (飲んで居ました) 杓 で 飲むと うも おてなあ (美味くて)

くみやい (くみあい、くみあひ) 【名詞】 組合、漁業協同組合 (安、南、北伊勢地方) [会話] 勤めるとこ (所) 言うて、がっこ (学校) か 役場 か クミヤイ 位やわい (です)。

くむ (組) 【自マ五】 【他マ五】 1) 棒状、紐状のものを交差させたり、からみ合わせたりする。個々の物を、とり集めて一つのまとまりのあるものを作り上げる。編む。 2) ある事を一緒にするため仲間になる 協力する 共謀する (志 (甲賀)、鳥) 3) 胡座する 膝クム [会話] ₁₎ クム 言うのは 糸、クム 言うのもあるし、はさ クム 言うて、杭打つ として (打っただけ) 長いのを 干すの。網かけ (海老網漁をする人、又その事) な (が) 網、干すやんない (でしょう)、あん な (あれが) はさ (網干し場) クム (作る) 言うの。稲、干す時、昔や (は) 皆、はさ 組みおったの (組んで居たのです)。場所 な (が) よけ (沢山) いらん (いらぬ) よおに。糸や網 で 何か 組み立てるの おも (のもの)、えご と (立派に) 糸 で クム とか、縄 で 組んで、言うのも 有るし (有ります)。₂₎ 組、クム のも クム 言う、あん と 私 と くんで 話しとる (している)、それも 組や (です)。まあ 組 で 話しとんね (しているのだ) 言うて。ほして (そして) 夫婦 でも、一組 二組 言うやんかい (言います)。一組 夫婦 な (が) そ ろ て (揃って) 夫婦 な (が) 組んで。

くむ 【接尾語】 名詞について、その兆しの現れてくる事を言う そのものが現れ始める [会話] なみだ グム、涙 グン どんね よお (でいるのだ) 言うてなあ、涙 な (が) ぼろ と 落ちる や (で) なし に (なくて)、めえ (目) い (に) 涙 な (が) うっすう に (薄く)、涙 グン どんね よお (でいるのだ) 言うやんかい (言います・言うで有りませんか)。

くめん (工面) 【名詞】 1) 手段などを考える事 (南) 2) 家計 経済状態 (上、阿) [会話] ₁₎ 金 な (が) 無い よって (から) クメン して こな (こななければ) はざん われ (駄目だ) 言うて。何処ぞかで かって (貸りて) こな はざん われ 言うのをな、クメン して こな。どこそで クメン して ほん (本当に) こ さ え た (作った) 金 やれ (だ) 言うて、これをなあ、クメン すん の (するの)に 容易 な事 やろ かれ (でない)、のら (お前達) がっこ (学校) い (へ) やん のん (やるの)に 言う 事 や なあ (です)。やりくり や (です)。このなあ、金 の クメン すん の な (するの)が どん

だけ(どれだけ) えらかった(大変だった) おもてえ(思っ)言うてな 今して(今で)言う、泣き事や(です)。

ぐも【名詞】 くも 蜘蛛(志(片田、磯部、浜島、船越、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥(坂手、浦村、国崎)、松、桑市、四、三、鈴市、鈴郡、一、上、阿、度、尾、南) [会話] 蜘蛛の事。女郎グモ 言うの昔の人らや(で)ないけど、女郎グモ言うな 有るし、あの兵隊グモ 言うのも、女郎グモ。よお(よく) 喧嘩さして(させて)。

須賀利のぐも わしらな(が) 子供の時分、(時) とおやん(父親) な(が) おとぎ話してくれると。すが(熊野の地名) のぐもな(蜘蛛が)、鍛冶屋のかか(嬢)を 食い殺したて(殺してしまつて)、わがとな(自分が) 嬢ん(に) なつて、鍛冶屋に入り込んで。とと(夫) は このごろ(頃は)、どいらい(大変) 米な(が) よお(よく) 減つてくねあ(減つて行く)、がい(に) (たいして) 食わせんねけどなあ(食べないのだが)、嬢は飯 上げ(沢山) 食わせんねてわ(食べないそうです)。飯 食わせんの(に) (食べないのに) 米な(が) 減つてく 思て(思つて) とと(亭主) は 不思議に 思て 一日 仕事にいた(行つた) 振りして戻つて来てみて、かかな大鍋で 飯たつからかして(炊いて) 握つて 頭の皿い(に) 皆 ほり込みすんねてわい(ほり込みする そうです)。とと(亭主) は びっくりして こや(これは) たいした事や(大変だ)、これやよつてん(だから)、米な(が) 無いよおん(ように) なつてくねあ(いくのだ)。わがとは(自分は) 食わんと(食べないで) おつて(居て)、米な(が) 減つてくねてわい(いくそうです)。その儘 一緒に 食わせんねてわい(食べないそうです)。お父さん 先い(に) 食べてえ(食べて下さい) 言うて。食わしといて(食べさせておいて) わがた(自分は) 後で食べる 言うて、そいといて(そうしておいて) その飯炊いて 頭の皿い(に) 皆 掘り込んむんてわい(そうです)。とと は びっくりして これやよつて(これだから) 米な(が) いつのまにか 減つてくね(いくのだ)。そしたら それを そのぐもに 嗅ぎつけられたもんで(ので)、まあ お父さんはよ(早く) 風呂に入って言うて 昔や(は) 据え風呂や(と) 言うて、桶で据えて有りおつたんやろなあ(有つたのでしょうか)。それへなあ とと(主人) 風呂入らしてといて、(入れておいて) わがと(自分) は とと(主人) な(が) 風呂入つとる(入つて居る)

うちに その桶 いだらいて、(頂いて・頭にのせて) 奥山むいて(向かつて) それんねてわ(走るのだそ)うです。とと(主人) は えらい(大変) 事や(だ) 思て、(思つて) こや(これは) てんぼ(大変) な事や(だ) なつとも(何とも) しょおな(仕方が) のおて(無くて) 風呂釜から 出やれやせん(出れない) し) こや(これは) 困つたもんや(だ) 思て したら、そのうちん(に) 雨な(が) だんだん(強く) 降つて来て、風呂桶の水な(が) 一杯になつて いたたいとん(のん) (頭にのせているのに)。そしたら 山ん(の) 中 ししばの木な(が) 両方から おわつとる(覆さつている) とこ(所) ン(に)、いだいて 入つてくねてわ(行くそうです)。そのししばの木を たごめて(たわめて) きゅつとして まあ 言うて はね返つたんやろなあ(のでしょう) きゅつと その桶から 出たねけど(出たのだが)、その風呂は 一杯水な(が) 入つとるもんで(入つているので) おもみや(重みは) 判らんと(判らずに)、ししばにぶらさがつて 落ちたもんで(ので、今しや(今は) 正月にししば 祭る(飾る) やんな(で)しょう)。その いわく(理故) や(だ) 言うて 父やんな(が) 話して聞かしてくれおつたの(ました)。すが(る) 言うて 熊野に すが(る) 言うて とこ(所) な(が) あるわい(有ります)。しもいそ(西の方へ海女の土産ぎ) 行くと そこ 行くわい(行きます)。すが(る) で そこ(ら) は 山深いもんで(ので) そいな(そんな) のが 居りおつたんやろなあ。(居たのでしょうか)

くもあい(くもあひ)【雲間】【名詞】 雲の切れた間。

くもあし(雲足)【名詞】 雲の動いて行く様子。雲の動く早さ。

くもいき(くもゆき)【雲行】【名詞】 1) 天候の具合 雲の動き具合 2) 事のなり行き 3) 感情の動き [会話] ¹⁾ クモイキな(が) わりわれ(悪いです)、今日は、うわてぐも(東からの雲) な(が) どんどんあ(げ)て(上がつて) 来る。こや(これは) 雨な(が) 降つてくねど(くるのだ)、はよ(早く) なんもかも(何も彼も) いれえ(入れなさい)、取り込まな(なければ) はざんわれ(駄目だ) クモイキな(が) ちごて来たれ(違つて来た) 言うてするし、³⁾ にげ(人間) でも ちょいと(少し) 機嫌な(が) わり(悪い) と、あや(あれ) クモイキな(が) えらい(大変) わりわれ(悪いです)。

くもがきれる。くもなきれる 晴天になる 晴れて来る (上、阿) [会話] 雲な(が) 切れ切れん(に) なつ

て来たよって (から) こんで (此れで) 日和ん (に) なって くんねどお (来るのだ) 言うてな、べたぐもり しとんのな (しているのが) クモナ (が) キレテ来たよって (から)、西から晴れて来たたれ (来ました) まあ 日和ん (に) なってくんねどお 言う。

くもがでる 1) 雨になる 天気が悪くなる (東から) (上、阿、張) 2) 晴天になる (西から) [会話] ₂₎ クモナ (が) デテキタレ (来た) 西から雲な (が) 出て来たよって (から) こや (これは) 日和ん (に) なって くんねどお (来るのだ)、₁₎ こつちやから (東から) あがって来ると 雨ん (に) なるし、西から出て来ると、西ん (に) なって くんねなあ (来るのだ) 日和ん (に) なんねなあ (なるのだ) 言う。そすと うわてから (東から) あげて来ると、雲な (が) あげてくられ (来る) 雨かして (とみえて) 言う。

くもせんばい 沢山

くもつき 【名詞】 雲の様子 (志 (布施田))

くもったのお 曇りの日の挨拶 (南)

くもなあげる (あがる) 雲が東へ行く 晴天になる

くもなつむ 空全体が雨雲に覆われる (志 (布施田))

くもに (汲) 汲みましよう

くもに (組) 1) 仲間になりました。2) 組みましよう。

ぐものえがき 【名詞】 蜘蛛の巣 [会話] ぐも (蜘蛛) な (が) へんば 張つとられ (張って居る)。二階へ上ってて (行行って) ぐものへんば かぶって 来て。グモノエガキ言うのを グモノへんば。

ぐものさげる (さがる) 雲が西に行く 雨になる

ぐものすう 【名詞】 蜘蛛の巣 すうは、す (巣) が二拍化したもの。蛛の糞の意。糸にて糞の如く作る意。(大言海) (南)

ぐものへがき 【名詞】 蜘蛛の巣 へといの訛。ぐものえがき参照。[会話] グモノヘガキ、ぐも (蜘蛛) な (が) へんば (巣) 張って 言うし、ぐものへんば 言うけど (が) へガキ い (に) 掛かった 言うやんか い (言います)。

ぐものへんば 【名詞】 蜘蛛の巣 蜘蛛が巣をかける事又、その巣 蜘蛛の綱繰り くものへがき (志 (片田、神明、立神、国府)、鳥、伊)

くもゆき (雲行) 【名詞】 雲の流れの様子。転じて事の成否や感情を表すにも言う。

くもらかす。くもらす (曇) 【他サ五】 1) 顔や声などを心配そうな、又、悲しそうなさまにする 2) 曇る [会話] ₂₎ ガラスをクモラス、息吹いてなあ、クモラ

ス。₂₎ 雨な (が) 降って くんのかして (来るのか) クモラカシテ 来たれ (来た) 言うて、くもって来たり。₁₎ きい (気) クモラスとか、心配する言う様な時も有るなあ。おおた まあ クモラスなあ 言うてなあ、心配かける様な事な (が) 有るとなあ、おおた クモラシテ すまんなあ (すみません) 言う ばやい も (場合) 有るな (有ります)

くや (来) (食) 1) 来れば 2) 食べれば [会話] ₁₎ こつちやい (こちらへ) クヤ ええのん、(よいのに) まあ、あつちや (あちら) むいて いたたれ (行ってしまった) 言うて。

くやええのん 1) 来ればよいのに 2) 食べればよいのに [会話] ₁₎ あれも (彼も) 此処い (に) クヤ エエノン、あしこい (あすこへ) 来てな (は) また行きしとんね (しているのだ)

くやええわい。くやええわな (女性語)。くやええわれ 1) 来ればよろしい。来なさい。2) 食べればよろしい [会話] ₂₎ 朝 しる (味噌汁) で クヤエエワレ 言うて。

くやし (悔) 【形容詞】 口惜しい。残念だ。

くやみ (悔) 【名詞】 不幸にあった家を訪れて弔意を表す事 [会話] クヤミ言うて お通夜 言う事を。クヤミ行く 言うて、行く人を クヤミド。クヤミドな (を) 受けんならん (挨拶しなければ) よって (から) 言うて、葬式の家は クヤミドな (が) 来てくると、受けんならん。にげ (人間) な (が) むことらな (座っていないければ) はざん (いけない) 言うやんかい (言います)。クヤミドや (だ) 言うて。

くやみごと (悔事) 【名詞】 1) 人の死亡する事 不幸な出来事 2) 後悔するような事 [会話] ₂₎ くやむ。あれをしたて (してしまつて) あいな (あんな) 事 したてなあ (してしまつて)、おもて (思つて) 悔む、自分が 悔む事も 有るしなあ。₁₎ 人が死んだ時に、くやみに行く事も 有るしなあ、クヤミゴト 言うて、死んだ のおに (のに) くやみに行く言うとなあ、自分が なんか (なにか) 下手な事 したてなあ (してしまつて)、それを苦にすんのを くやむ 後悔する言う意味。

くやみど (悔人) 【名詞】 死人のあった家、不幸のあった家へ行つて弔意を表す人 弔問客 くやみ参照

くやむ (悔) 【他五】 1) 後悔する。2) 死をいたむ。

くよ くれる あげます 呉れる 他者が話し手、又は、話題の人物に物を与える 話し手、又は、話題の人物が他者に物を与える。受ける人をやや卑しめた言い方

である(志(越賀)) [会話] 遣る言う事。あんたん(貴方に) それ くれるわい(あげます) 言うの(のです)。それ クヨ言うて。あんたん あげる言う事を クヨ言うの。貰うにげ(人間) くれえ(下さい) 言うし、くれるにげ(人間) それ、クヨ言う。くれるわい 言うのも あんたに、あげるわい。昔はそれ、くれるわい 言うと、だれえ(はい・どれ) くれえ 言うて、貰うにげや(人間は)。クヨ 言うのはこちらからやる。

くよ。くよお(くよう、くやう)(供養)【名詞】 供養法事 死者の冥福を祈って回向する追善 [会話] 死んだ人のクヨオ、クヨオせな(しなければ) 仏な(が) 浮かばれやせんわれ(浮かばれない)。わが(自分) 身のクヨオして 言うて。

くよか 1) あげましょうか、疑い問いかけの意を表すクヨカア参照(志) 2) くない

くよかあ あげましょうか [会話] クヨカ言うのは やるかい(あげようか) 言うの。クヨカア言うのは 欲しか(欲しいか) 欲しねえか(欲しくないか) 問うよおな言葉 やなあ(です)。くれるわい言う な(のは) すぐん(に) くれたんのなし(てやるのですし)、クヨカア言う な(のは) 要るか いらんか(不要) 問うわけ やなあ(です)。クヨカイ言う と わしや(私は) いらんわい(要りません) 言う人も有るし、はよ(早く) くれえ(下さい) 言う人も 有るし。

くよかい。くよかな 1) あげましょうか 2) くれませんが くないであろう。[会話] 1) やるかい(あげましょうか) 言うのを クヨカイ言うね、くよかあ 言うてな、心安い にげ(人間) にや(には) 目上の人に 言う な(のは) これ クヨカナ 言うてなあ。

くよかれ くない

くら(暗)【名詞】 誤魔化し

くら【接尾語】 回数を数える単位 ひとクラ(一回) ふたクラ(二回) 鞍の意 人馬の往復を数える単位(志(布施田、片田、志島)、度) [会話] 一つ、二つ 言や(言えば) ええのん(よいのに)、ひとクラ。一回 もて来て(持って来て) 置くのを ひとクラ。まあひとクラ行て来た 言うて。磯(海女作業)へ 行ても(行っても) 一回入って来ると ひとクラ行て来た 言うし。ほして(そうして) 芋や(だ) 麦や(だ) 言うて持て来て、まあひとクラ持て来た、ひとかいり(一往復) 持て来た 言うのを、ひとクラ言う のなあ(のです)。まあ ひとかいり持て来て 二回目 又行くの 言うて、一回、二回言うのを ひとクラ ふ

たクラ 言うの(のです)。ひとクラ持て来たけど ふたクラめ(二回目) 行てこおかいね(行て来ましようかな) 言うて まあ わしや(私は) みいクラめ(三回目) やのん(ですのに・なのに) 言うて。

ぐらい(位)【副助詞】【副詞】 程、程度を表す語。おおよその数量、程度を示す。くらい(志、鳥) [会話] あの グライなら 上等 やなあ(だ) 言うたり、あの グライ もて(持って) 来いて やらなあ(とか) 分量をなあ、大体の事を言うの グライ 言うの なあ。

くらいこむ(くらひこむ)(食込)【他マ五】 1) 大食いする 勢いよく口に入れる 2) 大酒を飲む 3) 経費が不足する 4) 獄に入る [会話] 1) よけ(沢山) 食う言う事。よけ 食う 言うし、土佐衛門の禰で食い込んで てや(とか) 言う。入り込んで く(行く) くいこんだれ(食い込んで行った) まあ そやあれ(それ) 言うて。飯 よお(多く) 食べる 言う時は クライコンデク やら(とか)、食い込んで くやら 言うて。3) 経費が 足らん(不足) よお(ように) なって来て まあ よけ クライコンダ なあ 言う時も。食い込み な(が) いかれ(生ずる) 言うて 損な(が) 行く 言うのを 食い込み な 行く。

くraisagasu(くらひさがす)(食)【他サ五】 大食いする さがすは接尾語 [会話] 飯 よけ(沢山) クライサラシテ、クライサラス 言うね(言うのです) よけ 食うて言うのを クライサラシテ そやれ(それ)、その腹 見よまあ(見なさい) かんこぼり(堅く膨れている) やれ(だ) 言うて クライサガスも 一緒 や(です)。

くraisarasu 食べる、食べているの卑語。食べるの卑語 sarasuは、するの卑語 くraisagasu参照

くらいちゆうぶ【名詞】 1) 食べても食べても食べた人。痴呆症の一種。 2) いつも食べている人。

くらいつかれる 噛みつかれる [会話] 食い付く 犬にクライツカル てや(と言えは) 噛みつかれた のおを(のを)、食い付かれた 言うて、蚊に食われたよ おたら(とか) 言うて 蚊にクライツカル 言うて。

くらいつく(くらひつく)(食付)【自カ五】 1) 歯でかみつく 2) 密着する ひっついて行く

くらいつぶし(くらひつぶし)(食潰)【名詞】 人へののしって言う語 食べてばかり居て働かない人 怠け者(志(神明、立神、国府)、阿、張、名、南、松、尾、熊) [会話] がきつぶしよ クライツブシヨ 言うて。

くらいづめ 食べ続けて居る事 たえず食べている事
[会話] クライヅメ や (だ) 言うのなあ (です)、
食いどおし ん (に) しとんねない (しているのだ)
言うて、クライヅメや (だ) 言うて。

くらいぬけ (くらひぬけ) (食抜) 【名詞】 1) 大食漢
や大酒豪をののしって言う語、ぬけ 抜け 度外れの意
味 抜群の意 底抜けの意。人並外れている意 (志 (浜
島)、松、津、上、阿、尾、南) 2) 食事の後すぐ便
所に行く者 (志 (神明、志島、国府)、張) [会話] 1)
ごおなわいて (腹な立って) 怒る時に クライヌケの
はてなしや (果て無しよ) 言うて、クライヌケ 言う
て よお (よく) 言う。クライヌケ 言うなあ (の
は) 御飯 いくらでも よお (よく) 食べんねけど
(食べるのだが)、仕事をせんと (せずに) すば (怠
ける) しとる (して居る) のを クライヌケ。クライ
ヌケを、底無し言うて。なんも (何も) 仕事せんとお
って (せずに居て) 食べるもん (物) だけえらいのお
を (よく食べるのを) クライヌケ 言うの。遊んでお
って (居て) 仕事もせんとおって (せずにいて) 食う
のだけを クライヌケ、仕事して よお (よく) 食
べるのはなあ クライヌケや (と) 言わへんけど (言わ
ないが)、あや (彼は) まあ よお 食うのお (食
べるなあ) 大食いやのお (だな) 言うけど。食うて 年
中遊んで まあ あや (彼は) クライヌケや (だ) 言
うて、ずばら (怠け者) の事を 遊んでしてお
(居て) 食うもんで (ので) クライヌケ。

くらいまけ (位負) 【名詞】 1) 実力以上の地位に有り、
仕事が行えない 2) 相手が偉くて圧倒される。
[会話] 2) 名前な (が) ええと (よいと) あや (彼
は) 名前負けした 言うのも 一緒やわいな (です)。
クライマケ 言うのも、わがとな (自分の) 人格と
合わせんもんで (ないと) クライマケした言うて。あ
の人 えろおて (偉くて) わしらまあ クライマケし
たわい (しました) 言うてなあ、なんでも (何でも)
よお (よく) するし、わたしら なんも (何も) 出来
やせんし (出来ないし) あの人な (の) とこい (所
へ) いたら (行ったら) クライマケしたんよお (しま
した) 言うて。

くらいまけ (食負) 食う負け。食べ負け。[会話] く
いやい (食べくらべ) して 負けんのも (負けるの
も) クライマケ、くいまけ 言や (えば) ええんけど
(よいのに) クライマケ。

くらう (くらふ) (食) 【他ワ五】 1) 飲み食いする
食べるを卑しめて言う (志、熊) 2) 受ける、被る。

食うは物を身に受けるより転じて受ける、被るの意と
なる (大言海) [会話] 1) クラウ 言うの (のを) 食
う、食べる事を クラウ言うのな (です)。

くらうな 食べるな (志 (布施田))

くらえ 食べよをののしって言う (志) [会話] クラエ
言うのも わり (悪い) 言葉や (です)。これ食べな
さい 言や (言えば) ええことに (よい事に) これ
クラエ 言うて、ごおなわく (腹が立つ) 時んなあ
(に) くらやがれ 言うてなあ。

くらがった 暗くなった [会話] まぜもと (東南) な
(が) クラガッタよって (から) 雨やどお (だぞ) は
よ (早く) 取り込まな (なければ) 言うて、干しとる
と (ていると)。

くらがり 【形容詞】 暗い (志、一、上、阿、度、北、
南)

くらがり (暗) 【名詞】 暗い所 暗いうち 早朝 たそ
がれ 暗い時間 (志 (布施田、鶴方)、四、久、一、
多、北、南、熊) [会話] 暗いとこ、(所) クラガリで、
仕事して 言うて、クラガリなる迄 仕事した 言う
わい (言います)、昔の人ら。クラガリから 仕事し
て 言うてなあ、夜な (が) 明けんうちも (明けない
間も) クラガリ 言うし、夜な (が) 更けてからも、
クラガリなって来た 言うし。クラガリうちから 畑
いて (行って) 来た、クラガリなる迄 畑ん (に) お
った (居た) 言うて。日暮れや、朝は クラガリうち
(間) から 仕事かかったとか クラガリなるまで
仕事したとか 言うて。

くらがる (暗) 【自ラ五】 暗くなる

ぐらぐら 【副詞】 1) 物が安定せず揺れているさま
2) 湯などが沸騰するさま 3) 目が回るさま (志)
[会話] 1) グラグラする言うて ふらふら すんのを
なあ (するのを)、グラグラして危ないわれ (です)
言うてなあ。舟ん (に) 乗っても かぶらかし (揺す
る) すると グラグラすんなまあ (するな) まけてく
どお (転覆するぞ) 言うて。2) グラグラ煮えかえつと
られ (ている) 言うてな よお (よく) 煮えとる (て
いる) 事をなあ

くらくらす。ぐらぐらする 1) 眩暈がして倒れそう
になるさま (志 (甲賀)) 2) 湯が煮えたぎるさま
3) 怒り、嫉妬などで心の中がたぎるさま [会話]
1) 眩暈がする事、頭な、(が) 目な もおて (廻っ
て) クラクラシテ ひっくり返ってた (てしまった)。
眩暈がすんの、クラクラスル言うのなあ。それから
荷物を車に積むと クラクラスルやんか (します) 言

うてなあ。³⁾ 怒って腹の虫が 治まらん (治まらない) 時も 腹の虫な (が) グラグラスル。腹の虫な (が) でんぐり返る言うて、腹の虫な (が) ごおなわいて (腹が立って) ごおनावいて まあ (もう) でんぐり返る言うて。でんぐり返るは ひっくり返る。

くらごなってきた 1) 暗くなって来た 2) 日が暮れた 3) 雲が出て来た。曇り空になった。[会話] ³⁾ 暗がりになって来た 雨な (が) 降ってくるのかして (くるのか) えらい (大変) 西な (が) クラゴナツテキタよお言うて 雲な (が) 出て来るとなあ。

くらす (暗) 暗い事 又、その度合い 形容詞くらの語幹に接尾語さのついたもの

くらすして 食べて 食べたの卑語

くらし (暮) 【名詞】 日々の生活 暮らし向き 生計 生活費

くらしたた 撲ってやった。

くらしたる 撲ってやる

くらしたれ 撲ってやれ。撲ってやった。くらす参照

くらしたる 撲ってやれ。

くらしたんね 撲ってやるのだ。

くらしむき (暮向) 【名詞】 生活の様子 家計の状態生活

くらす 【他サ五】 殴る 打つ くらわす (食わす) くらわしの転 食わすの変化した語 (阿、桑郡、員、三、四、鈴市、上、度、北、南、熊) [会話] クラス、殴る事を クラシタレ (てやれ)、ドグラシタレ、ドグラワセ 言うて、ちよいと (少し) ごおなわくと (腹が立つと)、だれ (どれ) クラワシタロン (てやろう) 言うとんねけど (言っているが)、だいぶ (だいぶん) ごおनावいて 来ると、ドグラシタンド (やるぞ) 言うて、力も入れて。ものすごお 殴られた時ん (に)、おおた (ああ) ドグラサレたんよお (のだ) 言うて。夫婦喧嘩して、傷ごろ (傷だらけ) ん (に) なると、ドグラスんなあ (殴るのです)、なっと (なぜ) わが (自分の) かか (嬢) あげん (あんなに) どいらい (大変な) 目にして、傷ごろん するんなあ言う事や (です)。そんでも (それでも) じっきん (すぐに) めおと仲 (夫婦の間は) は直る。夫婦喧嘩は 寝や (寝れば) 直る。嬢を 傷になる程 クラワシテ、そいな (そんな) 時や (は) 気な (が) 動転しとんねやるなあ (しているのでしょうか)、男らも。

ぐらつく 【自力五】 不安定に動く。ぐらぐらする。眩暈がする。

ぐらっと。ぐらっと 【副詞】 様子が急に変わるさま ぐ

らりと くるっと [会話] 裏表 グラット返った、こげん (こんなに) 言うとた (言っていた) の (のを)、こんだ (今度は) 違う事言うて、あや グラット 気な (が) 変わったんなあ (変わったのだなあ) ぐらぐら 変わんねよってん (変わるのだから) 気持ちが。急にひっくり返るのを、あや (彼は) まあ 裏返ってたれ (しまった)。約束しといて (しておいて) それを違約すると裏返った。約束破るのを 裏返った。

ぐらのみ 【名詞】 丸呑み 嘔まずに飲み込む事 (志 (布施田)) [会話] 嘔まんと (嘔まずに) 呑むな (のは) グラノミしたた (してしまった)。呑み助で グラノミやなあ (だ)。

くらまかす。くらます 【他サ五】 1) ごまかす たぶらかす (志 (志島)) 2) かくれる 逃げる [会話] ¹⁾ 計り目 (計量) クラス

くらみ (暗) 【名詞】 暗い事 暗い所 日没後次第に暗くなって行く過程

くらむ (暗) 【自マ五】 1) 暗くなる 2) 眩暈がする 3) 見えなくなる

くらもん (果物) 【名詞】 くだもの (果物) の訛

くらやがれ 食べよの卑語 [会話] 食べなさい 言や (言えば) ええことん、(よいのに) ごおなわく (腹が立つ) 時んなあ (に) クラヤガレ 言うて。

くらら 来るでしょう。

くられ 1) 来る 2) 来るだろう

くらわかさせん 1) 食べさせなさい 2) 撲らない。

くらわかされた 撲られた。叱られた。[会話] クラワカサレタ 言うて 撲られたのおを。

くらわかしたろん 撲ってやる

くらわかす 撲る くらす 参照

くらわさせん 1) 食べさせない 2) 撲らない

くらわされた 殴られた 頭を叩かれた ひどく怒られた [会話] クラワサレタ 言うて 殴られた 言うのを。

くらわしたる 殴ってやる

くらわしたれ 殴ってやれ

くらわしたろん 殴ってやるぞ 殴ってやる [会話] クラワシタロン だれ (どれ) 拳骨で 言うて。

くらわしゃせん 食べさせない [会話] なんも (何にも) くらわさせんど (食べさせないぞ) 言うて、クラワシャセンの (のを) クラワシャセン。

くらわす (くらはす) (食) 【他サ五】 1) 強く叩く くらす 参照 (志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (坂手 鳥羽)、桑市、員、三、

鈴郡、一、松、多、上、阿、張、名、度、熊) 2) 食べさせる

くравせやせん 食べさせない [会話] のしみたよなもな (お前のような者は) 何処いなと (へでも) 行きさせ (行ってしまえ) のしみたよなもな、なんも (何も) クラワセヤセン 言うて。

くравれん 1) 食べられない 2) 生活出来ない

ぐり 【名詞】 1) 体に出来たしこり (上、阿、張) 2) リンパ腺の腫れたもの (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、張、南) [会話] 2) グリ、グリ玉が 出来た、ここい (下腿に) ねぶと (腫瘍・出来物) な (が) 出来ると、いぬごだま (リンパ腺の腫瘍) な (が)、グリグリな 出来おって (出来て居て)、手に出来ると こちょこちょ (腋窩) い (に) 出来るし、頭の方へ言うて 首すじい (に) こんだけばか (この位) の 玉な (が) あって グリグリと いぬごだま な (が) 出来た 言う。

ぐり 【名詞】 手拳大の石 くりいし (栗石) の訛略か。(志 (神明、立神、国府)) [会話] ぐりいしもなあグリ 言うわい。

くりいかり 【名詞】 くりいしに同じ (志、鳥 (国崎))

くりいし 【名詞】 海女が用いる石の重り 手繰って潜りの助けをし、又、次の目印にする (志 (甲賀、国府)、鳥 (国崎 鳥羽)) [会話] クリイカリ言うな (言うのは)、かねの分銅な (が) 有って、石でも ええし (よいし)、縛って 底い (に) とごらしといて (沈めておいて) くってくの (手繰って行くの)、クリイシ つこて (使って)。海女の人らな (が) ふっかい (深い) とこ (所) かずく (潜る) よおになると、上から引いて貰う人らは ええねけど (よいのですが)、かちあま (徒海女・一人で行く海女) な (が) 深いとこ (所) する時、その分銅 落として それ くって (手繰って) 行きおったわい (行って居ました)。クリイカリや (だ) 言うて。はいから (金属の重り・潜水の助けをするため持って入る) みたよおに (のよう) に 持って入って (入って行く) んやなしに (のでなくて)、落としといて (ておいて) 綱 繰って行くと、わがと (自分は) かかんでええやんない (掻かなくてよいでしょう)、そやもんで (それだから) 深いとこ 行くよおん (に) になると、そげん (そんなに) しいおったの (して居たのです)。てぐさ (天草) かずきになると、ふっかい もんで (ので)、分銅つこて (使って) それ繰って そして又、来る時

(出て来る時)、ほかへ、又 寄せといて (ておいて) 来て 又、それ 繰って行くと 楽なの。落としといて 行ても (行っても)、しなもんな (品物が) よけ (沢山) あんのを (あるのを) 見といて (見ておいて) 来といて (来ておいて)、落して 又 そこ取りもて (取りながら) いて (行って)、そして 今度あそこな (が) よけ (沢山) 有るよお思うと、出て来る時 又、そこい (へ) 寄せといて 来ると、ほど (すると) 又、それ繰ってくと (行くと) そこへ行かれるよおに、そげん、(そんなに)、しいおった。クリイカリ つこて (使って) 言うて 深いとこ (所) 来ると。はいからは わしらな (が) まだ 稽古せん (しない) うち (間) から しいおったなあ (して居ました)。はよから しいおったんやろ (していたのでしよう)。わしらな (が)、稽古海女の時分に ふねど (船人) 人ら それ 使とり (使って) おったんよつて (居たのだから)。わしらは 徒人やよつて (だから) そいな (そんな) もんは (物) 使わせん (使わない) けど、てぐさかずきのだ (時) ふっかい とこを する時に、それは使うけど そげん (そんなに) つねは (常・いつも) わがとらな (自分が) 掻いて、どいらい (大変) ふこお (深く) なって来ると 分銅使う人らも 有りおったけど (有ったが) そげん よけ (沢山) 使わらったわい (使わなかった)。クリイカリ言うて 昔や (は) 石を 繰ってく (て行く) 人らも ありおった (有りました)。船人でも クリイカリ言うて、はいから 使わんと (使わずに) そげん (そんなに) する人らも 有りおったわい (有りました)。

ぐりいし 【名詞】 手拳大の石 ぐり 参照

くりぐち 【名詞】 着物の袖の開いている部分 [会話] 広袖言うな (言うのは) クリグチせんと (せずに)、ひいろお (広く) 口 あけっぱなしにしたのおを (のを) 広袖。

ぐりぐり 【名詞】 リンパ腺の腫れたもの グルグル (回転) の転 (大言海) クルクル、グルグル回転する意 (方言俗語語源辞典) ぐり参照 (志 (布施田)、張、鈴市、安、上、阿、南、熊) [会話] グリグリな (が) 出来てきたんよお (来ました)、グリグリな (が) 首たまい (へ) 出来て来たり、ふともい (へ) 出来て来たり、痛いとこな (所) が 有ると、グリグリな (が) 出来てきたよお 言うてなあ。

くりくりばおず (くりくりばうず) 【名詞】 完全に頭髪を刈り取った頭。くりくりと円きボオズアタマ (坊主

天窓) (大言海)

くりこし (繰越) 【名詞】 残った物を次に廻す。

くりこす (繰越) 【他サ五】 残った物を次に廻す

くりごと (繰言) 【名詞】 愚痴 [会話] 言うた (言った) 事ばっか (ばかり) 言うとの (言っているのを)、クリゴト ばっか (ばかり) して。

ぐりつと 【副詞】 周囲を残らず、ぐるりと

くりづな (繰綱) 【名詞】 海女が海底に早く行く為に手繰っていく綱、重りを付けたり、海藻にくくり付けたりする [会話] クリヅナ言うてな それを くつてなあ (手繰って) 行く時もあるしなあ、ふっかい (深い) とこ (所) はなあ そげんすんの (そんなにするのです)。錨、やっついて (打っておいて) クリヅナして、てぐさ (天草) かづく (獲る) よんなんと (よくなる) ふっかい とこで クリヅナ してくと (して行くと) 行くのん (に) はやいんやんかい (早いのです)。

くる (繰) 【他ラ五】 1) たぐる 網をあげに行く 細長い物を引き寄せる (志 (布施田)) 2) 機械などをあやつる (志 (的矢)) 3) 涎を垂らす よだれクル (志 (鶴方、立神、志島、国府)、鳥) [会話] 1) クル言うのは こおして つとてく (伝っていく) のを、くつてく、綱くつてく、言うて タグッテク (いく) の言うの。ほすと (すると) 自分の方へ寄せる (近づく) 言う事 引く事を タグル。そや (それ) 綱 タグレヨオ (たぐりなさい) 言うて。しってとり 言うて、あとおって (後に居て) その引いたのおを (のを) タグレヨオ 言うて、その引いたのおを (のを)、あとにおって タグッテ すん (する) のを しってとり。しってとりに頼まれた 言うて よお (よく) 言うわい (言います)、先の人な (が) 引いてくんのを (来るのを)、引いて ここへ 置くやんない (でしよう)、それを うしろから タグッテ 輪にして 置いとくのな (置いておくのです)。クル言うな (言うのは) もう一つ 網クル、網クリに 行かな (行かなければ)。おらげの (私の家の) 父さん網クリに言う、網あげる 言うのを 網クル 言うのなあ (のです)、網あげん (揚げに) 行た (行った) 言うのを網クリに行た。3) よだれ クル (くつている・垂らしている)。よだれ垂らすのおも (のもの) 涎クル 言うなあ (言います)、涎、垂らしとる (垂らしている) 言わんと (言わずに) 涎クル。

くる 【名詞】 畑の周り 繰る。廻らすと同根か。(志 (船越)、度)

くる (来) 【自力変】 1) 来る (志、鳥、松、員、四、安、一、飯、多、上、張、度、北、尾、熊) 2) 帰って来る (志)

ぐる 【名詞】 ぐるぐると輪になっているの意 悪い事をする仲間 悪だくみの相棒 一味 [会話] 仲間 あいら (あいつら) ふたんな (二人が) グルん (に) なつとて (なっていて) わり (悪い) 事したり、言うたり (言ったり) して言うて。グルん (に) なつとて ふたんな 相談して わり 事でも ええ (良い) 事でも すん (する) のを 組になつとる (なっている) 事を グルんなつて。

ぐるぐるざ 【名詞】 円座 丸く輪になって座ること [会話] 畑い (に) 掘りん (に) 行て (行つて) 来て、はんざり (大きな桶) 入れて グルグルザん (に) なつて 皆 あろて (洗つて)。

くるくるばあ 【名詞】 1) 馬鹿 2) 精神の正常で無い人

くるし (苦) 【形容詞】 苦しい 体の状態や生活などが思わしくなく身に苦痛を感じる (志、鳥)

くるた 狂った、間違った (桑市、桑郡、員) [会話] 思惑な クルタ言うて、見込み違いやつた (だった)。まちごた (間違つた) かんじよ (計算) な (が) クルテ (狂つて) 来たよお (来ました) 言うたりなあ。今日は にげ (人間) な (が) おいいて (多くて) こんだけ (これだけ) もて (持って) 来たけど かんじよ な クルタよお言うて。気な (が) クルタ。気なクルテタネ (ていった) てない (そうだ) 言うてな。

くるつと。ぐるつと 【副詞】 くるりと廻る事を言う。(阿)

くるてわい 来るそうだ。来るそうです。(志 (立神)、鳥) [会話] 今日は まあ、先生な (が) クルテワイ 言うてな、先生な (が) 今日は来る 言うさけん (から) お前も来いええ (来なさい)。クルテワイ 言うてな

くるま (車) 【名詞】 重りを引き上げるための滑車 クルはクルクル (回転) の義、マはワ (輪) と通ず (志、鳥 (石鏡)) [会話] はいから (海女の持つ錘) あげんのを (揚げるのを) クルマ言うし、荷車もあるし。

くるまいど 【名詞】 井戸の上に櫓を組み、その櫓に滑車をつけ、綱を通し綱の両端に釣瓶をつけ水を汲み上げるようにした井戸 (四) [会話] クルマイド、がらからつと、てんじよ (天井) い (に) 車な (滑車) 付いとて (ていて) そして綱な (が) して、釣瓶な (が) さがらかして (吊して) あんの (あるのを) ク

ルマイド。

くるまちゃん(車賃)【名詞】車を利用した時の代金。旅費。

くるまひき(車引)(曳)【名詞】車夫 [会話] クルマヒキ、しよおったやんかい(して居ました)。人力車な(が)有って、人力や(だ)言うて、人力 引きおったなあ(引いて居ました)。

くるまや(車屋)【名詞】車引き。車夫

くるまる【自ラ五】屈む [会話] こやって 屈むの(のを)、クルマル 言うねんのお(言うのですね)。

くるむ(包)【他マ五】巻くようにして中に包み込む つつむ [会話] クルム、包む事を まわり(周囲) 巻く事を クルム。クルムドケ(でおけ)言うてな 包んどけ 言うのを、クルムドケ 言うのなあ、餅でクルムデ 有るとか、餡でクルムデ 有るとか 言うてなあ、くうもん(食べる物)の事もなあ。

くるめる(包)【他マ下一】包める 始末する 納得させる 一つにまとめる ひっくるめる くるむ 包む (志(鶴方)、上、阿) [会話] クルメル。ひっクルメ トイテ(ておいて)言うけどなあ(言います)。ひととこ(一か所)へ 寄せたのお(のを)、ひっクルメ テ もてこいまあ(持って来なさい) 言うて、ちよいと(少し) かなげんのお(からげるのを) ひっクルメ テ 言うんやろなあ(言うのでしょうか)。はよ(早く)、ひととこい(に) 寄せて、ひっクルメ テ もてこいまあ(持って来い)。言いクルマレルも 納得させる 承知させる 言うか、クルマラレテ 言いクルマラレテ、言いクルマラレテヨオ 言うて、そいなと きや(そんな時は) その人の言う事 聞く言うのを、嫌やけど(だが) その人な(が) あんまり 言うもんで、(ので) それ 承知したると(してやると) まあ 言いクルマラレタ。

くるやない 来るな。来てはいけない。

くるよってん 来るから。泣いてクルマヨッテン。

ぐるり【名詞】まわり 周囲 あたり そば(志(浜島、甲賀)、鳥(神島)、松、四、鈴市、鈴郡、安、津、上、阿、南) [会話] まわりの事、池のグルリとか、公園のグルリをもおた(回った)。家のグルリやと か(だとか) まわる事を言うんやろなあ(言うのでしょうか)。グルリ グルリと まわりがき、まわりがき言うのは 家のまわりの木も 言うし 立つとんの(立っているのも) グルリガキ。どこやかや(どここかも) 丸く 垣すると グルリガキ。

ぐるりがき【名詞】家の周囲の垣 ぐるり参照

くるわかす(くるはかす)(狂)【他サ五】狂うようにする。間違えさせる。くるわすの転。

くるわす(くるはす)(狂)【他サ五】間違えさせる。狂うようにする。狂うの未然形のクルマに使役の助動詞スのついたもの(大言海)

くるんである 包んで有る

くるんどけ 包んでおけ

くれ(暮)【名詞】1) 日暮 2) 年末 3) 月末

くれ(呉) 下さい 呉れ(志(浜島 御座 畔名 志島 国府 布施田)、鳥(坂手 答志)、伊、久、松、多、阿、張、度、南) [会話] クレエ てや(と言えば)、はあい やるわい(あげます)。クレエ 言うて 頂戴 言う事 ください。おおてたんもれ(逢って下さい) 餡の粕 たんもれ、餡たんもれ や(で) なくて 餡の粕 たんもれ。餡の粕たんもれ 言うて、餡の粕を、もちね(餅米)で 餡、炊くと、その粕な(に) もやしな(が) 仕込んであるもんで(ので) うまいんてや(美味しいのです)、搾ってしたや(ら) その粕な(が) 豆腐のきらず(おから)、みたよおん(のよう)に) しとんねけど(しているのだが)、あんまい(甘い) んてや どいらい(大変)、もやしな(が) 効いとて(効いていて)、餡、炊くもん(の)に) もやし入れな(入れなければ)、餡に ならせんやんか(なりません)。もやし言うて 麦を くざけといて(水に浸して)、根出して チョコキンと 出て来たのおを(のを)、こんだ(今度は) 干して、臼で 挽き割って、米を お粥みたいん(のように) 炊いといて(ておいて)、それへ その、もやしを 振ると じゃぼじゃぼと、水な(が) 出て来んの(来るのです)、それ 搾って こんだ(今度は) 煮詰めると 餡ん(に) なんのなあ(なるのです)。搾った粕は 餡の粕言うの、そんな(それが) また おいしいのなあ。それを 皆、ほおぼりおった(ロー杯にした)。餡の粕を 言うて こぼりおったわ(配りました)、曲げもんや(わっばとか) 重箱入れて こぼりおったの(配って居たのです)。米の餡炊くと 芋の餡やどきの(などの) 粕は、ほったるけど(捨ててしまうが)、米の餡 炊くと 粕 皆 うもおて(美味で) いくらでも 食いおったなあ(食べて居ました)。

ぐれ【名詞】魚 メジナの俗桶 ヒシ参照(伊、南、熊)

くれあい(くれあひ)(暮合)【名詞】日の暮れようとしている時 夕暮れ時(桑市) [会話] かいまずみ 言うな(のは) 日な(が) クレアイと おってく(落ち

て行く・入って行く) 時との あい (間) を。

くれえ 下さい (志、尾) [会話] 下さい言うのをな、頂戴 言う事を これクレエ、クレエ わしげも (私の家にも) 言うて 貰らう事

くれええ 下さい くれ 参照

ぐれえやど 【名詞】 男女の集まる所 程度のよくない集会所 [会話] グレエヤド 言うんなあ (言います)、男、おなご (女) や (とか) いろいろの のおな (人が) 寄ってく (集まっていく) 家を、グレエヤド や (だ)。あの家、グレエヤド で よけ (沢山) よって (集まって) 来てなあ (来て) 言うて、ええ (よい) 人、わり (悪い) 人 よってく 家を グレエヤド や (だ) 言よおった (言っていました)。よりよう (寄り集まる) 家 な (が) あるわい (有ります)、よりあい (集合場所) みたよん (のように) 男と おなご (女) と よる (集まる) 家 な (が) よけ ありおった (沢山有りました)。男でも おなご 好きとか、おなご でも 男好きで そいな (そんな) よおな 人 らな (が) よつとる (集まっている) と こ (所) を、グレエヤド や (だ) 言うて、上品な人 寄らせん (集まりません)、ちよいと (少し) げさくな (下品な) よおな 人 な (が) 寄るとこ (所) を、グレエヤド や (だ) 言うの なあ (のです)。

くれおしみ くれるのが嫌だ くれるのが惜しい [会話] クレオシミ な (が) する言うて、くれたない (やりたくない) くれたがらせん (くれたくない) のを くれたない よん (ように) しとんのを (しているのを) クレオシミ する。

くれがた (暮方) 【名詞】 夕刻 日の暮れようとして居る時。

ぐれぐれ 【副詞】 1) 愚図愚図 ぐたぐた に同じ 2) 揺れ動いて居る状態。(上、阿) [会話] 1) 酒 のお で (呑んで) グレグレ 言うたよおな (言ったような) 事 ばっか (ばかり) 言うるとと (言っていると)、のんだくれ (呑み助) な (が) あやあれ (あれ) 言うて。

くれし 下さい

くれたがらせん やろうとする気持ちがない くれる気持ちがない [会話] くれおしみ な する (やるのがいやだ) 言うて、くれたない (やりたくない) 勿体 な が んの (ながるのを) クレタガラセン のを くれたない (やりたくない) よん (ように) しとんの (しているのを) くれおしみ する てやら (とか) おしみ な (が) かかる。

くれたがりや 【名詞】 人に物をくれるのが好きな人

くれたない くれたくない、やりたくない [会話] おしみ (惜しい気) な (が) かかって (して) クレタナイ。

くれたらんかい。くれたらんかな (女性語)。くれたらん なかれ あげなさい

くれたる くれてやる たるはてやるの促音。やる (遣) は仕向ける意 (大言海) (志、度、伊)

くれたれ くれてやれ [会話] クレタレ 言うの (のは)、あげ よ 言う事 や な (です)、持つとんのを (しているのを) 人にやる。

くれたろ 1) あげます 2) あげなさい (鳥) [会話] 1) これも まあ クレタロ 言うて なあ、やろ (あげよう) 言う事 や なあ (です)、あげよう事 や なあ。

くれたんなあ くれたのですね

くれて 【名詞】 物を呉れる人

くれてえ 下さい

くれておくれ 1) 下さい 2) くれてやつて下さい。

くれな くれなければ

くれの 下さい (志 (志島)) [会話] 下さい 言う事、それ クレノ 俺に言うて、わいな (お前が) 持つとんの (しているのを) クレノ 俺に 言うて、そしたら くれらら (あげます) 言うて、やらら (あげます) 言うたりな。

くれまあ。くれまあえ 1) 下さい 2) 【接尾語】 動詞について願望を表す。

くれまある 方々に呉れる

くれまい あげない、やらない [会話] 親らな (が) クレマイ 言う男と ひつついと (一緒になつていて)、それこそ 親ん (に) みやれたら (見られたら) えらいこと (大変な事) やれ (だ) 言うて、親は クレマイ 言うて ねじばつとんのん (頑張っているのに) 言うて。

くれや くれれば

くれや ください [会話] クレヤ 言うのは、下さい 言う事 や (です)、受ける事 な、くれえ (下さい) 言うね (言うのです) クレヤ 言うのと、自分が貰う事、下さい 言う事を クレヤ 言うの なあ、これ クレヤ 言うて なあ、おれげ (俺の家) も それ ちよいと (少し) クレヤ 言うて なあ。

くれやあ 下さい くれや参照 (志 (浜島))

くれやい (くれあい。くれあひ) (暮合) 【名詞】 夕暮時 くれあい に同じ (桑市) [会話] 日の クレヤ クレ

ヤイに来て言うてな、ちろちろ ん (に) なって来て
なら (来て) 言うてな、うすぐろ お (薄暗く) なと
んのを (なっているのを) ちろちろ や (だ) 言うて。

くれやい【名詞】物を互に交換すること [会話] クレヤ
イ 言うな (のは) みんな (皆に) やったり とっ
たり、クレヤイ しょおや (しましう) 言うてな、
こちらの、ちよと (少し) ちごともん (違っている
物) 持っとると (ていと) あんたの (貴方の) のお
も (のも) くれえ (下さい) わしな (私の) のおも
やるわい (あげます) 言うて、交換する事な (です)。

くれよお 下さい

くれよか。くれよかい。くれよかな (女性語) 1) あげ
ましようか 2) くれません [会話] ¹⁾ やろかい (あ
げましようか) 言うのをクレヨカイ、くよかい 言う
ね (言うのです) 心安い にげ (人間) にや (には)
クレヨカア 言うし、目上の人に言うな これ、くよ
かな (あげましようか) 言うてな。

くれよかあ あげましようか くれよか参照

くれよかれ くない

くれらった くれなかった [会話] おら (俺は) かん
まえ (用意) とたんけど (ていたが) なんも (何も)
クレラッタ。

くれらよかい。くれらよかな (女性語)。くれらよかれ
あげられません くれらりよかれに同じ [会話] こ
や (此は) おんな (俺の) 大事の もん (物) やのん
(だのに)、一つより無い もんやよつて (だから) の
おん (お前に) やらよかれ (あげられません)、クレ
ラヨカレ、言うて。

くれらら 1) あげます 2) くれるでしょう [会話]
¹⁾ ください 言う事を それ くれの (下さい) 俺に
言うて そしたら わいげ (お前の家) にクレララ
言うて。

くれられ 1) あげます 2) くれるでしょう [会話]
¹⁾ こや (此は) 要らん よつて (から) クレラレ 言
うて。

**くれらりよかい。くれらりよかな (女性語)。くれらり
よかれ** あげられません [会話] クレラリヨカレ (呉
れられません) 言うのを、のおん (お前に) やりやり
よかれ、こや (此は) おんな (俺の) 大事の もん
(物) やのん (だのに)

くれる (呉)【他ラ下】与える くれてやる くれて
やれ (志 (浜島 御座 布施田 片田 船越 畔名)、
鳥 (国崎 坂手 答志)、上、阿、張、名) [会話] く
れ (下さい) 言うたら クレルワ 言うて。クレルと

くれたる (くれてやる) もおなし (同じ) 意味やけど
(です)。

くれる 少年、青年が生活態度が乱れ、反社会的、反抗
的な行動を取るようになる。不良になる (志 (神明、
志島)) [会話] 不良になる事な あ (です)。親らな
(たちが) あんまり やかまし (喧しく) 言う もんで
(ので)、あの家の子ら (は) わり (悪い) 事 ばつか
(ばかり) して グレテタ (ていった) 言うて。

くれるかあ 呉れますか [会話] クレルカア言う な
(のは) わしんも (私にも) それ 呉れるかな 言うて
な、相談 や (です)

くれるかい くれますか [会話] これ クレルカイ言
うのを おくれるかな (くれますか) 言うて、クレル
カイ 言わんと (言わずに) くれるかあこれを 言うて

くれるこ。くれるこお くれませんか くれますか
[会話] クレルコオ 言うたり、くれの (下さい)
言うたり、そんなら (それなら) やらら (あげます)
言うて、そすと (すると) もろてから (貰っていきま
す) 言うて。

くれるわい。くれるわな (女性語)。くれるわれ 1)
あげます 2) くれるでしょう

くれん くない

くれんか 1) 呉れませんか (志、尾) 2) あげなさい

くれんかあ 1) あげなさい 2) ください (志、鳥)

くれんかい。くれんかな (女性語)。くれんかれ 1)
呉れませんか 2) あげなさい [会話] ¹⁾ あの人に
おおたて (逢ってやって) クレンカイ 言う やんかい
(言います) 見合いしたりする。

くれんこ 呉れませんか (志 (志島、浜島)) [会話]

俺ん (に) クレンコ それを言うて、やらら (あげま
す) 言うて、あげる言う事を やらら わいに (お前
に) やらら。

くれんせ 下さい

ぐれんそ。ぐれんそお (ぐれんそう)【副詞】酒のみ正
体をなくす程、酔っている事 泥酔状態 (志 (布施田、
甲賀)) [会話] グレンソオ 言うな (のは) 酔おて ふ
らふらして うだうだ 言う とんのを (言っているの
を) グレンソオ や (です) ぐたぐたん (に) なって ど
てつ (呂律) まわらん よん (ように) 言う とんのを
(言っているのを) グレンソ や (と) 言う グレンソオ
ん なって 酔おて まあ 言うて。

くれんと くれなくて

くれんど 1) くれるでしょう 2) あげます [会話]
²⁾ あげます言う事をな、やんど (あげます) とか

クレンジ言うて。
 くれんとおって くないのに
 くれんのかい。くれんのかな (女性語)。くれんのかれ。
 くれるのですか
 くら (黒) 【名詞】 鮑の肉柱の表面の青緑のもの 食べると固いが味がよい [会話] めおび (女鮑) の事 めがい。おのこ (男鮑) は クロヤ (です)。クロな (が) ものすごお (大変) ねえ (値) な (が) しとんね (高い・して居るのです)、食い較べるとクロの方が美味い。
 くら (くろう くらう) 【名詞】 【形容詞】 苦勞
 くろい (黒) 【形容詞】 その道に詳しい (志 (布施田))
 [会話] じょおし (漁師) の クロイ 人 上手な人 玄人。
 くろうまのきんたま 【俚語】 最も黒いもの 黒いものを表すに使用 [会話] くろい (黒い) と最後、(その時)、くろいの (黒いのを) 見ると、クロウマノキンタマ みたい な ねえ (のようだ) 言うて、お寺の おばさん (大黒) な (が) ほおて (匍つて) ばっか (ばかり) おる もんで (居るので) 膝 な なあ (が) 真つ黒ん (に) しとんね (しているのです)、おおた、おばさん な (の) 膝 や (は) クロウマノキンタマ みたよん しとるわ (している) 言うて、わりくち 言 い (悪口を言う) 言うて 怒って きよおったね (きました)。
 くろえ 【名詞】 くろえい ほしえい エイ目アカエイ科 体は幅と長さが極端に違わない。尾はむち状で、その腹正中線に、皮摺または隆起線が有る。尾部腹面の皮摺の他に、尾棘後部の背正中線に低い隆起線があり、この長さは眼径よりはるかに長い。下顎内側に皮弁状突起がない。体の背面には白点が並び、腹面は白いうしえい (三重県全域)
 くらお (くらう) (苦勞) 【名詞】 心配 [会話] 米 な (が) 無いのも クロオヤ けど (心配だが)、きい (木) な (が) 無い のん (の) なん (何) 焚 か いな (焚こうか) 思 て (思つて) 夢 ん (に) 見 ん ね (見るのです)。
 くらお (暗) 暗く (志、四)
 くらおおび (黒鮑) 【名詞】 鮑の肉柱の表面の青緑のもの くらに同じ [会話] めぐろ 言うのは おのこ (男) クロオオビヤ や。(だ)
 くらおて 【形容詞】 1) 詳しくて 物事或いは、一つの事を詳しく知っている 2) 暗くて [会話] 2) 西の山 な (が) クロオテ、(暗くて) ぼろ (小雨) な

(が) くんのかして (来るとみえて)、山 な (が) くら ら ご な つて (暗くなつて) 来 た れ (来た)。
 くらおにん (くらうにん) 【名詞】 努力した人 苦勞する人 人事の苦勞を多く経験した意 (大言海) [会話] クロオニン 言 う な (言うのは)、子 ら ら な (子供達) あ ん ご し (馬鹿) て 苦勞するとか、男 な (が) お ば (妾) 持って 苦勞するとか言うのなあ。クロオニン や な あ (だ) あ や (彼は) まあ、子 ら ら な 病氣したり、あ ん ご し か つ つ り、と お さ ん (夫) が あ ん ご し か つ つ り、苦勞 ば つ か (ばかり) して クロオニン や な あ (だ) 言うて。自分が 勤 め て (よく働いて) だ ん だ ん (次第に) 金 持 ち 屋 (資産家) になって 苦勞した も ん で、(ので)、今 し ゃ (今は) 苦勞したおかげで よ お (よく) なって来てとか、出世して 苦勞したおかげで 言うし。まあ わ り い (悪く) になると あ や ま あ (彼は) クロオニンでなあ 言うて、あやまあ クロオニン や れ (だ) まあ 一代 まあ 苦勞したけど 今は え ろ お (偉く) なって言うて。
 くらがい 【名詞】 鮑の肉柱の表面の黒緑色のもの くら、くろおおびに同じ (志)
 くらがったい 黒い [会話] あ の ひ た (人は) クロガッタイ や (だ) 言うて く ろ い (黒い) の な あ (です)。
 くらかわ 【名詞】 海魚 くらかじき まかじきに似ているが、体色が黒っぽく、まかじき程体が側扁していない。上顎の長さが下顎の長さの二倍以上あり、全長3m以上になる。肉の色はしろっぽい。(度) [会話] クロカワの好きな に げ (人間) な (が) あつて、あ い な の (あんなの) 食うた事 ね え け ど (無いが) クロカワ 食うと、う も お て (美味くて) 言うけど。
 くらく。くらくのいわい 【名詞】 九六歳 九六歳で行う長寿の祝い [会話] クロクノイワイ (祝い) 九十六 ん (に) なるとなあ、クロクノイワイ 言うてなあ ゆ わ い する家も有るし、せ ん (しない) 家も有る。数え年で九十六でなあ。
 くらくも (黒雲) 【名詞】 黒い雲 雨雲 (桑市、阿、上)
 くらくわ (久六鰈) (黒鰈) 【名詞】 土方 土工 きゅうろくぐわ 柄が短く、頑丈な作りの鰈。固い土や木の根を掘り起こすのに用いる。くらくわ 黒鰈 戦国時代、築城や道路作りなどに従った人夫。江戸時代、江戸城内の警備や掃除、荷物運搬に従った者。(志 (越賀、甲賀、畔名、片田、布施田、浜島、鶴方、神明、志島、国府、安乗)、鳥 (国崎)、員、上、名)

[会話] クロクワ言うな、(のは) 土方の事なあ(です)、土方の事 昔や (は) クロクワ言いおった (言つて居ました)。クロクワ 頼んで畠も普請して。

くろけぶり (黒煙) 【名詞】 黒い煙 くろけむり

くろごなってきた 暗くなって来た。日が暮れた。雨雲が出て来た。

くろごめ (黒米) 【名詞】 玄米 (志、上、阿、南)

くろざと (くろざとう くろざたう) 【名詞】 黒砂糖精製しない茶褐色の砂糖 [会話] クロザトで まあるう (丸く) して あんのを (あるのを) くろだま。

くろしおかけたらめっぱでかねやれ 【俚語】 黒潮が流れて来たら大漁をする [会話] 黒潮 かける (流れる) となあ、鯉な (が) よけ (沢山) 釣れる もんで (ので) かんじよ (勘定) すると、かんじよ しとんな (しているのが)、世話 (面倒) なもんで (ので)、めっぱ で 計つて する よつて (から) メツパデカネヤレ言うて、めっぱで 金 量る言うてなあ、黒潮 な (が) 来ると 鯉ななあ (が) こつちや (こちら) むいて来る 言う訳やなあ (です)。黒潮 な (が) 来て、鯉な (が) 大漁 やれ (だ) 言うて まあ、金 よけ かせんで (稼いで) 当たんのん (配当もらうのに) かんじよ しとんな 世話なもんで めっぱ で量つて (ておいて)、昔 文久 銭やつたよつて (だったから) めっぱ で掬つて (ておいて) のも (お前も) 一杯、のも 一杯言うて しよおつたんで (して居たそうです)、メツパで カネヤ (だ) 言うて。

くろずむ (黒) 【自マ五】 黒みを帯びる 黒、ソム (染む) の転 (大言海) [会話] クロズンデキタナイ (来た) 言うやんかい (言います)。ブドオも あかる で (熟して) 来て クロズンデ 来たれ (来た) 言うて、黒なつて 来ると、美味い もんで (ので)、顔色でも なんか (なにか) 色な (が) わり (悪く) なつて 来ると あの人まあ 病気 な (が) わりかして (悪いのか) 顔色な (が) クロズンデ 来たない (来ました) 言う時 な (が) 有るなあ (有ります)。くろろお (黒く) なつて来る事をなあ、クロズム。

くろぞこい (黒内障) 【名詞】 各種の失明を言う。そこい、そこひは眼の底にヒ (翳) 有る義 (大言海)

くろた 食べた (北)

くろだ (黒) 1) 黒くなつた 2) 暗くなつた [会話] ₁₎ 浜い (へ) いて (行つて) あんまり (あまり) よお (沢山) 日な (が) 照つて 色な (が) クロダよお 言うて、日に照られて 真つ黒 ん (に) なつたよお (なりました) 言うて、クロデ クロデ真つ黒 けえ

(け) やよお (だ) 言うてな 真つ黒 ん (に) なつて。

くろだま (黒玉) 【名詞】 黒くて丸い飴玉 [会話] くろざと で (黒砂糖) まあるう (丸い) して あんのを (あるのを) クロダマ。

くろたんね。くろたんねない 食べてしまう。食べてしまうのだ。[会話] ぬすつとこじきや (隠れ食いする人) なんでも あえん (あんなに) もてて (持つて行つて) クロタンネナイ。

くろつち (黒土) 【名詞】 腐敗した植物質を含み、黒又は黒褐色をした耕作に適した土。[会話] クロツチ言う な (のは) 畑の土を クロツちなあ (です)。クロツチの家も 有るし 赤土の家も有るし、赤土畑で芋掘つて言うて 赤土畑の芋は美味しいしなあ くろぼく は芋 な (が) うまない、だいこ (大根) でも苦い。

くろで 1) 黒くなつて (鳥) 2) 暗くなつて [会話] ₁₎ くろろお (黒く) なつた 言う の (のを) クロデまあ 言うてなあ。クロデ、クロデ言うて ものすごお (大変) くろろお なるもんで (ので)。 ₂₎ 夕方になることも クロデ、くろろお なつて言うて、くらごおなつて (暗くなつて) 言うの、クロデ来た言うて。

くろと (玄人) 【名詞】 技芸などに深く熟知した人 専門家 くろと (志 (浜島)) [会話] シロト クロト、あやまあ (彼は) 素人や よつてん (だから)、仕事 すんのんなあ (するのに)、初めての もん (者) は、あや (彼は) 素人や よつてん 言うて、そして 仕事 ん (に) 慣れとる (ている) 人は、あや (彼は) クロトや よつてんなあ 言うて、仕事 ん (に) 慣れとる 職人がかつた人は、あや (彼は) クロトや (だ) よつてん 言うね (言うのです)。

くろとれ 食べておれの卑語 (志) [会話] 御飯 食べとれ (ておれ)、飯 クロトレ 言うし、食べとれ 言うのもなあ クロトレ言うてなあ、飯 くらえ (食べよ) 言うのも 一緒 やわい (です)。

くろはえ (黒南風) 【名詞】 梅雨、又は雨を伴う旧五月頃の南風 クラハエ (暗南風) の転 (大言海) (志、鳥、尾、熊) [会話] クロハエ言うて、五月のはえ (梅雨) に 雨ばつつか (ばかり) 降つとると (降つていると)、まあ (もう) クロハエ ん (に) 入つたなあ。天気 な (が) 続いて来ると、しろはえ ん (に) なつたんなあ (なつたのだ) 言うて。クロハエ 雨 な (が) 多い もんで (ので) クロハエの うちん (間に) 芋 植えな (植えなければ) 言うて。しろはえ ん (に) なると、ませ (南) の風 な (が) 吹いて 雨は 降らんとおつて (降らずに居て) する もんで (ので)、

はよ(早く)しろはえん(に)ならんうちん(ならない間に)、クロハエのうちん 芋 植えな 言うて。しろはえ言うて 天気な(が) 続いて 来んの(来るの)です。

くろばな【名詞】 味噌豆につく黒っぽい糍黴 [会話] 粟がら(殻) しとくと(しておくと)、うぐいすばなで、藁や(とか) なんやかや 敷くと、クロバナな(が) ついて、味噌な(が) くろおて(黒くて)、うぐいすばな な(が) つくと赤味噌 ん(に) なって。

くろばむ(黒)【自マ五】 黒くなる。はむは様子のそれとなく見える意を表す接尾語(大言海)

くろほ(黒穂)【名詞】 黒穂病にかかって黒くなった麦の穂 [会話] クロホ 言うななあ(言うのはですね)、炭**ば**つか(ばかり)で みい(実)が のおて(無くて)、通ると きもん(着物)へ 真**っ**黒ん(に) 付くねてや(付くのです)。わしらの子供の時**分**(時)になあ その炭をなあ、眉毛や 顔い(に) 塗ると、けつね(狐)に 化かされやへんね(化されないのだ)言うて、よお(よく) 塗りおったの(塗って居たのです)。炭**や**てや(です)。こお(粉) な(が) みい(実) にならんと(ならず)、ほん(本当)の 真**っ**黒になって そんで(それで) すみぼ(炭穂)。すみぼ 今年**や**(は) 炭**な**(が) よけ(沢山)有って、麦 刈んのん(刈るのに) よけ 有る年**な**(が) あんねてや(有るのです)。ほと(そうすると) 今年**や**(は) まあ どいらい(大変) 炭**な** よけ あんなあ(有るなあ) 言う年**な**(が) ありおったわい(有りました)。けつね言う**た**なあ(言ったのは) 狐の事。

くろぼく(黒土)【名詞】 黒い色をした耕作に適した土 くらつち、畑の土の黒褐色のもの。くろぼ音便 ぼこは土質のぼこぼこした意(大言海)(員、一) [会話] クロボクは くうろい(黒い) 土でなあするし、きごづち 言う**な**(のは) ちよいと(少し) あっかい(赤い) 様な のおで(ので) きじ(粗さ)も ええし なあ(よいし)、なんもかも(すべて) きごづちの**も** ん(物)は 美味いし 美しく**の**(のです)、そやけど(しかし) クロボクは芋でも 掘っても くうろい(黒い) 土な(が) つくよって(付くから) 汚いし、だいこ(大根)でも なんかなしん(に) 色な(が) くう ろおてなあ(黒くて)、くうても(食べても) 苦いし、クロボク言う**な**(のは) 特別、肥料が入って肥えた 土やなしん(でなくて) 特別 そいな(そんな) 土な(が) あんの(有るのです)。

くろまい【名詞】 玄米(志(浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥) [会話] 搗いて無いの買うと クロマイ言う**の**(の)です。クロマイ こおて(買って) 搗いて**も**ろた(貰った) 言う**の**(の)です。

くろます(黒)【他サ五】 黒くする 黒むの未然形を活用した語(大言海) [会話] こお(子)も こや(これは) クロマシ**タンナア**(たのだ) 言うて、ひなて(日の当る所)で しとると(している)

くろまなこ(黒眼)【名詞】 瞳(南) [会話] 目のクロマナコ 黒い瞳

くろみ(黒味)【名詞】 黒い程度 黒い色

くろむ(黒)【自マ五】 汚れたり、日に焼けたりして黒くなる [会話] 色な(が) クロム、くろでも**一**緒**や**(です)。

くろめ(黒目)【名詞】 いしだい いしだい科の海魚 上下両顎の歯は多数の物が層をなして並んでおり、各の歯の隙間は石灰質で満たされ、且つ、これら歯は顎骨と合着しており、強固になっている。黒色の横縞がある。全長40cm以上になる。美味である。目が黒い。(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥(菅島 石鏡)、度) [会話] 魚のクロメ

くろめる(黒)【他マ下一】 黒くする

くろもず【名詞】 魚名 はくてんはた スズキ目ハタ科。体は紫褐色で、大小の白色斑点が散在する。背鰭臀鰭の軟状部。胸鰭尾鰭の後縁は白く縁取られる。

くろやまつく 人が沢山集まる。蟬集する。(志(布施田))

くろゆお【名詞】 海魚 めじな ひし参照(尾)

くろんぼ【名詞】 海女の作業着 合成樹脂で黒色をし、防水と防寒を兼ねる

くわあれ【感動詞】 呼び掛けの言葉(志) [会話] クワアレ なあ(お前は) なと(なんと) しとんねど(しているのか)。これ あんた(貴方) なん(何) しとん ねえやな(しているのですか) 言う事を、クワアレ なあ なと しとんねど、こやれ やれ やれ、やれ やれ こやれ 言う。藁打つのも こやあれ やれ やれ、やれ やれ こやれ 言うて うとて(歌って)、槌は重たし 腕(かいな)は弱し 槌と 腕と替えてくれ ああ やれ こら やれ こら 言うて、そんで(それで) 拍子取って、ほすと(そうすると) 片つぼ(片方の)の手で よお持たん(持てないと)、両手で こげんして(こんなに)して 藁打ちおったの(打って居たのです)。昔の方が面白いなあ。

ぐわい(具合)【名詞】 様子 調子 都合 ぐわいに同じ

ぐあい参照 歴史的かなづかいは、ぐはひ、とするが語源は未詳。一方、ぐあいの変化した口語的な語とする説もある。(上、阿、張、名、北) [会話] グワイな (が) わり (悪るい) とか、こや (これは) 仕事するグワイな (が) えらい (大変) わり なあ、こした (こうした) 方な (が) 勝手な (が) ええなあ (よい) 言うてな、仕事なあ (を) てえ (手) の調子な (が) ええ方を 勝手な (が) ええ (よい)、勝手な (が) わりと 手グワイな (が) わりなあ 言うて。病氣 すんのも (するの) グワイな (が) わり 言うの (のです)。グワイな (が) わり なって来て言うてなあ、グワイな (が) わり いて (悪るくて) 寝とん ねてない (寝ているのだそう) 言うて。

ぐわいしき【名詞】 都合 様子 調子 [会話] ぐっしきな (が) わり (悪るい) 言うて よお (よく) 言うわい (言います)。こや (これは) なんやら (何か) ぐっしきな (が) わり なあ (悪るい) 言うて、格好な (が) わりのお な (悪るいのを)、こやえらい (大変) ぐっしき わり やかあ (悪るいでないか) 言うて、仕事な (が) やり にくい (しぬくい) 時も、こや まあ (これは) グワイシキ な (が) わり なあ (悪るい) 言うて。仕事な (が) スムウスに 行かへん (行かない) 時を こや まあ グワイシキ な (が) わり いて (悪るくて) まあ。

ぐわいなわり 1) 健康がすぐれない 2) 都合が悪い (志 (布施田))

ぐわいよお 好都合に (張)

ぐわいわり 1) 都合が悪い 2) 恥ずかしい 3) 健康が勝れない。

ぐわえかか ってきた 食いついてきた。反抗して来た。口答えて来た。

ぐわえかか ってきて 食いついてきて

ぐわえこむ (くはえこむ) (食込) 【動詞】 1) しっかりとくわえる 2) 自分の物として離さない 抱え込む 3) 異性の相手連れ込む、ひっぱりこむ。

ぐわえた 魚が釣針に掛った。

ぐわえてきた 魚が釣れた。

ぐわえられた た 食べられてしまった。噛みついて持っていた。

ぐわえる (くはえる) 【他ア下一】 1) 魚が釣れる 2) 口に入れる [会話] 2) 指 クワエル、口でクワエル 子供ら な (が) なん やかや (いろいろ) 口い (に) クワエル、いび (指) クワエテ みと みないのん (見苦しいのに) 言うて、言よ おった (言っています)。

した)。1) 蟹や とか 蛙や とか (だとか) 言うて、釣り ん (に) いた のも (行ったのも) クワエテ 来た。鴨に クワエラ レタ (てしまった) 言うて、なん でも (何でも) 置いと くと (ておくと) 鴨 な (が) クワエテテ (ていって)、べん と (弁当) 箱 でも、浜 で 当 つと ると (火に当たっていると) 籠 ん (に) い つと んの でも (入っているのでも) 鴨 な (が)、クワエテテ つ つ いて (突っついて) うち や とん ね よ お (壊しているのだ) 言うて 言よ お った。(言っていました) 魚 な (が) 釣れる言うのでも クワエル 言うてな。

くわがら (くはがら) (鉞柄) 【名詞】 大きな鉞の刃をつける木の部分 [会話] クワガラ 言うて 昔の鉞は き い (木) の、の お な (のが) ええ (柄) に つ い と て (ついでに)、か ね だけ は ず す よ お ん (ように) な つ と て (なっていて)、そ ん な (それが) ど い ら い (大きな) 鉞 や (です)。

くわけ (区分) 全体を幾つかに分類したり、区切ったりして分ける事 [会話] 一つの も ん (物) を ち つ ち よ お (小さく) 分ける、それも クワケ し と け (しておけ) 言うてなあ、クワケ して 当 た つ て け (貰らっていけ) 言うて。

くわさん ならん 扶養しなければいけない。[会話] あの子 クワサン ならん

くわし (くはし) (詳) 【形容詞】 詳しい

くわしたる 食べさせてやる。扶養してやる

ぐわしたる 崩す 崩してやる

ぐわしてこい ぐずして来い

くわしとる 養っている。扶養している。

くわしやせん 食べさせない [会話] なん も (全く) く ら わ さ せん ど (食べさせないぞ) 言うて クワシヤ セン の く ら わ さ せん (食べさせない)。

くわしよ 食べさせよう (志) [会話] と お や ん (父さん) に クワシヨ 言うて、食 べ さ し よ (させよう) 言うのをなあ。く わ し た る (食べさせてやろう) 言うたり、クワシヨ 言うたり なあ。

くわす (くはす) (食) 【他サ五】 1) 差し込む (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乘)) 2) 飲食させる 養う (志摩市全域、鳥) 3) 魚を釣る [会話] 2) 食べさす言う事、蚕に、桑、食わして 餌やれ 言う事を、クワス。1) 鮑なんかを採りに いた (行った) 時 のみ (金属の鮑を採る籠) クワス のみで 鮑 な (が) ひ つ つ い と る (ている) の お い な (のへ)、のみ 差すのを のみ クワシ ト イ テ キ タ ヤ (差し込んで来たら) ほ お て て (這って行って) とか、

傷したて(傷を作ってしまった)とか言うて。採り
のくいと(採りにくいと)のみクワシテ ほっといて
来る。よお採らんで(採れなくて)のみ クワシテ
ほっといて来たれ(来ました)息な(が)切れて来
て。その時の クワス言うのは 差し込む 突っ込む
事をなあ、のみ クワス。御飯 食べさすの 子供ら
にクワス 飯食わせ。

ぐわす 崩す 壊す 崩れる(志(布施田)) [会話]
グワス、いしぐら(石垣・芋飯の別称)、芋飯炊いて
いしぐら グワソヤ(壊しましょう)言うて、杓子で
飯盛ると(よそう)芋な(が) ごろごろして来ると、
いしぐら グワス、壊す事 いしかけを。なんば
(鉄)で 壊すの、杓子で 芋を すんのを(するの
を) いしぐら グワス。壊す おこしたる(耕す) 事
を とぐわ(唐鉄)で打って うちやる(壊す) 時ん
(に) いしぐら グワス。ぐわれて来た 言うやんか
い(言います)。雨な(が) よけ(沢山) 降って、い
しぐらな ぐわれた。崩すとか 崩れるとか、ひとり
でに(自然に) してきた 言うのは ぐわれて来て
言うの。自分らで壊すのは グワス 言うの。

くわずざらい(くはすざらひ) (不食嫌) 【名詞】 食べ
ないのに食べ物を嫌う事。転じて経験しないのに嫌う
事。

くわせもん 【名詞】 油断ならない人 くはすは騙す

くわせん 1) 食べない(一) 2) 釣れない

くわだて(くはだて) (企) 【名詞】 もくろみ 計画

くわだてる(くはだてる) (企立) 【他下一】 計画する。
もくろむ。

くわづかい(くはづかひ) (鉄使) 【名詞】 鉄を使用する
事 [会話] 畑いとると(行っている) いっしょけ
んめ(一生懸命) クワツカイ するやんな(でし
ょう)。

くわないも 【名詞】 薩摩芋の一種 [会話] クワナイモ
言うな(のは)九州芋言うて、ピンクで 生で食べる
と おいしい(美味しく)それを嗜みおったのな
あ(居たのです)。嗜むのは美味しいねえけど 昔や
(は) なんも(何も) 食べるもん(物) 無いもんで
(ので) 芋、切れまあ(切りなさい) 言うて パケツ
一杯も、芋、切るやんない(でし
ょう) そすと(そう
すると) クワナイモな(が) 出て来ると 食うて 真
つ黒ん(に) くちびる(口唇) 芋のちちで そげん
(そんなに)して。そして(そうして) おそがけん
(時間が経つと) になると 七月、八月迄 いもつぼい
(芋の貯蔵所へ) 芋いけて(入れて居て) 八月頃ん

(に) になると、芋い(へ) 瘤な(が) 出来てくんね
(来るのです) 新しみいな(実が) 出てくんのなあ
(来るのです)、それを 取って食うと うもおて
(美味で)。器量の悪い人見ると クワナイモたよ
ななあ(のようだ) 言うて。そやもんで、器量のええ
(表面の滑らかな) 芋ばっか(ばかり) 先い(へ) 剥
いて きれとのふっかいな(裂け目の深いのは) 後ま
あしん(に)して そして(そうして) 嫁も、器量の
悪いもな(者は) 行くのん(に) おっそい(遅い) や
んない(でし
ょう)。そして わしらな(私達) 芋
切っても 器量のええのばっか(ばかり) 剥いて き
れとの ふっかい、剥きぬくいなあ(のは) 後い 残
すやんない。それと一緒に クワナイモで あやまあ
(彼女は) 行き残りやれ(だ) 言うて。器量な(が)
悪い もんで(ので) 売れ残ってく(て行く) のなあ
(のです)。

くわのもも 【名詞】 桑の実(志(志島、片田)、鳥(相
差)、桑市、員、三、四、鈴市、松) [会話] クワノモ
モ(実)を 食いおったなあ(食べて居ました)。真
つ黒ん(に) になって来ると。あや(あれは) どそお
言うのな(言うのが) 一番うまかったのお(美味しか
った)、おっきいて(大きくて)。どそお言うて はあ
なあなあ(葉が) 他ののおは(のは) ぎざぎざしとるけ
ど(しているが) どそお言うな(言うのは) まるくと
おて(丸くて) どいらい(大きい) のおやった(のだ
った)、みい(実)も おっきい ねやんかな(ので
す)。

くわばらくわばら 【感動詞】 落雷、災難、いやな事な
どを避ける為のまじない言葉。管公の領地、桑原には
一度も落雷がなかったと言う、又、和泉の国で雷神が
井戸に落ちた時、蓋をして、天に帰さなかったところ、
自分は桑の木が嫌いなので、桑原と唱えたら二度と落
ちないと誓ったと言う説も有る。(志(浜島)、北)
[会話] クワバラ、雷な(が) 鳴って来ると 昔や
(は) 鉄を外へ出しおったの(出して居たのです)。
はよ(早く) 鉄 外い(に) 出せ 言うて、クワバラ
クワバラ言うの。昔の人らは、鉄立てると その鉄な
(に) 鉄な(が) 有るもんで(ので) それつとて(伝
つて) 来る 言う意味やろなあ(でし
ょう)。そんで
なあ(それで) はよ 鉄 外い(に) 出せ 言うて。
昔や(は) ともと(庭) い(に) 鉄出しおったの。雷、
鳴って来ると はよ 蚊帳かぶらな(覆らなければ)
言うて、おとしかりおって(怖くて) 麻の蚊帳を は
よ 吊れ言うて。歌になあ “かかあ(嬢) せんこ(線

香) 立て、蚊帳吊れ 臍かくせ” 言うやんな (言うでしょう)。それでなあ 昔や (は) 蚊帳吊りおったの なあ (吊って居たのです)。雷 鳴って来ると はよ 蚊帳吊って くれえ (下さい) 言うて 蚊帳ん (に) 中、入りおったんよお (入って居たのです)、雷な (が) おとし (怖い) のおで (ので)。そして 鉄を外い (に) 立てとけ (立てておけ) 言うて、鉄立てると その鉄い (に) つとてくる (伝って来る)。外い (に) 置いとくだけ (置いておくれ)。置いとくと (置いておくと) 立つとるやんかい (立っています)。ええ (柄) な (が) そやもんで (それだから) 鉄 外い (に) 出しとけ (ておけ) 言うて、外い (に) 出しときおったの (出しておいたのです)。ほと (すると) それへ 雷な (が) 落ちる 言う、あんで (あれで) 鉄へ伝う 言うの 知つとて (知っていて) しいおったんやろな (して居たのでしょうか)。

くわばらあし【**名詞**】人並外れて大きな足 [会話] クワバラアシ、足な (が) おっきいと、(大きいと) クワバラアシ、あやれ 言うてな。

くわれ 食べます [会話] のな (お前が) そげん (そんなに) 言わんでて (言わなくても) おや (俺は) クワレ、食べる言う事をなあ、人に世話 やいてもらわんでも (もらわなくても) わしや (私は) 一人で食べるわい (食べます) 言う事をな、おや (俺は) 一人クワレ言うてな、飯 もつたろかい (よそつてあげようか) 言うて、おや (俺は) 一人 もつて (よそつて) クワレ言うなあ。

くわれ【**感動詞**】呼び掛けの言葉 くわあれに同じ (志島) [会話] クワレ言うて こやれ言うのを こやれ ○○よ あんなれ (あのね) 言うてなあ。これえ (これ) 言うのを クワレ言うて、クワレあんなれ (あの人がです) 言うて。

ぐわれてきた 崩れて来た 壊れて来た [会話] がら (岩の塊) 崩れて来た言うて、グワレテキタ言うのも 有るしなあ (有ります)。土手な (が) グワレテキタ言うて、雨な (が) よけ (沢山) 降ってきたや (来たら) 土手な (が) グワレテ言うてな。

くわれやせん。くわれやせんわい。くわれやせんわな。くわれやせんわら。くわれやせんわれ 1) 食べられません くわれる参照 2) 生活が出来ない。

くわれる 1) 食べられる、受動的にも 能動的にも使用する。食べる事が出来る (志、鳥) 2) 生活が出来る。[会話] 1) かあ (蚊) にクワレル、かあに くわれて。これも クワレルやんか (です) 言うて くだ

もん (果物) でも なんでも (何でも)、そこん (そこに) 有る もん (物) これもクワレル、言うやろ (言うでしょう)、食べられる 言うの (のです) クワレル言うの (のです)。そやまあ、腐つとて (ていて) クワレヤセンワレ (食べられません) 言うて、食べられやせん (ない)。自分で食べる事な (が) できるのも クワレル。いん (犬) に噛みつかれたのも いん に 噛まれたん (た) てわれ (そうだ) 言う人も 有るし、クワレタンテワレ くいつかれたんてわれ 言うて、いんに、かぶりつかれた 言うて。

ぐわれる 崩れる (志 (波切、国府)、度) [会話] いし しかけ (石垣) な (が) グワレルとか、土な (が) グワレル、壊れて くんのをなあ (くるのを)、グワレル 言うてな。

くわんかい 食べなさい 食べませんか [会話] 御飯 食べとる (ている) 時ん (に) 来るでしょ お客さんな (が)、そすとさいご (するとその時) クワンカイ 言うて、それが れえぎ (礼儀 習慣) みたよん (のように) しよおつてなあ (して居て)、そすと (すると) くて来たら (食べて来たら) くて来た (食べて来た) 言うて、くて来た 言うても (言っても) 一口位入るやんない (でしょう) また 変ったもん (物は) 入るわい (です) 言うて、そんなら (それなら) よばよかいなあ (頂きましようか) 言うてな。

くわんかれ 食べなさい

…**くん**【**接尾語**】のです。行クンかい (行くのですか)。

ぐん【**名詞**】計画 軍略より出た語か。(上、阿) [会話] 仕事するより グンをせえ (しなさい) 言うてな、考えを せえ 言う事をなあ、計画立てよ。考えしてなあ こげん (こんな) したら こお、こげん したら、こお 言うて、仕事すん (する) のより グン な (が) ええ (よい) 方な 勝ちや (だ) 言う事やわい (です)。

ぐんかん (軍艦)【**名詞**】女性、男をのせる事から、女陰の形が舟に似ているところから (上、阿、張) [会話] グンカンや (だ) 言うの (のです)、前のもん グンカンや (だ) 言うの。ぐんかんばた や (だ) 言うてなあ、ぐんかんばた 三隻 もおけた (産んだ) 言うてなあ。

ぐんかんばら (軍艦腹)【**名詞**】女子のみを、又女子を多く出産する婦人 [会話] 軍艦言うなだ (言うのは)、おなご (女) ばっか (ばかり) もおけると (生むと) グンカラバラ。おなご (女) もおけると。軍艦マーチ 言うやんかい (言います)。

ぐんし (軍師) 【名詞】 いろいろな計画などを巡らす人。策謀を持つ人 軍略家の意 (方言俗語語源辞典) (志 (布施田、甲賀)、鳥 (鳥羽)、員、上、張、阿、名) [会話] グンシ言うのは 賢い人を、あのひたあ (人は) グンシやなあ (だ) 言うやんない (言うでしょう)。それはなあ (それはね) 賢い人を言うの (のです)。なんでも よお (よく) 知っとる人 (知っている人) よおする (よく出来る) 人を あの人 グンシやなあ (だ)。なんでも出来る人を 仕事でも なんでも出来る人。

ぐんしょお (ぐんしゃう) (勳章) 【名詞】 植物 やえむぐら アカネ科つる性の雑草。高さ0.6~1m茎には四稜と逆向きの棘が有る、葉は狭倒披針形で円形の托葉と6~8枚輪生する葉と托葉の縁には逆針先端には刺毛が有る。夏、葉腋から花柄が伸び先の四裂した黄緑色の細花が咲く果実は球形で黒く熟しかぎ状の刺毛が密生する。

ぐんたん 【名詞】 粳穀をいぶして炭にしたもの [会話] 粳、すくも (粳穀) を くすべて (いぶして) 炭 (に) すんの (するのです)。燃やしたると (してよると) 灰 (に) なってくんなし (いくのですし) くすべると (いぶすと) クンタンに なんの (なるのです)。

ぐんちゅういりこみ (郡中) 【俚諺】 各地各方向から集まって来る。多数の人が集まるさま。(志 (布施田))

くんと 来ると

くんど。くんどお やって来る 来るぞ くる 来る 近付く人、物、現象 (阿、張、名) [会話] あんな (彼が) あっちゃ (あちら) から 来る。あんな (彼) やってクンドオ、来る事。行くどお (が) 言うのと、クンドオ 言うのと。行くどお 言うのは 自分が そちらへ 行く時に 言うの (のです)。クンドオ言うのは、くんのを (来るのを) まっとんのを (待っているのを) まあ (もう) 来るやろ (だろう) 思て (思つて) まっとんのを クンドオ。まあ あんな (彼が) クンドオ そやまあ (それ) 三時やよつて ん (だから) 言うて。先生な (が) クンド、先生な (が) 此処へ 来てくれるのをなあ、先生な (が) クンド言うてな、ま、じつきん (すぐに) クンド、まあ 時間やし (だし) 先生な (が) クンド 五分前やんか (でないか) 先生な (が) クンド言うて くんねてや (来るのです) 先生な (が)

くんどく 汲んでおく

くんどけ 汲んでおけ

くんな 来るな (志、鳥、南) [会話] 来たら いかん (駄目) 言う事。クンナ 今日。来るな 言う事 なあ (です)。

くんない 来ます くんにい参照

くんなえ 来るな

くんにい 来ます (志) [会話] クンニイ言うのも 此処い (へ) 来る 言うのなし (です)、クンナイ あやれ (あれ) 言うな 此い (へ) 来る、言うのも クンナイ言うねんなあ (言うのです)。こっちゃ (こちら) 向いてクンナイ あの人な (が) 言うて。此い (へ) くんな (来るな) 言うて、来たら はざん (いけない) のも くんな 言うて、此い (へ) クンナイ、言うて、“い” つけん (る) のおわ (のは) 来る 言う事、来るな、あっちゃい (あちらへ) 行け言うこた (事は) くんな言うて、“い” つけやへんのなあ (いけないのです)。

ぐんにやり 【副詞】 力、勢い、張りが抜けた様 本来の形がくずれ、曲がったり歪んだりしたさま ぐたぐたが、ぐなぐたと転じ更にぐにやぐにやと転じ又ぐにやりにも転じた。(志 (布施田)) [会話] グンニヤリ してたれまあ (していった)、あやあれまあ (あれあれ) なんやら (何か) ものぐさいんかして (気分が悪いのか) えらい (大変) グンニヤリ しとられ (している)。弱った事やなあ (です)、疲れた事やなあ。しゅうと (しゅんと) しとる (している) 事なあ。今日は しゅうたん (落胆・愁嘆) したよおに しとられ (している) グンニヤリと まあ。

くんね 来ます (志) [会話] クンネ言うのも くんない も 一緒やなあ (です) こっちゃい (こちらへ) 来る 言う事やよつて (だから) こっちゃ 向いてクンネ 言うてな、あっちゃ (あちら) 向いて 行くね (行くのだ) 言うてな。

くんねか 来るのか

くんねてや 来るのだ 来るのです

くんねやか 来るのか

くんねやら 来るのか

くんねやれ 来るのだ

くんねやろん 来るのだろう

くんねやんかあ 来るのだ

くんねやんかい 来るのです

くんねやんない 来るのでしょうか

くんねんにい 来るのです。やって来ます。

くんの 来るのです (伊)

くんのか。くんのかい 来るのか

くのかな 来るのですか

くんや 来るのです (安) [会話] クンノヤも、一緒
や (です) くんね (来る)、くんと (来るのです)。

くんやか 来るのだろうか。

くんのん 1) 来ます 2) 来るのに [会話] 2) クンノ
ン、そいな、(そんな) 呼びん (に) 行かんでも言う
てな、此処い (へ) くんねよって (来るのだから) 呼
びん (に) いかんてて (行かなくても) ええわれ (よ
ろしい)、一人クンノン 言うのな (です) 此処い
(に) 来る 言う事をなあ。